

地域活性化伝道師(敬称略・五十音順)

平成24年4月1日更新

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
1	赤上 陽一	あかがみ よういち	秋田県産業技術センター	上席研究員	近年、遊離砥粒研磨技術の高度化によって、半導体技術やストレージ技術に著しい発展をもたらしてきた。赤上は、研磨技術の更なる飛躍を期待して、いわゆる電界砥粒制御技術を発明し提案している。研磨加工上の工具となるスラリーや加工アノード材である潤滑剤の固有な誘電率という特性に着目して、外部より電界を与えることで、それらの配置を制御することで、合理的で高い品位が得られる新しい加工技術を提案し、日本の製造技術の再構築の一端を検討している。この電界砥粒制御技術とはダイヤモンド等の砥粒を分散した機能性流体に交流電界を与えると、電界環境下にて砥粒を含むスラリーが活発に運動することから、スラリーの配置制御が可能な新たな技術として、研磨はもちおん、医療技術、分析技術など多方面に展開中である。まさに日本オリジナルの技術であり、多くの研究者ならびに企業と進展中である。本技術を通して、地域活性化事業への展開を手掛けている。	地域産業・イノベーション・農工商連携
2	秋山 三枝子	あきやま みえこ	NPO法人くびき野NPOサポートセンター	理事長	NPO法施行に併せて誕生した組織の会員拡大、ネットワークづくり、NPOの普及啓発に没頭。1999年からスタートした地元新聞社の紙面提供による週1回のNPO情報発信は、企業とNPOの協働事業を称える“パートナーシップ大賞”の2003年グランプリを受賞。現在もタブロイド版4ページを責任編集。2005年にはNPO全国フォーラムを招致、地元企業60社の協賛を得て“地域の力”を発揮し大成功。2008年5月には念願だった認定NPO法人格を取得し地域資源を循環させる“ぐるぐるプロジェクト”を提唱、寄付文化の醸成を図る。同年11月には10周年を迎え“ビジョン2008”を策定、NPO支援の積極的な目標を掲げ、地域コミュニティの底力をあげ“NPO日本一のまち”を目指す。	まちづくり
3	浅尾 均	あさお ひとし	有限会社 浅尾計画事務所	代表取締役	全国各地における地域振興・観光振興・交流人口の増加などの取り組みについての課題、問題点、疑問に対しての解決策や、それを導き出すためのアイデアの提示、あるいは解決策を導き出すためのアドバイス、ワークショップの支援、コンサルティング、プランニングなどを仕事としております。	観光・交流 まちづくり
4	麻田 信二	あさだ しんじ	学校法人 酪農学園	理事長	酪農学園は三愛主義(神を愛し、人を愛し、土を愛す)と「健土健民」を建学の理念にしています。健康な土から健康な食物が生まれ、健康な人間が育まれることを意味しています。ここから世界に向かって、循環農法、有機農業の重要性を発信していきたいと考えています。	地域産業・イノベーション・農工商連携 農・林・水産業
5	朝廣 佳子	あさひろ よしこ	(株)読売奈良ライフ	代表取締役社長	奈良を活性化させるイベントの企画、運営、実行。すべて市民が中心となって行うものを企画、実行している。なら燈花会は、夏の夜10日間の灯りの祭りで、市民ボランティア延べ4000人で行っている。初年度17万人、6年目で70万人を突破し、現在、夏の風物詩となった。平城遷都祭は、行政が行ってきた祭りを、市民で引き継いだ祭り。こちらは2日間のみだが、2日間でボランティア延べ500人が関わり、9万5千人が来場している。2010年に平城遷都1300年祭で10日間開催(市民ボランティア3500人)を機に、2011年「平城京天平祭」も市民運営で、7日間開催予定。	観光・交流 まちづくり
6	有村 佳子	ありむら よしこ	(株)指宿ロイヤルホテル	代表取締役会長	平成20年度地方の元気再生事業採択「平城版IT湯治」。指宿の旅館に着いたら小型身体計測器を胸部に装着、観光や砂むし温泉等の行動の中で、身体データがコンピューターに送られ、パソコンを通じてストレス等の変化を知ることが出来ます。指宿に滞在しより元気な自分を発見する健康保養型観光の提案です。	観光・交流
7	飯田 耕一	いいた こういち	公益財団法人 ひまわりベンチャー育成基金	顧問	新事業・新技術、新サービスの創出に向けての地方の体制づくり(インキュベーション施設の運営、コーディネーターの活動支援、助成制度創設、企業支援スキームの創設等)	地域産業・イノベーション・農工商連携
8	生重 幸恵	いしくげ ゆきえ	NPO法人 スクール・アドバイス・ネットワーク	理事長	この法人は、「学校教育支援における地域活性化」を目的とする数少ない団体として、注目をされた活動を行なっている。出発時活動の中心は杉並区教育委員会との協働であり、杉並区とは現在も連携を持っている。また、平成15年からは、東京都内各区の教育委員会とも連携したり、さらには全国各地での「学校支援」「地域活性化」のプロジェクトに参画したりして、活動の範囲を広げている。一方、企業の教育支援活動の推進にも助力し、社員研修やフォーラムなどを通して、教育貢献の必要性とその方法などについてアドバイスし、企業の持っているノウハウを学校授業に繋げるためのプログラム作成なども手がけている。	地域医療、福祉・介護、教育
9	池田 真紀	いけだ まき	ヒューマンハーバー・AI / 地域活性化総合研究会	代表	・講演、実際の現場支援等、地域活性化(地域福祉の課題)に関する調査、研究、提案等、企画に応じます。	地域医療、福祉・介護、教育 地域コミュニティ・集落再生
10	石河 智舒	いしかわ ともぶ	ゆずの里かおり村	会長	昭和22年から農業に従事。昭和60年からむらづくりの取組開始(八溝ゆず生産組合を設立し組合長)。平成5年「ゆずの里かおり村」設立ゆずの木オーナー制度開始。<かおり村の主な行事>5月-むらびらき 9月-翡翠祭 11月-収穫祭 <アイデアによる施設等>かおり村役場、お祭り広場、カラオケ小屋、パンガロー、七福神街道、薬草五右衛門風呂、雨乞いの滝、投句箱、有料トイレ等	観光・交流
11	石田 東生	いしだ はるお	筑波大学	教授	・環境モデル都市は、地球温暖化防止対策と地域活性化の一体化を目指す意欲的なプロジェクトです。地域特性にあった、大胆で意欲的なアプローチにより、高い削減目標の達成に向けて13のモデル都市はがんばっています。交通部門も大きな役割と期待していますが、よりよい道路ネットワークの整備、情報技術の活用などの技術的側面とともに、賢いクルマの使い方からコミュニティや都市社会システムのあり方までようなソフト政策まで幅広い見地から検討しています。 ・日本風景街道(シーニックハイウェイ)は、人と人・地域と地域を結ぶ“みち”の力を活用した新しいタイプの道路交通政策です。地域を愛し、良くしたいという熱い思いを持った人たちの協働参画のプロジェクトです。現在、全国で105のルートが登録され、美しい風景、地域資源の発掘とパッケージ化・情報発信、などの幅広い活動が展開されています。	地域交通・情報通信 観光・交流

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
12	伊津田 崇	いづた たかし	(株)アイレック	代表取締役	<p>&lt;まちづくり、タウンマネジメント&gt; 中心市街地活性化協議会や行政等、関係者へのヒアリングを通して抱えている課題を把握し、支援テーマに基づいて協議会設立支援や協議会・まちづくり会社の運営・管理体制強化、事業推進のための勉強会・シンポジウム等の企画・運営・コーディネートを行い、協議会構成員や地域住民等の合意形成や個別事業の具体化等を図る。</p> <p>【長浜市、奈良市、木田市等を支援】</p> <p>&lt;地域ブランド創出支援&gt; 地域資源の発見・発掘を行い、地域活性化への起爆剤となるように育成していくとともに、これらの資源を活かしてまちづくりにつなげていく。</p> <p>【豊岡市、出石そば、湖東地域等を支援】</p> <p>&lt;一店逸品運動等個店活性化支援&gt; 一店逸品運動の推進による個店の品揃えや陳列等の指導を通して、個店を活性化させることにより、SC・商店街全体の魅力アップを図る。</p> <p>【都城市、大和高田市、大和郡山市、尼崎市、神戸市・新長田地区、四万十市、豊田市等を支援】</p>	まちづくり
13	井手 修身	いで おさむ	イデアパートナーズ(株)	代表取締役	<p>※地域の資源(人・モノなど)を編集及び加工し、マーケティング(=売れる仕組み作り)や組織の立上げ、活性化の具体的手法を現場に入って推進します。</p> <p>◆地域資源活用型のビジネス支援と地域活性化</p> <p>具体的には、観光・集客・物販領域のバリューアップとして3つ展開。</p> <p>①まち中回遊、まち歩き等観光交流事業支援、</p> <p>②特産品開発、メニュー開発、農家レストラン立上げ支援、</p> <p>③観光・集客施設の診断・再生、売上向上支援</p> <p>④長期滞在型観光(ロングステイ)の実践サポート、「おとなの長旅・九州」事務局</p> <p>◆また、新しい価値転換・創出の場、人的ネットワーク形成の場『イデア塾』を主宰</p>	地域産業・イノベーション・農工商連携 観光・交流
14	伊藤 数子	いとう かずこ	(株)パステララボ	代表取締役	<p>ユニバーサルコミュニケーションの実現 コミュニケーションビジネス 創業・起業 障害者のスポーツ</p>	観光・交流 まちづくり
15	井上 重義	いのうえ しげよし	日本玩具博物館	館長	<p>◆個人立博物館では全国でも数例の博物館相当施設に認定され、6人のスタッフで運営するが現在まで独立採算で運営し奇跡の博物館とも称される。</p> <p>◆日本玩具博物館は国内屈指の個性的なコレクション群をいくつも持ち、要請されて過去にアメリカ、ブラジル、スイス、ベルギー、中国、韓国などで展示した。国内も博物館などからちりめん細工などの貸し出し依頼を受けて展示、大きな成果を挙げる。来館者は全国各地のみならず海外からもある。</p> <p>◆伝統手芸のちりめん細工の復興に30年前から取り組み、作り手の本を多数出版。全国的な雛の吊し飾りブームの仕掛け人的存在として知られる。材料の明治時代の二越縮緬の再現に取り組み、地場産業振興にも大きく貢献している。</p>	観光・交流 まちづくり
16	井上 将太	いのうえ しょうた	井上地域づくり事務所、ばうむ合同会社	代表、営業部(企画・営業)	<p>○森林・木材を活用した新たな商品やサービスの開発</p> <p>○中山間地域などでの体験型観光のプログラム及び仕組みづくり(廃校活用など)</p> <p>○住民参加のまちづくりに向けての場のプロデュース(ワークショップ運営)</p> <p>○森林・林業分野における産学官連携コーディネート</p> <p>○1次産業分野での環境教育のプログラム開発</p> <p>○各種、セミナー・講演講師など</p>	農・林・水産業 観光・交流
17	井上 弘司	いのうえ ひろし	CRC地域再生診療所	代表執行役	<p>【2011年度業務実績】</p> <p>○子ども農山漁村交流プロジェクト指導講師</p> <p>○JITM研修講師</p> <p>○まちむら交流機構セミナー講師</p> <p>○山形県鮭川村、秋田県利本荘市(総務省地域アドバイザー)</p> <p>○山口県宇部市(ふるさとツーリズム人材育成)</p> <p>○鳥取県鳥取市(過疎振興指導)</p> <p>○国際グリーン・ツーリズムシンポ講師(韓国)、農工商連携人材育成講座講師</p> <p>ほか全国各地での講演活動</p>	地域コミュニティ・集落再生 観光・交流
18	井原 満明	いはら みつあき	長野県木島平村 農村文明塾 樹地域計画研究所	農村文明塾事務局次長 取締役	<p>①農村集落の再生を図るために、ライフスタイルの価値観を変えるグリーンツーリズムと地域の資源を地域で生かすエコミュージアムの融合展開(着地型観光)。②高齢者の手仕事に光をあてた「マイスターショップ」、若者への技術継承を図る「マイスターカレッジ」の構想(年金+α)。③高齢者が中心となってワークショップを開催し、地域や民間など多様な主体で高齢者を支えあう仕組みづくり(高齢社会の地域像)。④ローカル線の活性化と沿線集落の再生を一体化して捉え、各駅を拠点とした駅市や駅カフェの開催、集落でのフットパス(散策路)づくりなどによる地域づくり(個性ある地域づくり)。⑤中心市街地では、周辺地域(農村部)との連携を前提に住民参加協働型第3セクター「まちづくり会社」を提案し、その設立に関わる(持続的なまちづくりシステム)。2010年9月から長野県木島平村農村文明塾(農村における新たな価値の創造)の取組みに参加し、現在木島平村に居住し、活動の拠点とする。2012年2月佐渡市安全安心地域推進プロジェクト事業(福祉版コンパクトシティ)の一環として、講演「大切にしたい地域の絆」、高齢化率40%を超える集落での地域づくりで、子どもや孫、若者を戻すことが大切と訴え若者達が農山村に移っている事例を紹介、終了後のリーダーによる車座討論会で、これからの地域づくりの方向性が見えたと評価される(地域活性化伝道師)。</p>	地域コミュニティ・集落再生 まちづくり
19	今井 輝光	いまい てるみつ	(株)ライフスタイル研究所スタジオ29	代表取締役	<p>地域おこしの指導員養成、観光ガイド養成、特産品のブランディング販促などをライフスタイルを通して総合的に指導する仕事をしている。</p> <p>基本的に実践を重要視している。(現場主義)</p>	農・林・水産業 観光・交流
20	今村 まゆみ	いまむら まゆみ	街づくりカウンセラー		<p>14年間にわたる国内旅行雑誌「じゃらん」の編集経験をいかし、その土地ならではの魅力ある資源や切り口を発掘し、観光素材へと仕上げ、戦略的にマスコミにPRすることを得意とする。トレンドを意識しながら、消費者やマスコミの心をつかむ「中身」「言葉」「仕掛け」にポイントを置き、地域ブランドの構築、観光資源の開発にかかわるアドバイス、組織づくり、セミナーや講演などに取り組んでいる。</p> <p>【2011年の主な実績】</p> <p>・東京都青梅商工会議所「御岳山お犬様活性化事業」でペット同伴客に関する調査および集客のための施策を実施。</p> <p>・愛媛県保内町商工会「ほないハイカラ物語事業」で明治の町並みをいかしたトライアルツアーを実施。</p> <p>・北海道清水町「新キャラクター制作事業」で5名の中学生を含むメンバーとともに、地域資源の特定および、イメージキャラクターの制作を行った。</p>	観光・交流 まちづくり

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
21	岩佐 吉郎	いわさ よしろう	(財)日本交通公社	研究主幹(観光政策相談室長) 名城大学寄附講座教授(観光政策)	(財)日本交通公社は、1963年に旅行部門を株式会社日本交通公社(現:株式会社JTB)に分離して以来、全国の観光地の魅力づくりと観光関連産業の健全な発展、およびそれを通じた地域活性化への貢献を目的に活動を行っている公益法人です。我が国では数少ない旅行・観光レクリエーション・リゾート分野におけるシンクタンク・コンサルタントという専門性は、高く評価されています。当財団内「観光政策相談室」では、地方自治体および観光関連団体の皆様の観光振興に関するご相談をお受けして、それに対するアドバイスをさせて頂いております。観光地の魅力づくりや旅行マーケットの動向等観光振興に関する問題をお気軽にご相談ください。	観光・交流
22	岩崎 徹	いわさき とおる	株式会社アイター	代表取締役社長 兼最高経営責任者	ITソリューション(特にソーシャルメディア)を活用した地域コミュニティの活性化(つながりをつくり、続けること)を推進する。47都道府県約1万5000件の体験プログラムなど地域発観光情報を提供するポータルサイト『チキタビ(地域ならではの旅、の意)』を主催・運営。地域の「つながり」により、多世代連携、異業種連携、事業創出を展開し、志向性の明確な消費者と地域との関係作りを行う。観光による地域活性化を民間事業者の視点で観察し、「ニーズからシーズ(地域資源)を再発見する」がモットー。さらに、「消費者と地域住民が一緒に行う地域づくり」を国内各地で実践。サイクリスト(自転車愛好者)とともに地域づくりを行う「多摩、自転車の聖地プロジェクト」、インターネット上で集まったボランティアによる被災地応援アクション「ひと手ひと声プロジェクト」を主催し、月イチボランティアを継続して実施している。	地域コミュニティ・集落再生 地域交通・情報通信
23	臼井 純子	うすい じゅんこ	(株)富士通総研	エグゼクティブコンサルタント、PPP推進担当理事	・地域活性化にかかわるさまざまな事業について、経営視点から事業の構築、プロモーション、継続的な運営手法についてアドバイスをおこなっています。 ・地域の資源「ひと、もの、金、情報」の有効な活用方法、人材発掘と育成など、その地域の特性を活かした地域活性化策(観光、産業振興、移住・交流など)を、地域の住民とともに、地域に根付くやり方で実施していくことを何より大切にして、取り組んでいます。 ・地域の事業者の「家業」をどう「企業」まで底上げしていくか、経営のイロハについてわかりやすく指導・育成を実施しています。	地域産業・イノベーション・農工商連携 観光・交流
24	内田 勝規	うちだ かつのり	(株)オフィス内田	代表取締役会長	<p>《講演記録》</p> <p>北海道経済同友会、中小企業家同友会、経営合理化協会、北海道庁、鹿児島県、各地商工会、帯広信金、北海道銀行、福岡銀行、楽天、目白大学など</p> <p>《講演テーマ》</p> <p>地域ブランドについて、売れる物作りについて、食の可能性と課題、首都圏の顧客ニーズについて、北海道物産展に見る地域ブランド</p> <p>《マスコミ紹介記事》</p> <p>&lt;テレビ&gt; 日本テレビ『リアルタイム』『秒ヨミ』『ズームインスーパー』『ズムサタ』『スッキリ』 テレビ東京『ルビコンの決断』『日曜ビッグバラエティ』『グルメ魂』 『戦士の逸品』『ワールドビジネスサテライト』 NHK『クエスタ』 BSフジ『プライムニュース』、NHK、テレビ朝日、TBS各番組 北海道各局『HBC』『STB』『HTB』『UHB』『TVH』 日本経済新聞、朝日新聞、日経MJ、北海道新聞、十勝毎日新聞 フォーブス、週刊ダイヤモンド、日経トレンディ、知知、戦略経営者 ストアーズレポート、クオリティ 新潮社『旅』(連載中)</p>	地域産業・イノベーション・農工商連携 農・林・水産業
25	梅津 覚太郎	うめづ かくたろう	目黒のさんま祭 気仙沼実行委員会	企画部長	平成8年に市民団体「次代を創る会」が古典落語の「目黒のさんま」をヒントに「目黒区民に炭火で焼いた美味しい気仙沼のサンマを振る舞いたい」として酒落の気持ちも込めて市民有志を募り、目黒区田道住地区区住民の協力を得て目黒区三田公園で「第1回目黒のさんま祭」を開催。気仙沼から焼き手がゼロ泊3日の強行軍で約40人が参加し、気仙沼のサンマを炭火で焼いて無料で振る舞った。翌年の第2回目からは市内の市民団体、経済団体、行政、市民有志による実行委員会体制を確立し、22年には第15回目となった。現在は気仙沼から焼き手がゼロ泊3日の強行軍で約80人が参加し、さらに東京在住の気仙沼出身者なども参加し、気仙沼のサンマ5千尾を炭火で焼いて無料で振る舞っている。また、「サンマすり身汁」や「さんま寿司」、「さんまのつくだ煮」を始めとする気仙沼の物産も販売している。郷土芸能として太鼓団体の演奏を行うとともに、子ども広場では気仙沼の海水を使った「塩づくり体験」や「ホタテ貝アート」のほか「水の水族館」も展示している。この間、12年の第5回からは受け皿が、目黒区と「目黒区民まつり」になり、会場も目黒区田道広場公園となり、区民まつりの中の「目黒のさんま祭」となった。また、11年の第4回からは大分県と臼杵市のカボスが参加し、カボスと炭火焼きのサンマのコラボが確立した。このような気仙沼市民と目黒区民の草の根交流をきっかけに、目黒区内の中学生が体験旅行や修学旅行に気仙沼大島を訪れるようになり、さらに行政や議会の交流も始まり13年には気仙沼市と目黒区が「災害時相互援助協定」を締結し、22年には「友好都市協定」が締結された。「目黒のさんま祭」は気仙沼市民と目黒区民の草の根交流を基本としながら、全国有数水揚げを誇る気仙沼港の「さんま」をツールに漁港気仙沼と目黒区のさらなる水産基地と都市間の交流の拡大を期待するものです。	観光・交流
26	江戸川 泰路	えどがわ たいじ	新日本有限責任 監査法人	戦略マーケティング事業部 パートナー 公認会計士	大学の研究成果を社会に還元する上で、企業と大学のギャップを埋める役割を果たすこととなる大学発ベンチャーの存在は極めて重要と考えています。大学によるベンチャー支援の質向上をサポートし、かつ、大学発ベンチャー自体の経営をサポートするのが私の活動です。会計、株式公開(IPO)、内部統制、組織変更、組織法制といったキーワードが専門領域ですが、これらの知見を活かして、ソーシャルプロジェクトをプロデュースするNPO法人cut-jp( <a href="http://cut-jp.org/">http://cut-jp.org/</a> )に理事として参画し、地域活性化等の社会問題解決にも取り組みはじめています。	地域産業・イノベーション・農工商連携

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
27	榎田 竜路	えのきだ りゅうじ	合同会社アースボイスプロジェクト	代表社員	<p>■人材育成 「すみだ・まち映像プロデューサー講座」…2010年1月より開始。12年2月には、第4回まで終了、現在約40名のグローバルメディアプロデューサーが育っている。 「地域メディアプロデューサー養成講座」愛媛県：企画、講師…地域のリソースをどのように発信し、多くの人の共感を得ることができるのか。情報運用の手法「序破急モデル」により情報の効果的な運用方法を指南し、地元愛媛の17名のプロデューサーを育成。 「映像情報士及びグローバルメディアプロデューサー資格制度」各地…「すみだ・まち映像プロデューサー講座」受講生などの受講後のフォローアップ、ステップアップを行っている。</p> <p>■情報運用のプロデュース、映像制作 「Osaka Chaos【大阪ケイオス】事業」大阪府：企画、プロデュース…大阪のものづくり企業の情報戦略基地として10年5月に発足。第1陣参加企業10社の映像制作(序、破)を実施。今後映像制作/配信、地元での人材育成を行いながら在阪のものづくり企業の情報運用力向上を図る。</p> <p>■世界に向けた出口戦略、国際共同制作 「Tokyo Downtown Cool Media Festival」開催 東京/墨田区…ものづくり推進会議との共同主催で10年11/26-28開催。東アジアの若手作家群によりJapan Coolを発見させ、日本各地のキーパーソンに高圧電流を流し、東アジアの映像教育機関との連携を図り持続的なJapan Coolのグローバルコンテンツ化を図る。</p> <p>■「復興支援メディア隊」創設 2011/3/11の東日本大震災後、被災民の中長期的な復興を支援する情報システムの構築をサポートし、風評被害の影響を軽減する情報の制作配信及び人材育成、未来の日本の教科書となるような映像をアーカイブ化し世界に発信している。</p>	地域コミュニティ・集落再生 観光・交流
28	大谷 鮎子	おおたに あゆこ	NPO法人九州キラキラみなとネットワーク	理事長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球環境とエネルギー問題</li> <li>・みなとまちづくりと女性の参画</li> </ul>	環境 まちづくり
29	大塚 浩二	おおつか こうじ	(財)漁港漁場漁村技術研究所	調査役	<p>1983年より、全国の漁村を廻り漁村活性化に向けて住民参加の「みんなで漁村づくり」を実践。漁村活性化のためには「漁港づくり」、「漁村づくり」とともに「人づくり」の重要性を認識し、現場に出かけ漁村に関わる人々との話し合いを展開。 2002年より「都市と漁村の交流による漁村の活性化」について調査研究するとともに、都市漁村交流推進協議会を発足し事務局を務める。2003年「都市と農山漁村の共生・対流(通称:オーライ! ニッポン会議)」の設立と同時に同団体連絡会のメンバーとなり、都市漁村交流による漁村の活性化を全国に展開。 2005年より地震・津波災害を受けやすいという立地条件・社会条件をもつ漁業地域の災害対策に取り組み、2011年3月11日に発生した東日本大震災で被災した漁村を自らの足で廻り、漁村に住む多くの現地踏査するとともに、漁業地域の復興に取り組んでいる。</p>	地域コミュニティ・集落再生 観光・交流
30	大西 育子	おおにし いくこ	女性みなと街づくり苦小牧	代表	<p>設立当初より女性の視点をモットーに取り組む。 未来を担う子供達と共に歩く目線と、街から港へ「みなとウォーク」、「幼稚園児によるみなと写真会」、「みなと絵画展」、「ボートウォチング」、港にぎわい創出花いっぱい活動(フラワーボット設置)等々。</p>	地域産業・イノベーション・農工商連携 観光・交流
31	大宮 登	おおみや のぼる	高崎経済大学	副学長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織における実務的な能力開発や自己啓発、地域に根ざした住民主体の参画型地域づくりを研究。</li> <li>・地方分権時代の地域リーダーとなる人材育成を目指し、教育・研究・地域貢献に携わっている。</li> <li>・若者社会活動NPO法人DNAを2004年に設立。コミュニティ放送、まちづくり事業、ジョブカフェ事業など多彩に活動中。</li> </ul>	地域コミュニティ・集落再生
32	岡崎 英人	おかざき ひでと	(社)首都圏産業活性化協会(TAMA協会)	事務局長	<p>経済産業省実施の産業クラスター計画の推進機関として、広域多摩地域(埼玉県南西部・東京都多摩地区・神奈川県中央部=TAMA地域)が世界有数の環境に配慮したものづくりの新産業創出拠点となることを目標に掲げ、TAMAのポテンシャル(多数の優秀な中小企業や理工系大学の集積など)を活かして、産学官に金融を加えた人的ネットワークの構築・活用(TAMA協会には約150名の登録コーディネータがおります。)と企業の新事業創出活動を支援する施策の立案・実行を進めています。 特に、最近では、日本の他地域との「広域的な連携」や、市場に大きなインパクトをもたらす研究開発・技術開発につなげるための「大手企業との連携」、市場として魅力がある中国を初めとしたアジアにおいて、「アジア企業との連携による販路開拓」支援等の事業に注力しています。</p>	地域産業・イノベーション・農工商連携
33	岡崎 正信	おかざき まさのぶ	オガールプラザ株式会社	代表取締役	<p>現実を見据え、本当に市民のため、またその将来を担う子供を含めた町の資産になるまちづくりの観点から紫波中央駅という、岩手県紫波町にとってのキーともなるべき場所を開発し、付加価値を付ければ価値そのものを増大させられる筈だ、という大きな命題からオガールプロジェクトが2008年にスタートしました。これは市民による市民の為の町の将来を担うプロジェクトであります。 世界中の成功した地方再生プロジェクトに共通するキーワードは二つ。消費目的ではない人が集まる場所を創造すること、そして市民の財産である土地を有効活用できるファイナンスの構築、この二つであるところを、公と民の役割分担を明確にし、PPPIによるまちづくりを実践しています。</p>	まちづくり
34	岡田 昭人	おかだ あきと	(社)コミュニティネットワーク協会 早稲田大学都市・地域研究所	常務理事 客員研究員	<p>埼玉県上尾市の密集住宅地再生事業においては(連鎖型の共同建替えの4プロジェクトに関わり、その後墨田区向島地区の密集住宅市街地でのまちづくり活動や鳥取市中心市街地での老朽化した防火建築帯のコンバージョン・リノベーションに向けた修復改善型の整備計画策定に携わっている。 近年は福祉、医療関係者と連携しながら、高齢者の住居・生活改善支援及びLLPやLLCを立ち上げ、住まいづくりの主体づくりの支援をしている。また社団法人コミュニティネットワーク協会が運営するコミュニティファンド研究会で、新しい市民ファンドの仕組みに向けて調査・研究、提案を行っている。 花巻市東和町では、商店主や高齢居住者が地域で支え合いながら暮らすための共同店舗や住まいづくりを様々な制度を活用した共同建替え事業支援やエリアマネジメントを志向するまちづくり会社を支援しながら、空き地空き家を活用した美術館や自律的財源を確保するためのまちづくりファンドの組成など地域再生に向けての実践活動を行っている。</p>	地域コミュニティ・集落再生 まちづくり

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
35	岡田 基幸	おかだ もとゆき	財団法人上田織 維科学振興会	理事 事務局長	地方における新事業創出、新産業創出は、日本の急務の課題ではありませんが、未だ多くの課題を抱えているのが現状です。また、地方では、首都圏・大都市圏の成功モデルの単なる真似ごとだけでは解決できないことが多く、地方都市独自の事業創出、新産業創出への仕掛け・取組みが必要です。 上田市産学官連携支援施設(浅間リサーチエクステンションセンター(AREC))は、信州大学との産学官連携による新事業創出、新産業創出を目指し、上田市が文部科学省の研究交流促進法の認定と経済産業省の補助金を受け、2002年に信州大学内に設置した施設です。早や8年を経過し、地方都市発の数多くの新事業が生まれてきております。さらには、「設置以来満室」「地域中小企業180社超の有料制会員組織の構築」「事務局少人数体制」により、設置主体の公的支援にたよらない自立運営を可能にしております。「地方」という厳しい環境下ではありますが、人材をはじめとした地域の素材をじゅうぶんに活かして最高のパフォーマンスを出し続けています。	地域産業・イノベーション・農工商連携 まちづくり
36	岡部 友彦	おかべ ともひこ	コトラポ合同会社	代表	地域に即したビジネススタイルを模索し実践することにより、人の輪づくりや街のイメージづくりなどのコづくりを主体として、持続的な活動を行っている団体です。「コト」といっても様々なタイプがありますが、私たちが行うコトは、価値観を変えるためのコトから経済活動としてのコトまで、色々なコトを創り出していきます。具体的には、空き部屋を改装して国内外からの旅行者が泊まれる安宿「ココハマホテルヴィレッジ」を運営していたり、プロモーション映像制作、まちづくりコンサルティングなどがあります。 ココハマホテルヴィレッジ 簡易宿泊所の空き部屋を有効活用し、街に新たな人の流れと活気を創り出していくことを目的とした安宿事業です。国内外問わず、様々な人達がこの街を訪れるようになり、街の環境を変わり始めた。あくまで、空いている部屋をホテルと活用しており、現在では、2棟の簡易宿泊所を提携、約30部屋をホテルとして活用しています。世界中から様々なツアーリストがやってくることで、ここには、人の輪・コミュニティが生まれている。昨年からは、毎週金曜日には、フロントでアーティストがランチカフェを行うなど、様々な形で人流れが生まれ始めています。	観光・交流 まちづくり
37	小川原 格	おがわら ただし	(株)藪半	代表取締役	平成16年、国土交通省第6次観光カリスマ選定 平成18年後志地域総合情報誌(BYWAY)後志発刊委員会・代表 平成19年、《有限責任中間法人・しりべしツーリズムサポート》設立・理事 平成19年小樽市観光プロジェクト推進会議委員 平成19年内閣官房都市再生本部地域活性化ナビゲーター 平成19年経済産業省・地域中小企業サポーター	まちづくり
38	奥村 伸幸	おくむら のぶゆき	㈱おおい観光 サービス	代表取締役	環境保全のため、高山植物を中心とした定点観測 まちづくりに必要な人材の育成 地域住民を巻き込んだ協働事業の企画・推進 地域企業に対するCSRの啓発	環境 まちづくり
39	小野塚 喜明	おのづか よしあき	しおざわ版ダツ シユ村	村長	四季通して農業と観光の結び付きをツーリズムへのろしプロジェクトでは自立型事業へ 産業廃棄物処理場計画から環境モデルへ 各地へ講演活動	地域産業・イノベーション・農工商連携 地域コミュニティ・集 落再生
40	折谷 久美子	おりたに くみこ	NPO法人 スプリングボード ユニティ21	理事長	地域の人や行政の人、様々な人と協力しながら、人づくりまちづくりを通じて、住んでいる人も訪れる人も函館のまちを好きになってもらいたいと活動しています。○みなとまちづくりの活動では、函館イカマイスター取得により函館市の魚であるイカの出前講座に力を入れています。○おもてなしの気持ちをこめて、国道5号函館新道、道道函館空港線、JR函館駅などで植栽維持活動を春から秋まで実施、函館新道の活動では、平成22年5月「全国みどりの愛護功労者国土交通大臣表彰」受賞。○手作りキャンデルで道路沿線を飾る「シーニックdeナイト」、参加体験型の「はこだて光の小径」を立ち上げ、地域一体となって冬の函館観光を楽しく盛り上げています。	まちづくり
41	甲斐 寛人	かい ひろと	ランドブレイン株式 会社	都市・政策グル ープ主任	中心市街地商業活性化アドバイザーとして、中心市街地活性化基本計画の作成、中心市街地活性化協議会の運営に関するアドバイス等を行う。また、中心市街地タウンマネージャーとして現場における実践的な活動も行う。また、商店街活性化アドバイザーとして、商店街の活性化に関するアドバイスも行う。	まちづくり
42	海津 ゆりえ	かいづ ゆりえ	文教大学国際学 部	准教授	地域づくりについては次のチャンネルで関わっています。 1. 日本エコツーリズム協会:エコツーリズム推進地域への支援、人材育成講習、協会所属メンバーを伴う集団研修 等 2. 学生参加型・地域調査やモニターツアー、調査実施等 3. 日本観光研究学会:学会員グループによる調査・アドバイス等 4. コンサルタントの経験をもとにした下記アドバイス 等 ①地域の宝の掘り起こしと発信支援 ・学生や観光研究者などによるモニターツアーを通じた地域の宝の掘り起こし、評価 ・着地型観光プログラム作りにもつた宝探しの進め方や実施、発信ツール作成支援 ②エコツーリズムに関わる普及、開発、人材育成等支援 ・エコツーリズムに関する基本的考え方、各地事例等の普及 ・エコツーリズム推進法に則った地域づくりを進める自治体への支援、アドバイス	地域コミュニティ・集 落再生 観光・交流
43	柿崎 邦雄	かきざき くにお	元気な街づくり コンサルタント	代表	○改正街づくり三法による街づくり ・基本計画策定に関する取り組みへのアドバイス ・法定協議会及び街づくり会社設立に関する取り組みへのアドバイス ○改正街づくり三法に基づかない街づくり ・街づくりへの基本的な取り組み方法へのアドバイス ・ソフト・ハード事業の取り組み方法へのアドバイス ・人づくりから始める街づくりの取り組み方法へのアドバイス	地域コミュニティ・集 落再生 まちづくり
44	鍵屋 一	かぎや はじめ	板橋区役所	福祉部長兼危機 管理担当部長	・自治体職員として、廃棄物条例、防災基本条例の起草。地域防災の基本書を目指した「地域防災力強化宣言」を出版。防災関係の講演、自治体職員向け研修など多数。 特に、全国各地で災害時要援護者支援とまちづくりの連携について話す機会が多い。 ・NPO理事として、「日本耐震グランプリ」など防災関係のイベント多数。最近では東京ののちのポータルサイトの「新大生学生のみなさん、地震に強い部屋に住もう」キャンペーンがNHKで取り上げられる。 ・福祉施設、特別支援学校等の事業継続計画(BCP)作成支援活動を実施中。	地域医療、福祉・介 護、教育 まちづくり
45	角田 周	かくた しゅう	企画集団ラブリ ー 金木	代表	地域を愛する勝手連のボランティア活動中です。主な活動は、地吹雪トレッキングとストーブ列車車内サービス。冬季中心の活動で、台湾からの誘客を積極的に図り、来年からは香港、中国本土からの雪に憧れる人々を受入。今年度からは、通年観光を手掛け、様々な旅行商品を開発中。	観光・交流

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
46	梶川 貴子	かじかわ たかこ	(株)ウェルネス・アリーナ	代表取締役社長	スバ養生プログラムを立案し、ホテル・環境保全NPO.地産地消を推進する農家と連動し、健康増進プログラムを推進。軽井沢プリンスホテルで行っているデトックスステイブランは昨年で1200名の参加数を突破し、今年度から軽井沢・東京昭島の2か所に拡大予定。地域の天然資源を活用した商品化を進めており、現在久米島の海洋成分、軽井沢のハーブを使った商材を商品化している。	地域産業・イノベーション・農工商連携 地域医療、福祉・介護、教育
47	春日 隆司	かすが たかし	下川町役場 (北海道)	地域振興課長	森林バイオマス活用による地域振興、二酸化炭素吸収・削減クレジット創造、森林クラスター創造、包括的資源管理マネージメント、その他地域振興、まちづくり全般	地域産業・イノベーション・農工商連携 まちづくり
48	春日 俊雄	かすが としお	荻ノ島 かやぶきの里	荻ノ島ふるさと村 組合長(兼 荻ノ島自治振興会長)	1988年から地域住民と協働して、地域のビジョンづくり及び実践、純産品マーケティング、人材養成、イベントづくりを行政職員として主導・自ら実践。交流観光施設「じよんのび村」、「茅葺の里」などに取り組み交流人口を3万人から23万人に伸ばした。その後も、特色ある集落振興ビジョンづくりや中山間地域直接支払い制度事業に取り組み。また、市町村合併後の広域観光まちづくり「柏崎市七街道観光まちづくり事業」を観光交流課長として主導し、地域住民と協働で取り組む。新潟県中越沖地震の発生による観光客対応から観光復興までを取り組み。平成2011年度山形県小国町観光協会等の依頼により「観光・交流に係る助言・指導」、広島県安芸太田町の依頼により「協働の地域づくりに係る助言・指導」及び地元の「住民の起業に係る助言・指導」に取り組む。	地域コミュニティ・集落再生 観光・交流
49	片岡 由美	かたおか ゆみ	財団法人中小企業 診断協会東京 支部城南支会	会員	自立的に地域振興を実践していこうとする方々の肩を押すことをモットーとして活動しています。主な活動範囲は、 ①「まちづくり」に関すること→ 中心市街地活性化、イベント企画・実施、ワークショップ ②「商業活性化」に関すること→ 商店街・個店コンサルティング、商店街青年部勉強会の実施、創業セミナー・相談、空き店舗対策 ③「食」に関すること→ 地域産品などの開発、人材育成(特に女性)、農林水産省地域資源・ブランド支援研修	まちづくり
50	勝本 吉伸	かつもと よしのぶ	オフィス シンセ アン	代表	農産物直売所の出荷者や運営者、行政関係者を対象とした講演が年間100回以上に上る。また、販売額の低迷している直売所に対する経営改善や農産加工品の開発支援等を目的とした各地の直売所の訪問が、年間数百か所を数える。講演や直売所の訪問では、直売所の責任者であった実経験と知識を生かし、現場に密着したコンサルティング業務と身近で具体的な情報提供に重点を置いている。 ＝平成23年度活動実績＝ 愛媛県八幡浜市からの依頼により(国経由)、試験的に運営されている直売所の問題点の指摘と、具体的な方向性の提示。また、ミカン栽培農家の後継者グループに対し、直売による経営改善の可能性と対策等を提案。	地域産業・イノベーション・農工商連携 農・林・水産業
51	加藤 慎一郎	かとう しんいちろう	(株)加藤地域政策 プロデュース	代表取締役	主な活動分野は、 (1)中心市街地活性化協議会の設立・運営 ・まちづくりの司令塔として期待される中心市街地活性化協議会の設立・運営のあり方 (2)まちづくり会社の設立、収益性の強化、経営指導 ・まちづくり会社の体制、人材、専門的能力、資金基盤、外部連携の強化、事業計画の策定 (3)中心市街地活性化プロセスの発展段階推進 ・計画づくり、組織づくり、まちづく主体の起点強化及び個別事業構想の具現化 (4)テナントミックス、店舗活性化 ・中心商業集積において必要とされるマグネット機能の強化、開発 ・業種、業態施設及び規模等の最適な構成と配置整備	まちづくり
52	加藤 博	かとう ひろし	(有)ピーエム オー(PMO)	代表取締役	商店街のソフト事業を現場の立場から一緒に取り組み、行政・会議所(商工会)・商店街・業者と連携し推進する。2・6・2の原理、商店街・地域個店の80%は赤字経営、20%は収支トントンと言われているが20%のやる気・本気・危機感で意識改革が出来、存在価値を示す事が出来る！実例を通じて事業展開・運動を図る。	観光・交流 まちづくり
53	加藤 文男	かとう ふみお	株式会社とみうら (枇杷倶楽部)	取締役	地域産業と文化の振興、情報発信基地を目指した「道の駅とみうら・枇杷倶楽部」の初代駅長として、計画の立案から、開設後の運営管理に12年間にわたって取り組みました。その間、事業効果を高めるため、特産の枇杷を活用した商品開発や、集客資源を束ねて誘客する「一括受発注システム」を稼働させ、地域経済を拡大させるとともに、自治体が全額出資した道の駅の運営法人の黒字経営を維持させました。さらに、人形劇などの地域文化の磨き出しや、インターネットを活用した広域情報の発信による地場産業振興など、多角的な手法で広域的な地域振興を進め、観光客の増加と標準化、約60名の雇用の創出をもたらしました。近年では、道の駅による地域活性化の開発途上国への応用のため、タイ、ベトナムでの活動を続けています。	観光・交流
54	加藤 誠	かとう まこと	株式会社ジェイ ティービー	旅行事業本部 地域 交流ビジネス統 括部長	近年ツーリズム産業を取り巻く環境は急速に変化しており、従来型のツアースタイルではマーケットニーズに応えることは不可能である。旅行会社が主導してきた発地型のマストツーリズムから、地域社会が主体となる着地型のニューツーリズムへと時代が移りつつあり、暮らしや文化など地域固有の魅力を生かした旅の創出が求められている。JTBグループでは、「交流文化産業」という新たなドメインで、国の成長戦略と位置づけられた「観光」を基軸とした交流人口増大による地域活性化を推進しており、2007年よりJTB地域交流ビジネスを立ち上げ、全国にて地域活性化事業を展開している。具体的には、これまで培った旅行・観光分野の知見を最大限に生かし、地域行政・住民を巻き込んだネットワークの構築、地域魅力を生かした旅行商品の開発・流通支援、地域ブランディング、観光まちづくり、など、地域の皆様とともに地域視点での取り組みを全国各地で進めている。	観光・交流 まちづくり
55	加藤 恵正	かとう よしまさ	兵庫県立大学 政策科学研究所	教授兼所長	都市空間構造変化やラスト・ベルトと呼ばれる衰退する産業空間の再編・再生メカニズムの解明、また都市・地域再生に大きな役割を果たす新しい主体としての社会企業・コミュニティ・ビジネス等の発展に関わる理論・政策等を研究対象としている。阪神淡路大震災からの復興に際しては、エンタープライズゾーン設置やコミュニティビジネス創出の提案を行った。	地域産業・イノベーション・農工商連携
56	金井 啓修	かない ひろのぶ	(株)御所坊	代表取締役社長	・「温泉観光を核にしたコミュニティビジネスでまちのブランド力向上と活性化を進めるカリスマ」 ・個人客をターゲットとした個性的な宿づくりに成功したばかりではなく、まちづくり全体を考えた集客の仕掛けづくりに取り組み、有馬の住民が温泉観光をまちづくりとあわせて考えようとする意識改革に大きく貢献した。	地域産業・イノベーション・農工商連携 地域交通・情報通信

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
57	金丸 弘美	かなまる ひろみ	(有)万来社	食総合プロデューサー 食環境ジャーナリスト	食総合プロでユーザーとして食からの地域づくりを提唱。地域調査を行い食材のテキストを作成して、環境、栽培法、品種、歴史、加工法などを明らかにし、料理展開までを行う、食のワークショップ(参加型講座)を開いている。行政、農業、漁業、栄養士、商店、料理家の横断組織で地域の連携をはかるとともに、地域の食の個性をきわだたせる手法を学ぶ。ワークショップは学校では教室で行うものもあるが、地方では地域の景観、歴史的建造物を開放して行うことも実施。地域パーソナルをうまくみせる方法を展開し、観光、町づくり、新しい料理展開、ブランド化に繋がる形を行っている。またテキストを作成することで、一般の人たちに食の安全、食育として文化の継承がわかりやすく伝わるということを配慮している。さらにワークショップの計画を早くから作成しマスコミに運動させる有効なプロモーションを展開を行っている。これまでに開催したワークショップは200回以上、マスコミの露出は1000以上を超えている。	農・林・水産業 観光・交流
58	柘沢 孝子	かばさわ たかこ	八戸みなとまちづくり市民フォーラム (みなとまちづくりマイスター)		* 東北観光博地域案内人(一新たに活動が加わりました。観光復興キャンペーン) * 国際交流活動 * まちづくり学習会、フォーラム実施、フィールドワーク、ワークショップ * コミュニティビジネス * 地域の魅力情報発信(ラジオ番組企画制作、市民が選ぶ葉書用写真コンテスト) * 観光マップ作成(H19年度内閣府地域活性化事例研究事業) * まちの賑わい創出事業 * 各種交流イベント、協働のまちづくり事業など企画実施 * 女性メンター	観光・交流 まちづくり
59	加森 公人	かもり きみひと	加森観光(株)	代表取締役社長	北海道留寿都村の破綻したスキー場を、我が国でも有数のリゾート施設に成長させたのを皮切りに、日本のみでなく海外でも、リゾート再生事業を手がけ、数多くの成功を収めている。財政破綻した北海道夕張市の観光施設等の運営を引き受け、経営を軌道に乗せている。	観光・交流
60	唐橋 宏	からはし ひろし	(有)會津きり屋	代表取締役	1991年に会津地方の幅広い関係者の参加による「会津そばトピア会議」を設立し、「日本一のそばの郷づくり」を合言葉に多彩な活動を展開することによって、会津そばの地域での広がりや全国的なブランド化に努める。また、そばの栽培面積も飛躍的に拡大するとともに、そばを核とした観光事業や地域間交流事業を積極的に展開。	地域産業・イノベーション・農工商連携 観光・交流
61	河合 進	かわい すずむ		観光カリスマ	主な活動 自治体、商工会等都市と農村の交流に関する地域振興事業に私の体験活動を中心に現場案内や講演会を行っている。	観光・交流
62	川口 真	かわぐち まこと	標津町役場 (北海道)	企画政策課長	食中毒の風評被害によって、地域経済が危機に直面した事から、万が一にも食品事故を起さない取り組みとして、漁場・市場・加工・流通までを一貫した浜の高度衛生管理システムの「地域ハサップ」を樹立して、11年を経過。今や「地域ハサップ」は町の誇りや魅力として、鮭や帆立貝のブランド化に大きな貢献をしている。又、この活動を消費者に知らせるために、漁港などの生産現場を開いて消費者への「観光体験の拠点」としての活用を図った「標準版エコツーリズム事業」を創設し、鮭の荷揚げや水産加工などの産業現場体験や漁業者との交流を中心に、農業も含めた産業や生活、自然など町の足元にあった「何気ない地域資源」を「体験観光素材」として磨き上げ、町民ボランティア観光ガイドの養成と組織化の融合によって、今や20校余りの修学旅行が関東・関西方面から訪れる「目的観光地」として成長した。これは、生産現場を開くという「産業の観光化」によって、「観光が産業化」したものである。	地域産業・イノベーション・農工商連携 観光・交流
63	川崎 克寛	かわさき かつひろ	E-planning つなプロ気仙沼	代表	2010年より内閣府地域社会雇用創造事業(ソーシャルビジネスネットワーク大学四国キャンパスのインターンシップ事業)のメンターとして関わり、四国の学生と地域企業とのマッチング・コーディネート活動に携わる。 また、四国経済産業局主催の企業向けセミナーにおいて、コーディネーターとして参加。 2011年3月から、東北での支援活動「つなプロ」に参画し、エリアマネージャーとして、現地に地域住民の生活サポート、ボランティアスタッフのコーディネート活動のほか、同年6月より、ソーシャルビジネスネットワーク大学四国キャンパスの復興支援インターンシップ事業である、岩手県陸前高田市で行われたT-ACT事業にも参画し、現地ディレクターとして、50名を超える学生を受入れ、地域再生プロジェクトのコーディネート活動を行っている。	地域コミュニティ・集落再生 まちづくり
64	河崎 妙子	かわさき たえこ	(有)河崎妙子事務所	代表取締役社長	有限会社 河崎妙子事務所はコンセプト作り、店舗レイアウト、メニュー開発、スタッフ教育、広報活動など、1店舗を立ち上げるためのノウハウを提供。特に女性の立場から見た店舗のプロデュースやメニュー開発を得意としています。主な活動範囲は、 ①「食」に関すること→食材研究、商品開発、人材教育、料理講習会の実施等 ②「観光・交流」に関すること→コンセプトに合わせた商品開発、店舗の立ち上げ等 ③「学び」に関すること→食材研究、ワイン、チーズ、スパイス等の使い方や知識についての勉強会を実施、薬膳料理の勉強会等、各地の食材を生かした幅広い講習会を実施	地域産業・イノベーション・農工商連携 まちづくり
65	かわべ まゆみ	かわべ まゆみ	NPO法人 結まるプラス	理事長 マーケティング・プランナー	①コミュニティ・ビジネス開発支援 ②地域マーケティング、特産品開発 ③地域のICT化促進、ネット通販 ④観光・交流促進、田舎ツーリズム ⑤定住促進、田舎暮らし、空き家バンク ⑥無人駅の活用 ※平成23年度 地域活性化伝道師としての活動 ○2月10日(金) 奈良県吉野町「笑顔あふれる協働のまちづくりセミナー」講師 演題: 地域を元気にするコミュニティ・ビジネス	観光・交流 まちづくり
66	菅家 洋一	かんげ よういち	会津土建株式会社	取締役社長	●福島県の総合建設業 会津土建の経営者であるとともに、建設業新分野進出の先駆者。 ●平成11年より、建設業界革新のため、さらなる挑戦を目指し、独自の画像処理技術の研究を進め、世界初の静止画像処理ソフト『Mofix』(動画データから連続静止画像を自動生成)を開発。平成12年、画像処理専門の㈱エマキを創設し、IT分野でも実績を上げる。 ●平成21年、国土交通省「建設業と地域の元気回復助成事業」において、当社が参加する「会津いまと木サイクル創造事業」「尾瀬を源流とする伊南川の多様性回復とふれあい創造事業」の2件が採用され、建設業の活力の再生と地域の活性化に取り組む。 ●平成22年、地元「観光会津」のシンボル鶴ヶ城の周辺活性化の一環として、国内で初のクロスミナパネル工法を駆使し、自然との調和、省エネ、環境に最大限配慮したカフェ「北出丸カフェ」をオープン。また、観光客や市民のため、自社敷地を提供し、路線バス会社と共同で、檜造りの屋根・ベンチ付きのバス停「鶴ヶ城入口」を建設。「北出丸カフェと鶴ヶ城周辺整備」で、会津若松市景観賞を受賞。 ●現在、会津若松商工会議所副会頭、日本商工会議所観光専門委員として、地域活性化・地域間交流に積極的に取り組んでいる。	観光・交流

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
67	喜岡 達	きおか たつる	(株)ハガタ屋	代表取締役社長	スーパー繊維を利用した途上国とは差別化した新たな生活のまわり用品と産業構造の育成による、へき地活性化の提案。	地域産業・イノベーション・農工商連携 地域コミュニティ・集落再生
68	菊池 新一	きくち しんいち	NPO法人 遠野山・里・暮らし ネットワーク	マネージャー	遠野のグリーン・ツーリズム研究会の立ち上げから、今日までグリーン・ツーリズムの振興に関わる。ふるさと公社では、道の駅「遠野風の丘」の立ち上げ、コミュニティビジネスの振興に関わる。商工観光課では、コミュニティビジネスを取り入れた、ショッピングセンターの再生に関わる。現在、経済産業省 農工商連携SB事業における人材育成事業を東北6地区で農産物直売所の立ち上げ、新規就農の立ち上げマーケティング、地域コミュニティとコミュニティビジネスの立ち上げ、農家民宿、農家レストラン、グリーン・ツーリズムの実践コンサルティング・着地型旅行業参入を目指し取り組んでいる。	地域産業・イノベーション・農工商連携 観光・交流
69	木谷 正道	きたに まさみち	NPO法人 暮らしと耐震協議会	理事長	NPO法人暮らしと耐震協議会理事長として、地震被害軽減の切札である耐震補強に取組む。福祉施設でのギター弾き語り、囲碁普及、地域活性化、NPO連携なども合わせ、地域力向上に力を入れている。	まちづくり
70	北野 尚人	きたの ひさと	(株)中国博報堂	執行役員 MD統括担当 兼マーケティング 部長	・「地域絆と東京鮮度」をモットーに、マーケティングやコミュニケーションの知識・ノウハウを活かし、地方都市ならではの情報や時間面での真の豊かさの実現支援に向けて活動中。 ・今街中で起こっていることが分かれば、すぐに駆けつけられるサイズのコンパクトシティだからこそできること、ワークライフバランスの良さをどう生かすかを模索中。 ・博報堂のブランディング・ノウハウを活用した「地ブランド構築」支援活動も展開中。特に、最近では、農産物や水産物のブランド化、地方都市のブランド化、地方ならではの「食」のブランド化、等に関してもチャレンジ中。 ・「瀬戸内海」と「中国山地」「山陰地域」の魅力の棚卸しを、辛口の他所者視点に立って推進中。	地域産業・イノベーション・農工商連携 観光・交流
71	吉川 真嗣	きつかわ しんじ	村上町屋商人会 チーム黒塚プロ ジェクト むらかみ町屋再生 プロジェクト	会長 事務局 会長	新潟県村上市は歴史ある城下町。平成9年、大規模な近代化計画が浮上。この中、町を守るための活動を始めた。それまで日陰の存在だった村上の古い町屋のもつ価値に光を当てる取り組みだった。町屋を活かし街の賑わいを取り戻せばきつくと近代化を食い止めることができると思ったのだ。平成10年、生活空間である江戸や明治の町屋の内部が村上の財産だと確信し、生活空間である町屋の公開を22軒で始めた。話題を呼び、それまでゼロだった旅人が町に訪れ変化が起こる。更に2年後、タイムスリップしたような町屋の中に人形や屏風を展示して公開する「町屋の人形さま巡り」「町屋の屏風まつり」を企画し、旧町人町の町屋60軒で開催。一年を通し全国から30万人が訪れる町になる。しかしなおも近代化が推進されようとするその中、平成14年、市民自ら村上のあるべき姿を示そうと歴史的景観作りを開始。「黒塚1枚1000円運動」を行い、ブロック塀だった塀を市民の力で黒塚に変える「黒塚プロジェクト」を行う。7年間で360mの黒塚を作った。平成16年、町屋再生プロジェクトを開始、町屋再生のための市民基金をつくり町屋の外観の再生を開始した。市民による全国で初めての取り組みで現在20軒が再生。街は徐々に城下町の風情を取り戻しつつあり、一年を通しての街の活性化につながってきている。 一人から始めた取り組みだが、仲間ができ、やがて組織を成し、そして事を起こし、逆境の中にあつて、市民の意識を変えながら町を動かす強力な運動体へと発展した。行政に頼らない市民主導のまちづくりとして全国から注目を集めている。	観光・交流 まちづくり
72	木下 斉	きのした ひとし	一般社団法人エリ ア・イノベーション・ アライアンス	代表理事	新たな事業を地域関係者と共に創り、その経営を通じて地域の抱える経済的・社会的課題を解決します。 ・1998年、早稲田商店会における環境を切り口とした商店街活性化に参画。「エコステーション」の運営を通じて、1999年より全国リサイクル商店街サミットを開催（現在までに全国で13回開催）。さらにネットを活用した情報共有を行い、新語流行語大賞「IT革命」受賞。その後震災対策による地域間交流事業「震災安心パッケージ」では防災功労者内閣総理大臣賞受賞。 ・2008年には熊本市内における不動産価値の向上を目指し、熊本東東マネジメント株式会社を設立。不動産・店舗経営にかかる契約を一括化することで全国削減と業務品質改善、まちづくり基金の創出を実現。現在、北海道から九州まで全国各都道府県の事業を立ち上げています。 ・2009年より徳島市内において一般社団法人まちづくり役場とくしまを立ち上げ、まちなかキャンパスの設置・運営、サーバー管理型POSシステムの開発・運用、高齢者生活サポート、農村地域（高知・徳島県内）との地域間交流事業の取組んでいます。	地域交通・情報通信 まちづくり
73	木村 乃	きむら だい	ビズデザイン株式 会社/明治大学 商学部	代表取締役/ 特任准教授	経済団体や自治体、NPO・NGOの皆さんに対して、地域活性化プロジェクトの立案をお手伝いするほか、チームの一員となって現場でのコーディネートを実践します。メディアの活用、大学との連携、企業CSRとのタイアップなどのダイナミックな手法を駆使して、地域活性化活動が長続きするようしくみを具体的に提案し、実現させるのが弊社の使命だと思っています。 【特徴】 ◆活動のジャンル(テーマ)を問わず、どんな活動でも支援できる人材と体制を整えます。 ◆ブランディングやプロモーションがとても大事な要素だと考え、特に力を入れています。 ◆行政内で指揮を執ってきたからこそわかる行政との連携ノウハウを提供できます。 ◆1回かぎりの研修から長期にわたるプロジェクトまで、ニーズにあった支援をいたします。	地域産業・イノベーション・農工商連携 観光・交流
74	木村 俊昭	きむら としあき	地域活性化学会	理事(広報交流委員 長)	農林水産業振興、農工商連携事業、製造業・商店街振興、異業種交流、ものづくり職人活動、観光産業クラスターなど、地域活性化事業全般。	地域産業・イノベーション・農工商連携 農・林・水産業
75	木本 圭一	きもと けいいち	関西学院大学国 際学部	教授	<地域における活性化プロジェクト> 2004年(平成16年)9月 文部科学省現代的教育ニーズ支援プログラム(地域活性化への貢献) 関西学院大学申請プログラム(学生による「劇場空間・宝塚」の都市再生)推進責任者(2007年3月まで)。地域の活性化を産官学連携で行う取組。現在も授業責任者として担当中。 <産官学連携による人材育成プロジェクト> 2007年(平成19年)8月 文部科学省社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム、関関同立共同申請プログラム「困境世代が活躍するための地域貢献型社会起業家養成プログラム」の申請代表者・事業担当者(2010年3月まで)。 2008年(平成20年)10月 経済産業省「産学連携人材育成事業(産学人材育成パートナーシップ)経営・管理人材分科会」プログラム開発・実証)、関西社会人大学院連合申請プログラム「国際競争を勝ち抜く次世代経営リーダー養成プログラム-アジア現地経営トップ養成-」プログラムコーディネータ(2011年3月まで)。 2011年(平成23年)11月 大阪市からアジアビジネス研究センターへの委託事業“大学・大学院ネットワークを活用した人材育成力強化事業”プログラムコーディネータ(2012年3月まで)。	地域医療、福祉・介護、教育 まちづくり

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
76	工藤 順一	くどう じゅんいち	観光カリスマ工藤事務所／(財)村山市余暇開発公社(クアハウス基点・道の駅むらやま)	代表 総支配人	37年11ヶ月にわたりJAさがえ西村山(元寒河江市農協)に勤務し、2003年3月定年退職しています。 在職中、1980年にさくらんぼのオーナー制を全国に売り出したことを皮切りに、1984年には寒河江市周年観光農業推進協議会を行政、農協、生産者一体となって設立しました。 1989年に『農業は無限の観光資源』を提唱し数々のユニークなアイデアを形にして一躍「寒河江」の名を全国へ知らしめております。その功績が認められ、2003年1月には内閣府、国土交通省、農林水産省「観光カリスマ」百選選定委員会の「観光農業」のカリスマに認定いただきました。 2003年4月より「観光カリスマ工藤事務所」を設立し、観光農業だけに限らず地域おこしや社内教育といった幅広い分野での講演、コンサルティング、アドバイザー事業を全国的に展開しております。 また、2008年4月より村山市の第三セクター温泉宿泊施設「クアハウス基点」の支配人に就任し再建事業に従事しており、2008年度末で前年度比120%、2009年度末106%の売上増に貢献いたしました。2009年度からは「クアハウス基点」道の駅むらやま」を運営する(財)村山市余暇開発公社の総支配人に就任、2012年5月退職。	観光・交流
77	久野 美和子	くの みわこ	埼玉大学	特命教授(産学官連携コーディネーター)	持続する産業経済社会の発展に向けて、大学や研究機関の研究成果が産業界で活用され、主として中小企業の新事業創出や地域産業の活性化・次世代産業へのシフトが加速されるための手法として、産学共同研究開発の推進や支援人材ネットワーク形成、成長分野の参入を目指したプロジェクトメイキング、個別のベンチャー企業や意欲ある企業のハンズオン支援等を行っている。具体的には、茨城県南(つくば地域等)～さいたまの広域地域を中心に、産学官連携による「医療・福祉分野」「次世代自動車分野」の研究や共同研究プロジェクトの立ちあげ・マネージメントを行っている。また、もの作り企業の航空機分野への参入を促進するため、航空機分野のネットワーク構築に取り組んでいる。更には、つくば関係者と協働して「グローバル・オープンイノベーション・プラットホーム」づくりに、取り組んでいる。NPO法人「イノベーション・ネットワーク」を(有志で)立ちあげ、人材育成(ポストドク、地域人育成)等に注力。2010年経済産業省「地域におけるキーパーソン活用・支援方策に関する研究会」委員として、地域からの相談に対して幅広く活動。	地域産業・イノベーション・農工商連携
78	熊倉 浩靖	くまくら ひろやす	群馬県立女子大学	教授・群馬学センター副センター長	まちづくり：日本最初に公認された市民立シンクタンク・NPOぐんまの理事として、高崎・群馬等の多くのまちづくりや市民参加型行政計画の策定と運用に携わってきた。また近年は、全国百弱の市・町が自発的に参加して進めている都市行政評価ネットワーク会議分科会・リーダーとして基礎自治体施策評価をベンチマークを活用して実施。 環境：エコアクション21地域事務局群馬の責任者として、また高崎地球市民環境会議トータル・コーディネーターとして活動。	環境 まちづくり
79	小出 宗昭	こいで むねあき	富士市産業支援センターBiz	センター長	公的産業支援施設での相談業務を核に、地域の中小企業・商店経営者、起業家などをサポートしています。私の仕事は、ビジネス上の課題について経営者や起業家の皆さんと一緒に目標を立てて考え、事業の成功を目指して戦略と戦術を共に練り、結果が出るまで一緒にチャレンジする、いわゆる「ビジネスコンサルティング」です。製造、小売、サービス、農水産業など、相談者の業種は問いません。目の前の課題を解決し前向きに取り組む人を地域から一人でも多く輩出することによって、地域に仕事が集まる仕組みをつくり、地域経済の活性化、まちおこしに取り組んでいます。	地域産業・イノベーション・農工商連携 まちづくり
80	五井淵 利明	ごいぶち としあき	東京都北区役所	主事	様々な側面から地域と人を活性化させるつながりづくり・きっかけづくりに取り組んでいる。 ◆自治体職員として、自治体の枠を飛び越えた様々なネットワークをつくり、複数のプロジェクトを中心メンバーとして運営している。 ◆「Non-Purpose～首都圏のOWA」の幹事として、参加者のソーシャルアクションのきっかけの場となるよう、月に1度のペースで様々な企画などを通じてネットワーク化を進めるとともに、国、県、市区町村、住民間の連携をコーディネート。「往來再生」と「地域の自立」をテーマに、各地で官民協働によるまちおこし、まちおこし事業に取り組んでいる。	地域コミュニティ・集落再生 観光・交流
81	古賀 方子	こが まさこ	NPO法人 全国街道交流会議	専務理事	「全国街道交流会議」には、街道や歴史文化を活用して地域づくり、交流・連携に取り組む全国の自治体、民間団体、個人が参画している。全国大会の開催やまちづくり情報の共同発信などを通じてネットワーク化を進めるとともに、国、県、市区町村、住民間の連携をコーディネート。「往來再生」と「地域の自立」をテーマに、各地で官民協働によるまちおこし、まちおこし事業に取り組んでいる。	観光・交流
82	古川 充	こがわ みつる	ソーシャルオフィス古川行政書士事務所/地域経営コンサルなるさ	代表	青森県の津軽平野で生まれ、神奈川県庁を経て、広島県の人口2千人の小さな農村・君田村役場に転職。広島県出身の妻との出会いが予想外の人生を歩むことになった。軸足を生活の集落に置き、住民の一人として各種集落事業の事務局を担当し、企画運営の実践を活かした広域支援活動に努めている。 ・温泉、美術館、加工所、直売所、宿泊等を備えた道の駅の整備を行なう。経営母体に住民240名の第3セクターを設立し、計画から15年間携わり、オープンからは管理運営の責任者を担い、黒字経営を持続してきた。住民が誇りの活性化施設の基盤を築き、4万人の交流人口の村を25万人の観光交流の村に変える。村民に儲ける村づくりの手ごたえを還元する。2000年に豊かな村づくり賞の農林水産大臣賞を受賞、2004年に立ち上がる農山漁村に選定される。 ・農村・島・山の第3セクター経営施設の支配人の経験を活かした3セク経営改善支援 ・道の駅整備計画、運営のアドバイザー ・大学、研修会等で地域経営マネジメントの実践的な講義 ・組織リーダーの養成、地域づくりの人材育成支援 ・海外からのJICA研修員に地域振興手法等の講師 ・6次産業プランナーとして農業者支援 ・農事組合法人の経営支援 ・中山間協定事業、農地水環境交付金事業の計画策定、実践の事務局 ・農山村の土業職として悩みごと相談、相続問題等の支援 ・里親の実践を通じた子育て支援	観光・交流 まちづくり
83	小島 玉雄	こじま たまお	サン・アクト株式会社	代表取締役副社長	・「樹木保護塗布資材及び樹木保護方法」の特許取得 ・貴重樹木や天然記念物、地域の観光資源である樹木の回復 ・これらの樹木回復を通じて、地域の活性化を実現。特に桜では多数の実績。 ・桜の回復を通じて、全国レベルの名所にし、多数のメディアに掲載され数多くの観光客が来訪 ・樹木再生を産学官連携で、地域再生に繋がる仕組みを多数、構築 このように、単なる樹木再生でなく、京都大学、各種メディアとの連携、企業協賛による資金確保、講演会、ワークショップの開催などを通じた、地域の再生・活性化に繋がるノウハウを持っています。	観光・交流 環境

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
84	小島 富美子	こじま ふみこ	NPO法人 にいがた湊あねさ ま倶楽部	代表	“情”のある女性達 それも様々なスペシャリストが集まった倶楽部です。 ①時空絵図 絵本「どこかのだれか」とにいがた湊の1000年の歴史の発行 ②みなと絵葉がき にいがた湊万華鏡講座(講演、コンサート)実施 ③お月見イベント～月待ち湊～を5年間開催中 ④新潟市主催の“水と土の芸術祭”に「風迎人の家」が当選 2009年7月より建設・オープン予定	まちづくり
85	小島 光治	こじま みつはる	ユーエンタープ ライズ株式会社	代表取締役	・20年以上、雑誌社の発行人として従事したため、広島都市部のまちづくりを提案し、官民一体のムーブメントを組織し、そのいくつかを実現。 ーライトアップキャンペーン、水上バス運行推進、地元商店街振興ー ・中国地方整備局、中経連が推進する「夢街道ルネサンス」の推進会議の委員として認定箇所(現在31箇所)の「地域活性化まちづくり」を指導。 ・国土交通省道路局の「社会実験推進に関する懇談会」委員として全国各地の採択箇所を視察、指導。	地域交通・情報通信 まちづくり
86	小積 君生	こづみ きみお	みなとオアシスた だのうみ協議会	会長	町内ボランティアグループ14団体を束ねる組織として、コミュニティ推進協議会を設立し、JR忠海駅の無人化を回避する為にNPO法人を立ち上げ、駅及び附属施設の委託管理をする。又、忠海港に於いて、地元の資産や文化を活用したイベント「いっぺん来ん祭みなとオアシスただのうみ」を開催し、みなとまちづくりに取り組み、地元の食材を使った「鯛めし」を開発し、港を核とした地域の活性化を図る。	まちづくり
87	後藤 健市	ごとう けんいち	合同会社 場所文 化機構	代表	「場所文化」をキーワードに具体的な場の設定に関わってきた。地元の十勝・帯広では、北の屋台(2001)、スノーフィールドカフェ(2002)、東京では、場所文化フォーラム(2002)、「とかちの・・・」(2007)の立ち上げと運営に携わってきた。さらには、まちづくりのさまざまなアイデアを実現するために会社や団体を複数設立し、場所の価値を生かした実践活動を自ら責任を持って行っている。2008年には場所文化機構(LLP)を立ち上げ、全国各地での講演や、現場の元気人材を巻き込んだ地域活性化事業に携わりながら、コミュニティビジネスやソーシャルビジネス創出の強化事業に取り組んでいる。地域活性化事業以外として、障害理解とコンプレックスの自覚のための「アイマスクプログラム」を教育現場で行っており、また、ポケットサイズのカラー点字器を開発し、「名刺に点字を入れる」ボランティア運動も展開している。(カラー点字プレートは98年度のグッドデザイン賞中小企業庁長官特別賞を受賞。)	地域産業・イノベ ーション・農工商連携 まちづくり
88	小林 秀司	こばやし ひでし	(株)シェアードパ リユー・コーポレー ション	代表取締役	15年間、社会保険労務士として企業の人事労務・雇用に関する相談指導を行ってきました。近年、社員がうつ病になったとか、サービス残業など労働紛争に関する相談事が増えていることに憂慮し、そもそも労働トラブルのない健全な職場づくりに寄与してこそ、社会保険労務士としての存在価値があると覚悟して、ベストセラー「日本ではいばん大切にしたい会社」著者坂本光司教授に師事。以来、研究を重ね、大切にしたい会社、いい会社となるための具体的実務、実践法についてのノウハウを確立。関与先企業を「理念経営のすすめ」により優良企業へと劇的に変えています。また、企業が経営戦略として「障がい者雇用」をすることについて研究を重ね、実際に中小企業での障がい者雇用を進展させています。日本で唯一、人本主義、理念経営、障がい者雇用に長けた実務家です。	地域産業・イノベ ーション・農工商連携 地域医療、福祉・介 護、教育
89	小林 英嗣	こばやし ひでつぐ	一般社団法人 都市・地域共創研 究所	代表理事・北海道 大学名誉教授	①地域の主体(行政・NPO・住民・企業・大学など)との連携を構築しつつ、都市や地域の計画的課題を臨床学的に解いていく。②全国の大学におけるキャンパスマスタープランの立案を支援。③全国まちづくり活動をNPO日本都市計画協会・会長として発掘・支援し、ぜん全国まちづくり大会を開催。	地域コミュニティ・集 落再生 まちづくり
90	小松 俊昭	こまつ としあき	金沢工業大学 産 学連携室 合同会社 家守公 室	コーディネーター 代表社員	2005年10月～富山県水見市地域再生マネージャー就任(～08年3月) 2006年10月 水見市にて「家守カフェ有限責任事業組合(LLP)」設立、同年11月中市街地の空き店舗を活用して、「ヤモリカフェ」開店 2007年8月～香川県地域政策アドバイザー 2009年7月～経済産業省「まちづくり会社支援事業」選定委員兼専門家 2009年7月～UR都市機構都市再生アドバイザー 2010年3月～丸の内エコツェリア「都市と食」WG委員 2010年4月～一般社団法人「ジャパンオンパク」監事 2010年5月～内閣府 地域社会雇用創造事業「えがお大学院」アドバイザーほか	地域産業・イノベ ーション・農工商連携 まちづくり
91	小室 淑恵	こむろ よしえ	(株)ワークライ フバランス	代表取締役社長	・ワーク・ライフバランスコンサルティング事業 ・休業者職場復帰支援事業 ・ワーク・ライフバランス組織診断事業 ・ワーク・ライフバランスに関する講演業務 ・ワーク・ライフバランスコンサルタント養成講座事業 ・個人の働き方の見直し支援事業	地域産業・イノベ ーション・農工商連携
92	小山 厚子	こやま あつこ	小山編集室	主宰	「市は出会いの場」を合い言葉に農家と食べ手が協働して運営する、農産物の直売活動活動「朝市夕市ネットワーク」、地域の食と農を守る「鳴子の米プロジェクト」、農山村とまちが親戚づきあいをめざす「山形県朝日町と仙台市花壇大手町町内会の暮らしの支え合い」「未来のライフスタイルを考える90歳インタビュー」など。	地域コミュニティ・集 落再生
93	齋藤 一彦	さいとう かずひこ	常磐興産(株)	取締役社長	平成19年に社団法人いわき市観光物産協会の副会長に就任し、平成20年の観光まちづくりビューローの設立に尽力する。同年、会長に就任以来、いわきの観光・物産の宣伝活動を始めトップセールスマンとして活動、いわき観光・物産発展のため鋭意邁進している。 また、平成20年からは財団法人福島県観光物産交流協会の副理事長も務め、福島県の浜通り地方及び福島県全体の観光振興にも尽力する。特に、この度の東日本大震災に際しては、率先して福島県の振興に取り組み、現在も日本・福島のみならず被災地に向け取り組んでいる。	観光・交流
94	齊藤 孝一	さいとう こういち	あいえず・町づくり 塾	所長	市町村の再開発事業・商工会の村おこしや町づくり専門委員として活動し地域活性化に携わる(青森県・秋田県・岩手県・宮城県・山形県など)。S58岩手県三陸鉄道開業に伴う観光戦略他、株由利高原鉄道開業に伴う開発計画、株秋田内陸鉄道開業に伴う地域活性化推進計画。特に秋田県角館町商工会においては専門委員をS61から3年間務めた。S62秋田県鷹ノ巣町「太鼓の館」コンパ 最優秀賞受賞。宮城県海苔生産直売所のトータルアドバイザー。また地域コンサルタントとして県・市・町などでの講演を実施。岩手県後継者等育成事業講演、青森県板柳町講演、宮城県商工会連合会地域活性化コンサルタント、秋田市中中小売商業活性化ビジョン策定、岩手県宮古市地域物産品研究調査業務コンサルタント、岩手県水沢まちの駅開設に伴う組織改革委員コンサルタント。H22岩手県商工労働観光部主催まちづくり勉強会。現在に至る。	地域産業・イノベ ーション・農工商連携 まちづくり

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
95	齊藤 俊幸	さいとう としゆき	イング総合計画株式会社	代表取締役	現地に住み込み活動し8年目を迎える。①うるめいわしブランド化(高知県土佐市;地域力創造アドバイザー事業/総務省優良事例)②ホテル、ワイナリー等の第3セクター再生(秋田県由利本荘市;地域力創造アドバイザー事業)③買い物難民対応型店舗(徒歩圏内マーケット)の多店舗展開(熊本県荒尾市;地域再生マネージャー事業/地域づくり総務大臣賞)④地域おこし協力隊定住支援(高知県本山町;地域再生でマネージャー事業/総務省優良事例)⑤商店街ワイナリー(神奈川県横須賀市;追浜こみゆに亭)	地域産業・イノベーション・農工商連携 農・林・水産業
96	齊藤 幹雄	さいとう みきお	MKタウンデザイン	代表	＜まちづくり藤枝＞:マーケットポテンシャル調査並びに「藤枝タウンスクエア計画」案 ＜白河楽市楽座＞:「白河楽蔵(らくら)施設管理運営マニュアル」並びにプロパティマネジメント、テナントリーシング手法 ＜大村街づくり＞:仮称「大村タウンセンター開発マスタースケジュール」並びにテナントリーシング手法、及びテナント契約サンプル ＜沖縄コザ街社中＞:「沖縄中心城市街地活性化施設商業基礎データ及びハブモデルによる販売可能額算定」並びにライフスタイル調査アンケートサンプル ＜小田原まち元気＞:「緑一番街再開発事業・業種業態の検討・開発調査」並びに周辺資料データ、SC運営管理手法サンプル。など 現地調査並びに資料の提供	まちづくり
97	坂本 和昭	さかもと かずあき	坂本ビル(株)	代表取締役社長	主な活動範囲は ①「食」に関すること→地元生産者と飲食店主や販売者と消費者とを結びつけたまちづくりの提案と実践。 ②「観光」に関すること→自分たちの費用と実行力で出来ることを実践する事業の提案と実践。 ③「環境」に関すること→まちづくりと環境問題の接点を考える。	まちづくり
98	坂本 光司	さかもと こうじ	法政大学大学院 政策創造研究科	教授	○NPO法人オールしずおかベストコミュニティを立ち上げ、障がい者雇用を促進・支援している ○静岡・東京・福井等で中小企業の勉強会を組織し運営している	地域産業・イノベーション・農工商連携 まちづくり
99	坂本 世津夫	さかもと せつお	四国情報通信懇談会	運営委員長	H14年4月からH17年3月まで、愛媛大学にて「地域情報学」(伊予銀行寄附部門)を担当する。H17年4月からH23年3月まで、高知大学国際・地域連携センター教授(生涯学習部門長)。現在は、高知県南国市の自宅を拠点に、日本の情報化を、地域という視点で見直し、地域における「知的能力」と「コミュニケーション能力」を高めることにより、新たな産業集積や地域の活性化(地域の自立)が実現できないか、研究・実践している(IGT利活用促進)。平成15年9月、「地域産業おこしに燃える人」(内閣官房・経済産業省)に選定される(小泉総理より、首相官邸にて)。平成19年3月、内閣官房より「地域活性化伝道師」にも選定される。地域情報アドバイザー(総務省委嘱)、四国情報通信懇談会(運営委員長)、四国コンテンツ連携推進会議(委員)、日本テレワーク協会(アドバイザー)、現代龍馬学会(副会長)、土佐学協会(副理事長)、こうちNP O地域社会づくりファンド(運営委員長)他。愛媛大学客員教授(総合情報メディアセンター)	地域産業・イノベーション・農工商連携 地域交通・情報通信
100	坂元 英俊	さかもと ひでとし	財団法人 阿蘇地域振興デザインセンター	事務局長	自然・歴史・文化を体感するエコツーリズム、農村で時間を過ごすグリーンツーリズム、温泉街・商店街を楽しむタウンツーリズムを総合した阿蘇カルデラツーリズムと広域的な公共交通網を組み合わせた「スローな阿蘇づくり」を推進し、熊本県、市町村行政、観光協会、温泉旅館組合、商工会などの各種団体、民間の人々との協働で滞在交流型観光のしくみづくりを行っている。2011年3月の九州新幹線鹿児島ルート開業時から平成24年3月までの1年間は、8年の歳月をかけて作り上げた、博覧会形式の広域連携プロジェクト「阿蘇ゆるっと博」を開催した。平成24年4月から地域づくり型観光のシステム化を継続的に取り組んでいる。また、世界最大級のカルデラと今でも活動する中岳火口を中心とした地形・地質と阿蘇神社の歴史・文化で阿蘇ジオパークに取り組み、世界ジオパークネットワークをめざしている。	観光・交流 まちづくり
101	崎田 裕子	さきた ゆうこ	ジャーナリスト・環境カウンセラー		くらし・地域など足元から持続可能な社会の実現を目指して、NPO活動、個人での講演活動、行政委員として生活者視点での実践及び政策提言活動を実施。 ■「NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット」理事長として、 1)「市民がつくる環境のまち「元気大賞」」表彰で全国の個性ある地域環境活動を応援。 2)全国の地域環境活動キーマンを集め「ローカルサミット」を開催。2010年は、前年入賞地・埼玉県小川町で、市民相互交流(環境まちづくり・学び合い全国サミット)を開催。 3)資源エネルギー庁主催の高レベル放射性廃棄物に関する地域ワークショップ「共に語ろう 電気のみ」を、全国で実施。 ■「NPO法人新宿環境活動ネット」代表理事として、 1)地域と学校の連携による「新宿の環境学習応援団・まちの先生見本市」開催。 2)「新宿区立環境学習情報センター(エコギャラリー新宿)」の指定管理。 ■一般社団法人「環境ビジネスウィメン」代表理事として、環境ビジネスコンテスト「eco japan cup」副実行委員長を務める。	環境 まちづくり
102	櫻井 亨	さくらい とおる	財団法人 川崎市産業振興財団	産業支援部 新産業振興課長	顔の見えるネットワークづくりを基本に企業、大学などの訪問活動を行っています。延べ1500社以上の企業を訪問、700人を超える大学研究者、リエンジ担当職員等との面談を通じて、相談や新事業の発掘・組成を行っています。また、メディアの協力をいただき、記事掲載支援や地元企業の紹介記事の投稿をしています。産学連携の取り組みとして、中小企業の技術、ノウハウを活用して大学の研究機器試作、研究成果の具現化を目指し、「産学連携・試作開発促進プロジェクト」を推進し、開発事例を創出しています。	地域産業・イノベーション・農工商連携
103	笹原 司朗	ささはら もりあき	琵琶倉庫株式会社	代表取締役相談役	明治33年、滋賀県長浜市の中心市街地に第百三十銀行国立長浜支店が建てられ、黒漆喰の外観から「黒壁銀行」という愛称で親しまれた。昭和40年代頃まで活況であったが、モータリゼーションの発達と郊外型大型店の進出により中心市街地は急速に衰退していった。昭和27年から黒壁銀行はカトリック教会として使用されていたが、商店街の衰退とともに郊外への移転を余儀なくされ建物を売却した。建物が売却されたことで長浜市より要請を受け、昭和63年4月、長浜市(出資4,000万円)と地元企業8社(合計出資9,000万円)による第3セクター「株式会社黒壁」を設立。建物の保存と活用を目的とし事業を模索する中、「ヨーロッパでガラスを制作している所には人が集まる」という役員の一言でガラス事業の研究を提案。国内のガラス観光地を視察する中、土産物ばかりのガラス製品に不信感を抱き、土産物ではないガラス工芸品を取り扱う事業を目指す。国内を抜け出し役員らが自費でヨーロッパのガラスを視察。ガラスの歴史・文化性を目の当たりにしたことで、【ガラス文化の事業化】という方向性を見出す。建物を含む「歴史性」、祭りを含めた「文化芸術性」、「国際性」豊かなものを内 在するガラス文化事業の推進を図る。平成元年7月1日、黒壁銀行を「黒壁ガラス館」としてガラス工房、レストランと共にオープン。来街者数の増加に伴い施設の拡張が必要となった折、長浜市の調査で黒壁ガラス館の横に通る北国街道沿いには江戸から 明治時代にかけての商家や町屋が多く残っていることがわかり、これらを活用した事業展開を行う。平成2年より第2期事業として、地元物産館やガラスギャラリー、郷土料理店などをオープン。平成4年に増資を行い、ガラスの美術館である「黒壁ガラス鑑賞館(現黒壁美術館)」をオープン。現在、黒壁スクエアは約30店舗となり、年間約200万人の来街者で賑わう。	まちづくり

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
104	定藤 繁樹	さだとう しげき	関西学院大学	教授	2003年度 都市再生モデル調査を実施。2004年度 宝塚市と大学によるまちづくり包括協定締結、文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(「現代eP」)」に採択。2005年度 地域フィールドワークとしての取組、各種の社会実験(オープンカフェ、フリーマーケット、光の散歩道など)を実施。2006年度 地元大学との学学連携による各種取組。2007年度 地域フィールドワークとして商業イノベーション、映像プロジェクト、コミュニティ醸成などの取組。2008年度 逆瀬川地区の商店街活性化、巡回バス運行によるイベント活性化、フェアトレードなどの取組、「社会人基礎力グランプリ」準大賞を受賞。	地域産業・イノベーション・農工商連携 まちづくり
105	猿舘 祐子	さるだて ゆうこ	合同会社土澤長暮らし / 株式会社土澤まちづくり会社	代表社員/専務取締役	中心市街地活性化を目的とする住民参加協働型第3セクター株式会社土澤まちづくり会社設立当初より、事業の立案企画を担当。中小企業庁新・がんばる商店街77選に選ばれた土沢商店街を中心とする土沢地区での「街かど美術館 アート@つちざわ(土澤)」, 周辺農村地区で商店街を開催する「押しかけ商店街」などを実施している。また、商店街の活性化には、土沢地区の地域再生は不可欠と、(株)土澤まちづくり会社役員を中心に合同会社土澤長暮らしを立ち上げ、街なか居住と商店街の活性化を目的とした共同建替え事業店舗付き共同住宅「こっぼら土澤」を10年越しに住民主体で完成させた。	地域コミュニティ・集落再生 まちづくり
106	澤 功	さわ いさお	澤の屋旅館	館主	倒れかかった下町の小さな旅館を、積極的に外国人旅行者を受け入れることによって再生するとともに、全国各地で外国人旅行者の待遇方法などを説明して、宿泊施設が外国人旅行者を受け入れる際に抱く危惧を払拭することに努め、外国人旅行者の受入促進の啓蒙を図っている。	観光・交流
107	澤崎 聡	さわさき さとし	澤崎聡事務所	プロデューサー	地域をブランド化視点から活性化。行政・公共団体をはじめ地域企業のECブランド戦略、デザイン・ナレッジによる産業推進、農水の地域を巻き込んだプレミアムブランド化戦略など、地域特性を生かした連携やゼロミッションなど発想の転換で取り組む。歴史、まつり、食、文化などの掘り起こしをおこない農工商・観光・新産業を新規開発。「地域ブランドから地域がブランドへ」地域のもつマインドを大切に、アートとデザイン、文化発想で、オンリーワンの地域づくり、人づくり、ものづくりをブランド化事業で展開。未来の主役、子どものための企画推進実施。合併後の地域力強化として、浜松市お茶協賛会や田辺市本宮町商工会、南砺市商工会五箇山支部の世界遺産地域のブランド手法による新規活性化事業(地域直接依頼)。	地域産業・イノベーション・農工商連携 観光・交流
108	沢畑 亨	さわはた とおる	愛林館	館長	1:食 ・近所の素材を中心に加工食品(味噌、漬け物、ドレッシング、クッキーなど)を製造販売。 ・近所の素材を活かした「ふるさとレストラン」を月2回開店し、高齢者の活性化に貢献。 ・水俣の素材を味付けした本格タイカレー・インドカレーなどのレストランを土日祝日に営業。 ・そば/うどん/豆腐/こんにやく/パウムクーヘンを2時間で作る体験教室。 ・家庭料理を持ち寄り、食べる「家庭料理大集合」を10回開催。集まった料理約700種はデータベースとしてまとめた。 2:環境学習 ・ボランティアと植え、草刈り・つる切りを行った21haの「水源の森づくり」。 ・棚田25aで香り米を耕作。50aの草刈りを山羊を活用して行う。 ・会費をいただいた会員向けに大豆を育て、収穫を配当する「大豆耕作団」 森を棚田保全を行い、食育のプロを「棚田食育士」を養成し、屋根のない博物館「村丸こと生活博物館」でグリーンツーリズムを行う。 熊本県「緑化功労者」、棚田学会「棚田学会賞」、総務省「過疎地域自立活性化優良事例」総務大臣賞など受賞多数。	農・林・水産業 環境
109	志賀 秀一	しが しゅういち	(株)東北地域環境研究室	代表	観光を基軸とした地域づくり、観光マーケティング等	観光・交流
110	篠原 靖	しのはら やすし	跡見学園女子大学	マネジメント学部 観光マネジメント 学科 准教授	30年の長きにわたり旅行業界でマーケティングや商品開発など幅広い業務経験を有し数々のヒット商品を誕生させた。22年4月より大学教員へ転身、観光地域振興に携わる人材育成プログラムを開発。『観光による地域振興』を応援します。観光による地域活性化のポイントは3つあり、1つは地域に眠る地域資源(歴史・風習・食文化・等)をプロが加工し観光資源に磨き上げる『広域観光シナリオづくり』、2つ目はその観光資源(シナリオ)を使って集客をする際の『受け入れ体制の構築と地域ガイドを含めた受け入れ人材の育成』そして3つ目はわざわざ訪れて来てくれたお客さまにお金を落としていただく『ビジネスモデルの構築』の以上3つが揃って始めて地域経済に観光が貢献できるなる訳です。しかし私が訪問したその多くの地域は一生懸命に取り組んではいるものの、残念な事に空回りしている地域が大変多いのが現状です。他の産業と異なり学術理論だけでは観光のプロは育ちません。篠原流の観光まちづくりとは、全国各地で実践してきた現場の成功事例、失敗事例をベースしながら、物真似ではないご当地オリジナルの集客理論を構築していきます。	観光・交流 まちづくり
111	柴田 いづみ	しばた いづみ	滋賀県立大学 環境科学部	教授	主な取組 1 環境 一内湖再生の基礎調査、琵琶湖の内湖再生の為の活動。 2 中心市街地活性化 → 学生サークルACT(Action Connect with Town)との空きビルを使った中心市街地拠点活動。 3 まちづくり → NPO産根景観フォーラム副理事長として、又、LLPひこね街の駅での活動。歴史・景観・まちづくりフォーラム実行委員長。 4 耐震・防災 → NPO東京いのちのポータルサイト副理事長として、各方面に提言。防災・耐震・まちづくりフォーラム実行委員長、木造伝統構法の耐震事例づくり。	地域コミュニティ・集落再生 まちづくり
112	柴田 義文	しばた よしふみ	静岡TTO(静岡技術移転合同会社)	代表社員	浜松商工会議所副会頭をはじめ、協同組合テクノランド細江(工業団地)理事長、遠州生産性協議会副会長など地域の経済活動に積極的に関わってきました。平成13年度からは経済産業省の産業クラスター計画に位置付けられた三遠南信バイタライゼーション協議会の会長として、地域における産学官連携を先導し、また地域と国(経済産業省)とのパイプ役としてものづくり中小企業を中心に支援してきました。平成14年度からは浜松地域における知的クラスター創成事業の第1期事業統括として、静岡大学の光技術と浜松医科大学の光量子医学に関する研究実績をもとに、高機能集積CMOSイメージセンサ、高エネルギー線イメージセンサや新しい医療診断等に活用できる高度医療システム(顕微鏡、高機能内視鏡、遠隔診断等)の研究開発を進めてきました。 現在事業は第2期に入り、イメージング技術とセンシング技術との融合によるイノベーションの創出を推進しています。また、研究シーズを広く国内外から集め、連携・融合を図るとともに、世界レベルの技術・人材・企業の集積を目指しています。 平成21年からは、静岡大学、浜松医科大学、静岡県立大学、静岡理工科大学、沼津高専、国立遺伝学研究所などの研究機関と静岡県、浜松市、静岡市の総意で新たに設立された技術移転組織、静岡TTOの代表社員を務めています。知的クラスター創成事業などの産学官連携の成果として研究機関が持つ技術シーズを権利化し、産業界への技術移転により社会還元を推進しています。	地域産業・イノベーション・農工商連携

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
113	渋川 恵男	しぶかわ ともお	会津若松商工会議所	副会頭	衰退した中心市街地を活性化させるため、地域住民の意識改革や、景観、テナントミックス、観光など、地域に合った手法で賑わいを創出して活性化する運動に取り組み実績を上げている。	観光・交流 まちづくり
114	島 康子	しま やすこ	まちおこしゲリラ集団あおぞら組	組長	＜この10年の活動歴＞ ◎フェリー客に向けての旗振りウェルカム活動◎ドラマ「私の青空」そっくりさんを探せ◎マクロのお菓子「まぐがし制作委員会」発足、しかし挫折◎ジジババが主役！町民スター化大作戦◎ライブカメラの前で、見えるようにゴミ拾い◎手漕ぎ舟で津軽海峡を横断・縄文チャレンジ乱入◎女川二小&大間小の「ものより思い出」大交流会◎大間語ぶっかましFM放送「大間ナスティー・ダスティー」◎「マグロー筋」テラシャツで世界征服◎鯉のほりを凌駕せよ！「ニッポン列島マグのぼ化計画」◎なぐすなちゃ！大間一函館フェリー存続ゲリラ運動◎都会の北に田舎の北が！下北沢音楽祭に乱入～◎漁師からもらった大漁旗と網で「大漁だべさバッグ」を開発◎勝手にデスティネーション・キャンペーン「オーマの休日」展開中	観光・交流
115	清水 慎一	しみず しんいち	立教大学	観光学部 特任教授	これからの観光振興は、地域固有の資源を最大限活かしたプログラムやメニューにより、地域自ら主体的に集客する、いわゆる「着地型観光」である。その実現のためには、従前のような行政と観光業界を中心とした観光協会による発地に対するプロモーション主体の観光振興ではなく、地域のさまざまな住民や団体による横断的な連携をベースにした着地主体の内発的な観光振興が必要である。これによりはじめて観光客も住民も満足する観光地が出来上がり、観光本来の効果を地域にもたらす。このような認識のもと、地域住民の誇りと自立意識を基本にしなが観光客のニーズに即したプログラムやメニューなどの仕掛けづくり及びそのような仕掛けを持続的に展開する仕組みづくり(観光地域づくりプラットフォーム)の重要性をアドバイスとともに住民とのワークショップなどを通じてその具体化を手順を追って実現していく。	観光・交流 まちづくり
116	清水 義次	しみず よしつぐ	株式会社アフタヌーンソサエティ	代表取締役	民間チームが補助金に頼らず自立・自立するまちづくりを推進する際のサポート。自らリスクを負って体験した事例を基にアドバイス。 ・神田・裏日本橋エリアを再生する家守事業拠点・シェアード・オフィス運営・アートデザインイベントCET(セントラル・イースト・東京)プロデュース ・廃校を活用するプロジェクト・・・千代田区立旧練成中学校をアートセンターに変えた3331Arts Chiyoda運営 ・岩手県紫波町の10.7haを継続するまちとして開発するオガールプロジェクト ・東洋大学客員教授として、まちづくりビジネス論、エリアプロデュース論を講義 ・北九州市小倉地区で、リノベーションをまちづくりに生かす技を教える「リノベーションスクール」開講 など	地域産業・イノベーション・農工商連携 まちづくり
117	志村 尚一	しむら しょういち	有限会社ウィルビー/劇団ぜんとうようくらぶ	代表取締役/代表	「一人一人のキラめきが輝く未来をつくりだす」をモットーに、資源の発掘と活用の仕方や、住民一人一人が人材(役に立つ人)となれるような人材育成などを、地域に密着して指導・アドバイスしている。指導した地域の方々からは、「自分達が気づいてなかった地域の可能性に気づかされ、実践方法も具体的にアドバイスしてくれるので、確実に成果が上がる」との声を頂いている。地域づくりに関しては、地元岩手県をはじめ、北海道から九州まで全国各地で指導・アドバイスをこなしている。 現在、「地域活性」「農林水産業」「6次産業化」「福祉・健康」「教育」「企業活性」「男女共同参画」「リーダー育成」など幅広いテーマで、年間100回以上の講演・研修を行っている。また、自身が主宰し、演出を手がける劇団『ぜんとうようくらぶ』は、「介護保険」「男女共同参画」「健康づくり・生きがいづくり」「食農教育」「集落営農」「団塊世代へのさど帰帰」「協働によるまちづくり」などを題材にした演劇を全国各地で多数上演し、大好評を得ている。その他、「市民憲章運動推進全国大会」「全国農業青年交換大会」「農山漁村女性の日記念の集い」などで、記念講演や演劇公演も行なう。また、現在、岩手の銘柄豚「白金豚」の生産農場とその直営店『源喜屋』のコンサルタントも務め、6次産業化のモデル事例として注目されている。 ※平成23年度の取組概要は別紙参照	農・林・水産業 まちづくり
118	下田 祥裕	しもだ よしひろ			NPO法人KAOの会は、以下のエリアマネジメント活動を行っています。 ※()内は活動の概要、【】内は仕組みを表しています。 1.公共空間の維持管理(駅前広場管理業務)【市委託+地域住民直接負担】 2.賑わい創出(イルミネーションイベント、夏祭り、コンサート、寄席)【公民連携、私企業協賛】 3.デザインコントロール(ビル外観や道並み景観の同調)【地権者間調整】 4.テナントミックス(リーシング、営業内容調整)【新規開発ビル商業床の一括借上げ】 このほか、各種講演活動や視察ヒアリングの受入れも実施しております。	地域コミュニティ・集落再生 まちづくり
119	白仁 昇	しらに のぼる	一般社団法人おきなわ離島応援団	設立発起人共同代表	総務大臣 委嘱「地域力創造アドバイザー」(北大東村担当)においては、沖縄県の指定離島39島の中でも、もっとも生活環境の厳しい島のひとつである北大東島の事情に即した取組を北大東村役場の村長はじめ、役場の職員と真剣に協議を行なった。全国発売の雑誌などにその取組が複数回紹介され、平成20年2月7日には、沖縄の離島市町村単独主催のシンポジウムとしては極めて珍しい有料(3000円)の「頑張れ！北大東島シンポジウム」を都内で開催し、満員御礼となった。	観光・交流
120	須川 一幸	すがわ かずゆき	株式会社地域振興研究所	代表取締役	昭和58年から地域に入り、地域資源の調査の現場で「地域の宝物」を再発見する活動を実践してきた。イベントによる地域活性化から入り、商店街振興、観光振興、農業振興、福祉や教育・文化の振興など地域のあらゆる分野の活性化に企画・計画～実施～検証～時代に合った計画に修正～実施～検証と継続的に地域と関わってきた。特に、宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町については、グリーン・ツーリズムによる活性化にはじまり、商店街振興、観光振興、介護福祉計画、長期総合計画と町のすべての分野に関わり、町のシンクタンク的存在としての役割を担ってきた。その後、熊本県の農産物直売施設(道の駅物産館を含む)の立ち上げ、再建、運営指導などを行い、長崎・佐世保・雲仙アンテナショップ「キトラス」の販路拡大コーディネーターや福岡市商店街活カアップ支援事業の手伝い、JA熊本直売所の運営アドバイス、限界集落での高齢者による地域づくり活動支援等を行い、全国的には地域活性化センター「全国地域リーダー養成塾」の講師やNPO法人全国街道交流会議の理事として歴史街道市町村の街道を活かしたまちづくりにも参加している。また、JICAで中央アジアや中南米の行政研修の講師も務める。	農・林・水産業 まちづくり
121	菅 隆	すが たかし	株式会社まちづくり鶴岡	企画部長	中心市街地活性化のための集客機能として、行政出資の無い民間まちづくり会社が、まちなか映画館「鶴岡まちなかキネマ」を運営。その施設活用策としては、映画館の域を超えた地域との連携、市民の利用を考えたイベント・催事等を連続して開催するように企画している。映画館の多面的活用によって、これまでいかに集客イベントを中心市街地にもたらすことに努力している。 また、周辺商店街との連携策として映画の半券を持って行くと特別にサービスが受けられる販促策を映画館側から発信。波及効果をいかに商店街にもたらすかを工夫している。	まちづくり

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
122	鈴木 邦治	すずき くにはる	公立大学法人 名城大学	北部生涯学習推 進センター長	<p>今までの体験から、取組として「一人でも多くの方が住んで良かった！」と言える町おこしをするには、時時刻々と経済情勢や政治、住民感情が変わるのと同様に価値観も変わります。現在進行中の企画が本当に的を得たものなのかを逐次見直す必要があります。また目的と手段を明確にして目的を見失わないことが大切です。時には担当者が変わり、手段がいつの間にか目的と勘違いされる事がしばしばありますが、仕事は組織がするのではなく、その中にいる個々の人が仕事をこなす事であり、責任を持たせ仕事をさせる事で、人は育つと思っており、自立できる考え方をを持った人を一人でも多く育てることが、地域の発展を推進すると考えております。</p> <p>現在は、自治体と連携し広域による情報通信を用いた教育、介護、農業等の推進および新エネ省エネによる新産業の創出を行っております。</p>	地域交通・情報通信 まちづくり
123	鈴木 達志	すずき たつし	伊豆グリーン・ ツーリズム協会	代表	<p>伊豆体験型観光協議会 伊豆全体の持続可能な観光活性化を図るため、民間事業者が連携する協働事業に取り組みしている。行政区割を取り除くことで、お客様からの視点に立った広域プログラムを制作している。一元化した情報発信と予約センターを設置し、ニュー・ツーリズム推進を進めている。</p> <p>平成20年11月 『学生による体験型観光モニターツアー(山編)』 (富士常葉大学学生とプラン作り連携)</p> <p>平成21年3月 『静岡県 観光商品企画研修』商品モニターツアー 平成21年8月 『感動夏休みスペシャルプラン』 (宿泊、体験を連携させたプラン提供)</p> <p>平成21年10月 『学生による体験型観光モニターツアー(海編)』 (富士常葉大学学生とプラン作り連携)</p> <p>平成22年7月 『学生に寄る体験型観光モニターツアー(海・山編)』 (富士常葉大学学生とプラン作り連携)</p> <p>西伊豆いきいき漁村活性化協議会 衰退する漁業の活性化を図るため、伊豆体験型観光協議会と西伊豆町、漁業協同組合、観光協会、商工会が連携して設立。漁業関係者を中心にインストラクター養成講座を開講し、現在、八種類の漁業体験プログラムが年間を通じて稼働中、さらにプログラム開発を進めている。また、問合わせ・予約・受入等の窓口を一本化し、一般個人客のみならず、学校教育旅行の受入を行っている。2011年から漁業での六次産業化として、漁協直営食堂の新規開発に取り組みを始めた。</p> <p>平成21年12月1日 水産庁 活力ある漁村づくりモデル育成事業『地域リーダー研修会』 平成22年1月 『初級体験指導者養成講座』 平成22年3月 『西伊豆ほんもの体験モニターツアー』 平成22年7月 『初級体験指導者養成講座』 平成22年7月 『夏休み！西伊豆ほんもの海遊びフェスタ2010』(～8月) 平成23年1月 『中級体験指導者養成講座』</p> <p>西伊豆の海や漁村の文化財発掘活用プロジェクト協議会 西伊豆町内の有形無形文化財を活用し、地域文化や民俗芸能の特色を活かすことで、忘れ去られた資源(たから)の掘り起こしと光を当てることを課題としたプロジェクトを進めている。廃道となった旧街道の修復作業と同時に民俗文化史料調査、及び編集出版、当地におけるイルカ文化とをストーリーづけた文化体験ツーリズムを推進している。</p>	地域コミュニティ・集 落再生 観光・交流
124	鈴木 輝隆	すずき てるたか	江戸川大学社会 学部ライフデザイ ン学科	教授	<p>「ローカルデザインから地域をマネジメントする」が研究テーマ。 各地の地域づくりに関わり、北海道東川町、清里町、ニセコ町、秋田県乳頭温泉「鶴の湯」、長野県小布施町、大町市、駒ヶ根市、飯山市、山梨県韭崎町、高知県「四万十ドラマ」、鹿児島県西之表市(種子島)など、ローカルデザインから地域再生を行っている。 東京で、毎月1回、社会人と共に学ぶ「ローカルデザイン研究会」を主宰している。現在87回の開催、参加者は延べ5000人以上。</p>	地域コミュニティ・集 落再生 まちづくり
125	鈴木 泰弘	すずき やすひろ	小名浜まちづくり 市民会議	副会長	<p>1.小名浜まちづくり市民会議の活動を通して地域のまちづくりを推進 ・港湾管理者と小名浜港1・2号埠頭(アクアマリンパーク)の管理運営協定締結 ・いわき市とまちづくりパートナーシップ協定締結 ・市民協働のための研究実施 ・市民大学「小名浜みなとまち大学」設立運営 ・みなとの再開発、市民参加によるみなとまちづくり実施</p> <p>2.観光商業施設「小名浜美食ホテル」開発、設立、運営 ・H20年アクアマリンパーク内に小名浜美食ホテル開設、年間754万人の来訪客 ・アクアマリンパーク内にて年間200件を超えるイベントを実施 *その他イベント等企画、運営、関与多数</p>	観光・交流 まちづくり
126	関 いずみ	せき いずみ	東海大学海洋学 部海洋文科学科	准教授	<p>近年、漁村女性による起業活動が活発化しています。これらの活動は、単に個別の経済活動というだけでなく、それぞれの暮らしやそれを支える漁業に対する熱い想いと、地域の一員として、自分たちだからこそできることで地元を盛り上げていきたいという、強い願いから生まれています。資源を無駄にしたいはもったいない、地域の漁業のことをもっと知ってほしい、地域の中で女性たちが生きがいを持って働ける場を創りたい、そんな想いから始まった活動の応援団として、女性たちのネットワークづくりに取り組んでいます。</p> <p>一つ一つは小さな活動であっても、それらが繋がっていくことで大きな力になります。そういう動きが、これからの地域をしっかりと支えていく礎になるのだと思います。</p>	農・林・水産業 まちづくり
127	関 幸子	せき さちこ	株式会社ローカル ファースト研究所	代表取締役	<p>三鷹市産業振興計画策定に従事(平成8年3月策定) SOHO CITY みたか構想 策定に従事(平成9年7月策定) 三鷹市中心市街地活性化基本計画策定に従事(平成10年10月策定) 株式会社まちづくり三鷹(TMO)設立(平成11年9月28日設立) 三鷹TMO構想策定(小売商業高度化事業計画) 三鷹産業プラザ(SOHOインキュベーション施設)第1期・第2期建設 みたかモール(電子商店街 Eコマース)運営・みたか子育てねっと(子育て応援ポータルサイト)構築・運営 秋葉原タウンマネジメント株式会社設立 エリアマネジメントを推進 「市町村サテライトオフィス東京」 2010年10月株式会社ローカルファースト研究所設立。全国の人口減少・過疎化する地域の活性化と地域産業の振興に取り組む 2011年9月 震災復興ワークス設 東日本大震災で大きな被害を受けた自治体支援</p>	地域産業・イノベ ーション・農工商連携

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
128	善養寺 幸子	ぜんようじ さちこ	株式会社エコエナジーラボ / 一般社団法人環境ビジネススイメン	代表取締役 / 事務局長	《環境教育》 環境省「学校エコ改修と環境教育事業」のサポート本部。全国のモデル校を支援 《環境都市デザイン》 新潟県新潟市「西野・中野山サステナブルエコタウン構想(区画整理事業)」企画構想策定 《環境政策コンサルティング》 ・「クールシティ・エコシティ普及促進勉強会」、「ローカーボン地域づくり・まちづくり研究会」等、産官学連携勉強会を開催 ・「内閣府社会起業インキュベーション事業」運営、アドバイス支援 ・産官民協働事業「エコビジネスの芽を見つけ、育てるコンテスト「eco japan cup」」企画・統括プロデューサー	環境 まちづくり
129	早田 吉伸	そうだ よしのぶ	NECパブリックサービス推進本部	システム概念開発G. マネージャー / 中小企業診断士	・「システムデザイン」「情報アーキテクティング」の考え方をベースに、様々な社会課題を解決するためのコンセプトワーク及びその実現のための事業プロデュースを多様なフィールドを通じて実践しています。 ・中長期的なランドデザインを描くことから、現場における「何をやらたいかわからない」という状況の打破まで、マクロ・ミクロの課題を各ステークホルダーの方々と一緒に考え、試行し、解決に導くことをモットーにしています。 ・特に本業であるICT(情報技術)の領域においては、「利活用」「公共サービス」の視点からコンサルティングを実施し、地域活性化に向けた課題解決につなげていきます。	地域交通・情報通信
130	曾我 治夫	そが はるお	東日本旅客鉄道(株)横浜支社	営業部長	各地の観光素材を掘り起こし、見つけ出し、磨き上げて旅行商品にするような仕事を行っています。鉄道を利用した旅づくりには自信があります。	観光・交流
131	曾根原 久司	そねはら ひさし	NPO法人 えがおつなげ	代表理事	山梨県北杜市須玉町増富地域は、かつては農林業が盛んであったが、現在は担い手の減少や高齢化に歯止めがかからず、集落崩壊の危機が迫る地域である。高齢化率62%、耕作放棄地62.3%、という、いわゆる限界集落となってしまう地域である。そんな状況の中、2003年4月の構造改革特区認定のもと、都市農村交流活動を行うことにより交流人口を増大させ、地域の活性化につなげようとする活動が始まった。この活動の開始から約6年経過した現在、活動に賛同した農村ボランティア等も含めて都市部から約10,000人が訪れ、耕作放棄地3.5haの復活、その農地での新たな形で農業生産、また企業の連携による遊休農地活用等の成果も現れてきている。また、2008年3月には、増富地域再生協議会が結成され、それ以来、増富地域一丸となった形で、都市と農村の交流による地域活性化活動が展開されている。また、2009年、関東ツーリズム大学がスタート。この組織においては、フィールドを山梨のみならず、首都圏を中心に1都10県の範囲で、都市と農村の交流のネットワークを作ることを目的に、主にそれを担える人材の育成を行う。	地域産業・イノベーション・農工商連携 農・林・水産業
132	高木 治夫	たかぎ はるお	京都フラワーツーリズム合同会社	プロデューサー	「花なび」による観光振興、地域振興 <a href="http://flowertourism.net/">http://flowertourism.net/</a>	地域産業・イノベーション・農工商連携 観光・交流
133	高木 義夫	たかぎ よしお	藍住町商工会	主席経営指導員	平成16年3月より、美郷物産館の指定管理を受け、特産品開発や物産販売、体験観光などに取り組む。 平成19年より、過疎地域の活性化を図るため地域ブランド「キレイのさと美郷」として、オーガニック商品開発、美郷流マクロビオティック料理開発、体験型農家民宿に取り組む。 地域特産品の梅を活用した新たな産業おこしとして、構造改革特区制度を活用し、平成20年7月に吉野川市美郷地区が全国初の梅酒特区の認定を受け、酒類製造許可の支援に取り組む。 平成21年11月に梅酒特区のPRと梅酒の販路拡大のため「美郷梅酒まつり」を行う。 平成23年11月、「体験型民泊マイスター(主催:美馬市地域雇用創造協議会)」を支援	地域産業・イノベーション・農工商連携 観光・交流
134	高島 利尚	たかしま としなお	たまIT戦略会議	議長	<たまIT戦略会議> 地域の活性化は、地域の中小企業者が、やる気を持ってチャレンジしていくことが肝要であるが、同時に自治体、中小企業支援機関が一体となって支援していくことが大切である。という前提で、市役所、商工会議所、商工会、地域金融機関等と地域のITベンダーのグループ・組合が一体となって、地域中小企業のIT化促進、個々のITベンダーの活性化に向けて取組んでいる。 <中小機構関東支部 経営支援部> 地域資源活用プログラム、農工商連携の案件掘り起こしから、認定申請書作成、認定後のフォローアップに至る一連の活動の支援を行なっている。	地域産業・イノベーション・農工商連携
135	高津 定弘	たかつ さだひろ	関東学園大学	経済学部 教授	専門家として「国土政策・地域政策・都市政策」に取り組む。	地域産業・イノベーション・農工商連携 まちづくり
136	高村 義晴	たかむら よしはる	福山市立大学都市経営学部(京都大学客員教授・日本大学客員教授)	准教授	①「人口減少社会における持続可能な都市・地域づくり」の新たな方法論として、その土地々々の美意識や作法、技、資源を生かした暮らしのスタイル(ライフスタイル)を築き、そのブランド化をとおし、手仕事・生業、信頼と絆、誇りを生み出す都市・地域づくりを展開。 ②疲弊の進む郊外型住宅団地の再生法について、「住民の住民による街づくり会社方式」の提唱、土地の利用と所有の分離、また手仕事や楽しみ、暮らしの創造などを提唱。 ③その土地々々の多彩な暮らしのスタイル、暮らしの楽しみ方を築き、それに彩られる地域の営みや手工芸品を語る生活文化創造産業の普及運動(クールジャパン)と展開(経産省) ④条件不利地域などの「地域の起業」を総合的に支援する仕組みづくりとその実践に取り組む(京都大学) ⑤復興地域の実態の即した住宅地開発・地域づくりを提案しその実現に取り組む。	まちづくり
137	高本 社	たかもと そう	(株)白鳳堂	専務取締役	○筆の生産販売○筆は道具なりというスローガンの下、妥協しないモノ作り、良質の材料を安定して入手し、鍛えられた従業員が生産にあたり、その商品が消費者に受け入れられ満足する、仕組み作りと、人材教育。また、国内のみならず、海外にも進出。 ○ものづくりの文化雑誌『ふでこ』の発行	地域産業・イノベーション・農工商連携

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
138	滝澤 恵一	たきざわ けいいち	農業経営支援センター	副会長	主として長野県を中心に民間企業、農業者、農協、森林組合、3セクなどの経営診断指導の他、農林物産開発、農工商連携、むらおこし、まちおこし、商店街活性化、TMO構想策定、まちづくり会社設立、NPO法人、地域ブランドづくりなどを診断指導。会社再建なども手がける。農業経営、地域資源活用、農工商連携を含めてさまざまな経営相談を年間50回程度実施。「創業塾」「経営塾」「マーケティングセミナー」や「農業革新塾」「農工商連携人材育成研修」などの企画および講師をつとめる。講演会、セミナー、研修などの講師は年間100回程度。	地域産業・イノベーション・農工商連携 農・林・水産業
139	田口 久義	たぐち ひさのり	NPO法人 田沢湖ふるさとふれあい協議会	代表理事	○都市農村交流 ○パソコンに私の名前を打ち込んでください。 そして、検索ボタンをクリックしてください。	観光・交流
140	竹田 純一	たけだ じゅんいち	東京農業大学 農山村支援センター	学術研究員・事務局長	社会的協働による山村再生対策構築事業「山村再生支援センター」(長野庁) 里地山山保全方策の検討とモデル地域づくり(環境省) トキの野生復帰をめざした共生と循環の地域社会づくり(環境省、新潟県) 人と自然が織りなす里地環境つくる(農水省、環境省) アペサシヨウウオの保全と地域社会づくり(福井県庁) 神奈川県里地山条例検討委員、里地山山づくり事業、他(神奈川県庁) 日本の里地山30保全活用コンテスト事務局(読売新聞、環境省) イオン里地山保全活動(イオン環境財団) この他、エコスクール、再生建築の調査、水保セミナー、市民政策提言フォーラム、かおり風景百選、星空の街あおぞらの街全国大会(環境省)	地域産業・イノベーション・農工商連携 地域コミュニティ・集落再生
141	竹村 利道	たけむら としみち	特定非営利活動法人ワークスマイらい高知	代表	障害のある人の社会活動支援としてm's kitchen, m's place, m's factory, 就労支援・研修センターみらい, sweets factory STRAWBERRY FIELDS, 甘味茶寮 さくらさく。、ひだまり小路 土佐茶カフェ、アートゾーン菓工倉庫を運営しています。	地域産業・イノベーション・農工商連携 地域医療、福祉・介護、教育
142	竹本 慶三	たけもと けいぞう	させほ四ヶ町商店街協同組合	理事長	郊外大型商業施設店舗に対抗すべく、アーケードでつながる百貨店と二つの商店街を「さるくシティ403」と名づけ一体的に活動するなど、商店街の組織化に尽力、まちを「出逢いと交流の場」にするため、大規模な市民参加型イベントを主催している。特に百万個の電球でライトアップする「きらきらフェスティバル」や27万人を集客する[Yosakoiさせほ祭り]は全国的なイベントに成長した。その甲斐もあり佐世保の中心商店街は20万都市では「日本一元気な商店街」と言われるまでになっている。「まちを元気にする」講演・まちづくり指導に全国を飛び回っている	観光・交流 まちづくり
143	田島 信太郎	たじま しんたろう	田島山業(株)	代表取締役	昭和60年、林業経営を引き継いでから、伐採搬出等のイノベーションに努めてきました。その基盤たる作業道(幅4m以上10t車通行可)の建設を進め、20km以上建設、30km以上管理しています。伐採搬出については協力企業と共に、高性能林業機械による施業体制の確立に努め、約250m/haの作業道を建設しつつ、フォワーダ、ハーベスタ等を駆使した定性間伐を推進しています。また、平成20年度新生産システム事業を活用し、「山土場での丸太の選別、工場直送システム」を構築、これを更に効率化してまいります。また、平成3年からは都市部に住む学生、社会人等との森づくりプログラム、子ども達を対照とする森林環境教育プログラムを実施している。	農・林・水産業
144	田城 孝雄	たしろ たかお	順天堂大学スポーツ健康科学部健康学科	教授	平成9年国立大学附属病院として初めての総合医療連携部門(医療社会福祉部)を立ち上げました。さらに地域包括ケアの先進モデルである広島県尾道市の取組みの解析(平成17年・18年厚生労働科学研究費補助金 長寿科学総合研究事業)を行い、様々な知見を得ました。東京都保健医療計画推進協議会改定部会や世田谷区地域保健福祉審議会での議論を通じ、地域における保健・医療・福祉計画の立案に関与し、また直接的な地域活動として、板橋区乳がんの地域連携パス検討委員会委員、足立区糖尿病対策協議会アドバイザー、横須賀市医師会医療連携協議会アドバイザーなど、いろいろな立場の方の意見を尊重しながら、地域の保健・医療・福祉(介護)のネットワーク作りに取り組んでいます。また全国で招請され講演などを行っております。	地域医療、福祉・介護、教育 地域コミュニティ・集落再生
145	館 逸志	たち いつし	内閣府	大臣官房審議官・経済社会総合研究所総括政策研究官	平成18年～北陸先端大にて地域再生システム論を開講。カリキュラムの作成、企画・運営に関わる。以来、大学を拠点とする産官学連携の地域活性化に関わってきた。具体的には、北陸先端大では、温泉地の活性化、伝統工芸と地域活性化、鳥取大では、地元出身の経済人の地域貢献活動の支援としての大山活性化講座の開講、熱海・湯河原では民間主導で県境を跨る広域的な地域活性化を進める取り組みを支援している。内閣府の経済社会総合研究所においては、こうした大学の地域活性化システム論の展開を横断的に支援するためにカリキュラム研究会を開催、昨年度北陸先端大の取り組みの紹介を含めた中間報告を取り纏めた。今年度には、学部レベルでのオフキャンパスプログラムの取り組みを含めた最終報告書を纏める予定。	観光・交流
146	田中 孝治	たなか こうじ	NPO法人 地域づくりサポートネット	副会長	90年、地域課題の解決に学際、人際(知恵のワーク)で取り組むため「静岡地域学協会」を設立、静岡県主催の人材養成塾「しずおか・未来・人づくり塾」と連携(10年間継続、300人余の卒業生)。01年、伊豆地域の自噴型地域づくりの母体となるNPO伊豆(地域活動のプラットホーム)を設立(FC伊豆、日本風景街道に取り組む)。ローカル・シンクタンクの必要性を提唱、「手足(実践活動)付きコミュニティ・シンクタンク」を掲げ、「NPO法人地域づくりサポートネット」を設立(道のエコミュージアム、道路景観、日本風景街道「ぐるり富士山」、「東海道2峠6宿」、浜名湖環境ネットワーク、浜松市市民協働センターの指定管理等)に取り組む。知恵のネットワークは全国に拡大。	観光・交流
147	田中 勝	たなか まさる	㈱美瑛の学び舎	代表取締役	2006年から毎年12月に廃校にて俵真布交流フェスティバルを実施。地元と都市部住民、地元同士の交流を図る。 2008年からおこなった農作業着のファッションショーが全国的なブームとなる。 2009年2月冬の美瑛の丘に100m四方の巨大な雪上絵を描き今年で3回目を迎える。 2009年から旭川大学との共催により農業ビジネスセミナーを開催。 2010年から旭川大学との共催により地域の町議会議員を対象に「地域政策立案研究会」を開催。 1. NPO法人「タニマチ・アグリ・ジャパン」理事 農業経営における自己資金調達のお手伝いをする活動。 2. NPO法人「美瑛越冬野菜研究会」会長 保存食料のノウハウを継承し、農業が冬場の収益とする一方、消費者に安全、安心、真に中身のある食材を提供する活動。 これまでの廃校活用から一歩前進し地域活性化のために農業振興策を提案しています。	地域産業・イノベーション・農工商連携 農・林・水産業

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
148	谷川 良一	たにかわ りょういち	特定非営利活動法人グラウンドワーク西神楽	理事	・人口高齢化に伴う諸課題や、農村に滞在して農作業を体験し安全な食を確保したいなど都市住民の意向に対応すべく、都市と農村の連携を見据えた冬季集住や夏季滞在のための実態調査、地域住民の意向調査、新たな居住形態を踏まえた農村整備の在り方、農村住民の冬季集住と都市住民の二地域居住を組み合わせた「新たな地域共同体」のあり方を提案する。・シーニックバイウェイ北海道は「みち」をきっかけとして、地域の方々が主役となって、行政や企業などと連携しながら、広域的に美しい景観づくり、活力ある地域づくり、魅力ある観光空間づくりに取り組んで、愛着と誇りの持てる地域を実現する取り組みである。北海道の12ルートの中の大雪・富良野ルートにて活動を始め10年目を迎える。・地域の課題を地域自らが向き合い、「宝」に変える！！地域の活動の自立的な発展とそれによる地域活性化を実現するために、地域にある様々な資源の「新しい公共」の考え方に基づくコミュニティ活動への参加を促進するコミュニティ活動支援ファンドの試行。	まちづくり
149	谷本 訓男	たにもと のりお	八幡浜港みなとまちづくり協議会	会長	八幡浜港みなとまちづくりの会長として、市民フォーラムの開催、みなとまちづくりプランの策定、みなとまちづくりコンペの実施、市長へのみなとまちづくり提言書の提出など、産・民・官・学との連携による地域のみなとまちづくりを先導的に推進しています。平成18年より地元高校生生徒に授業として「まちづくりとものづくり」の講演行っております。平成19年 社団法人日本港湾協会 企画賞受賞。	まちづくり
150	田淵 正人	たぶち まさと	近江屋ツアーセンター	所長	■観光振興(ニューツーリズム・体験交流型観光)支援・指導 ◇観光振興計画策定 ◇観光振興や地域活性化をテーマとした講演会・セミナーなどの講師 ◇プラットフォーム・コーディネート組織や仕組みづくりの支援・指導 ◇体験プログラムや着地型ツアーなどの商品造成支援・指導 ◇人材(コーディネーター・インストラクターなど)育成 ■まちづくり・地域おこし ◇地域活性化支援アドバイザー ◇中心市街地商業活性化アドバイザー	観光・交流 まちづくり
151	玉川 孝道	たまがわ たかみち	西日本新聞社 西日本新聞会館	顧問 代表取締役社長	(1)国土形成計画ほか。地方計画作成委員 (2)道守九州会議 日本風景街道戦略委員、九州風景街道推進会議専門小委員会委員長 (3)交通問題 各種委員会委員	観光・交流 地域交通・情報通信
152	玉田 樹	たまだ たつる	(株)ふるさと回帰総合政策研究所	代表取締役所長	○いま若い人たちを中心に「仕事をやめてでも」「研修を受けてでも」田舎で働き生業をつくりたい人は30%に上ります。当社は、ふるさと起業塾を通してこの支援をしています。 ○地方の空き家300万戸は市場に出ない現状ですが、当社の調べでは、大都市に移住してしまった家主の多くは賃貸・売買を望んでいます。当社は、借り手の家賃を原質にした「低廉な空き家水回り改修モデル」を開発し、市場化を支援しています。 ○企業雇用が不安定化しています。雇用のバッファとなる“農業”が企業の人事制度のなかに組み込まれる時代が到来しました。当社は、企業の人事制度、福利厚生制度とふるさと回帰がリンクした社会システムの形成を目指しています。	地域産業・イノベーション・農工商連携
153	玉村 雅敏	たまむら まさとし	慶應義塾大学総合政策学部	准教授	・地域の生活課題や生活価値、地域力・ソーシャルキャピタル、地域のアウトカムなどを、関係者参加型で調査し、その「みえる化」と「共有化」から協働・共創を促すシステム構築を実践。 ・青森県「政策マーケティング」や、愛知県東海市「まちづくり指標」、足立区五反野小学校「こども未来ベンチマーク」、青森市「まちなかマーケティング」、長崎歴史文化博物館「文化・観光施設のサービス生産性向上プロジェクト」、長崎県「地域力向上支援事業」などの実践事例を支援。 ・関係主体の効果的な協働や共創を生み出し、また、内発的な活動を支援するための情報システム構築や場づくりをおこなう。 ・実践フィールドとしては、まちづくり・地域活性化、商店街振興、学校教育・子育て環境、地域スポーツ、ミュージアム経営、農工商連携、サービス生産性改革など。	地域コミュニティ・集落再生 地域交通・情報通信
154	田村 伴次	たむら ともつぐ	中日本建設コンサルタント株式会社	顧問	港のファンを増やす事を夢見て、NPO法人「伊勢湾フォーラム」を立上げ現在相談役を務める。ここ数年「みなとまちづくり」、「中川運河活性化」に取り組み、またボランティア活動として名古屋市港生涯学習センターに於いて、みなとマイスターづくりの講師として取り組んでいる。	まちづくり
155	田村 文男	たむら ふみお	NPO法人密集住宅地区整備促進協議会	専務理事	木造住宅密集地域の地権者、関係権利者に対して、阪神・淡路大震災の教訓を生かして、木造住宅密集地域における改善・防災・環境の向上・過密した市街地の有効活用や建物の共同化及び整備に関する研究を行い、安全で快適なまちづくりに寄与するとともに、高齢者・障害者介護及び医療施設の基盤整備を促進する事業を行い、要介護高齢者・障害者福祉及び医療の増進に寄与する。 ・医療法人仁医会 介護老人保健施設コンサル ・社会福祉法人善光会福祉複合施設コンサル(工業専用地域に建設) ・耐震偽装マンション グランドステージ池上 建替えコンサル(マンション建替え円滑化法)・密集住宅地区整備共同化 アイリス番館(80戸)ル・サンクアイリスタワー(208戸)外10棟・ものづくり工場アパート建設コンサル(民設民営工場アパート、延床2400坪) ・京急蒲田西口再開発(2.5ha)神社、お寺を含むまちの再生「あすとふるさとの森創造プロジェクト」推進	まちづくり
156	近兼 孝休	ちかかね たかやす	株式会社琴平グラウンドホテル	代表取締役会長	○国の重要文化財指定「金丸座」で、歌舞伎公演を26年間実現 ○自社掘削の温泉を地元旅館に供給 ○琴平町観光協会主催の「石殿マラソン」の実行委員長として尽力 ○「こんぴら温泉祭り」の開催 ○「香川せとうちアート観光圏」(滞在型)の実現につき真摯に取り組んでいく	観光・交流 まちづくり

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
157	塚本 芳昭	つかもと よしあき	(財)バイオインダ ストリー協会	専務理事	産学連携、技術移転、ベンチャーと製薬企業等のアライアンス、クラスター形成等の地域振興(特にバイオに関する地域振興)に関する業務を実施しています。また東京工業大学、産業界の方々と連携して社会で幅広く活躍できる博士課程の人材育成に関する業務にも取り組んでいます。	地域産業・イノベーション・農工商連携
158	坪田 知己	つぼた ともみ	株式会社 シン フオンティ	取締役	2003年から2008年まで、日経地域情報大賞を主宰し、地域情報化の事例を幅広く収集し、これについての講演を各地で行ってきました。2003年から慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの学生・院生と地域活性化のプロジェクトに参加してきました。2010年以降、横浜を拠点に地域コミュニティの再生に関わり、主にママさんたちに「文章の書き方」を教え、ブログなどネットでの発信力を強化し、その力で地元商店街(東京・杉並区や川崎市新丸子など)のファンづくりに取り組んでいます。また、新聞記者時代の取材力を生かして、事例紹介の文章をネットや本の出版の形で公開しています。	地域コミュニティ・集落再生
159	鶴田 浩一郎	つるた こういちろう	NPO法人 ハットウ・オンパク	代表理事	NPO法人ハットウ・オンパクは、別府八湯地域において温泉を核とした様々な産業を起こす事を目的としています。この取組みを通じて実現したいのは以下の3点です 1. 地域の資源(温泉、自然環境、町並み、人材など)を活かした多彩なプログラムの提供を通じて、各種のサービス産業が成長すること 2. オンパクに参加する事で住民が健康で前向きな暮らし(ウェルネスライフ)を送る事ができ、生活の質(QOL)の向上につながる事 3. 旅行者がオンパクに参加し、各種の体験や交流の機会を得る事で別府八湯のファンになっていただき、リピート化や長期滞在化を実現する事	観光・交流
160	寺井 良夫	てらい よしお	株式会社 邑計画 事務所	代表取締役	●まちづくりのコンサルタント 株式会社邑計画事務所では、主に岩手県内のまちづくりに関するコンサルタントを行っています。一方、仕事外でもまちづくりに関わるさまざまな実践活動に取り組んでいます。 ●被災地支援活動 東日本大震災を機に市民のボランティア団体「一般社団法人SAVE IWATE」を立ち上げ、理事長として物資支援、生活相談、心のケア、仕事づくり、学習支援、チャリティ活動など、幅広い支援活動に取り組んでいます。そのなかで、地域の埋もれた資源であるクルミを活用しての特産づくりが動き始めています。これからはとくに被災地での仕事づくり、新たなまちづくりに重点をおく考えです。 ●民俗芸能や伝統文化の活用 若手に伝わる神楽、鹿踊、剣舞などの民俗芸能を地域の活性化に活用するため、「いわて民俗観光プロジェクト」を組織し、代表として民俗芸能のイベント開催や情報発信を行っています。また、北東北茅葺きネットワークを組織して茅葺き民家の保存活用を進めているほか、盛岡芸妓の育成にも取り組んでいます。 ●川の活用 盛岡の中心部を流れる中津川を活用したまちづくりのため、「NPO法人もりおか中津川の会」を組織し、事務局として川の清掃、川で遊ぶイベント、野の花の植栽、川の講座などを行っています。 ●交通対策 マイカーに過度に依存した社会からの転換をめざすため、「減クルマでまちづくり実行委員会」を組織し、事務局として各種の社会実験や啓発活動に取り組んでいます。これまでに実施した社会実験は、馬車の運行、パーチケの駐輪場化、自転車レーンの設置、バス路線の変更、モビリティマネジメント、雪かきスコープの設置、啓発資料の作成などです。また、岩手県全域の鉄道とバスの交通案内システムを開発しネット上でサービス提供しています。	観光・交流 まちづくり
161	土居 年樹	どい としき	天神橋筋商店連 合会	会長	昭和56年5月日本の商店街初の文化ホール「天三カルチャーセンター」を開設。以来、今日まで 天神橋筋商店街を中心に、1)地域文化の掘り起こし 2)物づくり文化の再生 3)あきんど文化の情報発信 4)観光文化の活性化 5)教育的事業の提供 6)芸能文化の再構築 などの事業を展開する。街に文化を取り戻すことを一貫して貫き、その集大成として70年振りに大阪天満宮の敷地に上方落語の定席「天満天神繁昌亭」を募金活動で立ち上げる。(総額2億4千万円)この間に商店街の活性化が徐々に進み、50年代の通行量が一日8000人が現在35000人となり、他府県よりの観光客も大幅に増えた。日本一長い商店街、鳥居の付いたアーケード、修学旅行生の一丁目体験などのキャッチコピー、日本初の企画など多数。	まちづくり
162	刀根 浩志	とね ひろし	観光ビジネス総研	代表	地域ツーリズムの創出、着地型観光の整備、観光交流ビジネス支援、体験インストラクター・観光人材の養成、体験プログラムの開発、ツーリズムマーケティングプラン、コミュニティビジネスプラン、地域特産品の開発、食のコーディネート・食の開発	地域産業・イノベーション・農工商連携 観光・交流
163	富田 宏	とみた ひろし	(株)漁村計画	代表取締役	漁村・漁港に係る地域振興計画や中小漁村を中心としたまちづくりに関するコンサルタント活動を中心に、大学などの研究者や現場でのシンポジウムや住民との膝詰めのパネルディスカッション、雑誌・著作等への漁村の地域振興に関する意見の発表等に取り組んでいる。	地域コミュニティ・集落再生 農・林・水産業
164	富永 一夫	とみなが かずお	NPO法人 フュージョン長池	理事長	1. 地域活性化支援事業 都市型のお祭り等の地域ボランティア活動支援 2. 住宅管理支援事業 多摩ニュータウンのマンション管理の支援事業 3. 住まいづくり支援事業 コーポラティブ住宅建設支援事業 計20戸を完成 4. 高度情報化支援事業 高速インターネットの普及事業 5. 長池公園支援事業 指定管理者フュージョン長池公園(3社連合)の代表団体	地域コミュニティ・集落再生 まちづくり

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
165	友廣 裕一	ともひろ ゆういち	一般社団法人つむぎや／Resource Coordinator	代表理事	<p>過疎地・限界集落 日本一周プロジェクト「ムラアカリをゆく」では全国約80箇所の農山漁村を訪ねた。その間はすべて生活者の家に泊めてもらいながら、それぞれの土地に根ざした仕事を手伝わせていただいた。寝食・労働をともにする中で、俯瞰的に眺めるのではなく、より生活に近いところから「地域」を体感し、真の「地域活性化」とはなにかを考え続けることができた。その経験を元に、現在はご縁をいただいた地域とつながりながら、新たな事業の立上げ支援等を行っている。2011年3月以降は宮城県石巻市牡鹿半島部に位置する漁村地域にて2つの地域の漁家の女性たちと、2つのプロジェクトを実施中。</p> <p>■鹿角&amp;漁網補修糸を使った手仕事ブランド「OCICA」 石巻市牡鹿半島漁村の女性達が、土地の素材である鹿角を加工して手仕事でつくる製品ブランド。商品製作および販売を通して女性達への手仕事収入創出とコミュニティ再生を目的としています。 <a href="http://www.sotokotoshop.net/item/ocica.html">http://www.sotokotoshop.net/item/ocica.html</a></p> <p>■漁網100%ミサンガ+オシカハウス(牡鹿半島鮎川浜 地域と人がつながるコミュニティハウス) 石巻市牡鹿半島 鮎川浜・新山浜に在住する、牡鹿漁協女性部有志グループ「マーマメイド」(現在7名)が手がける、漁網100%ミサンガの製作・販売支援プロジェクトです。</p> <p>■その販売益をストックし、次に展開するのが「オシカハウス(仮)」です。地域で取れた海産物を活かした飲食店経営と、漁網ミサンガ等地元発商品の販売などを通じて、地域文化を発信し、地元内外の人間士をつなぐコミュニティハウスを建設します。他には、東京都墨田区にて生産者と生活者をつなぐ青空市のプロデュース、アジアでコミュニティのあり方を考える「SEED Project」の企画、フォーラムの企画・運営・ファシリテーション、雑誌での連載等も行う。株式会社アマタ持続可能経済研究所 アソシエイト・フェロー。農林水産省「農山漁村(ふるさと)地域力発掘支援モデル事業」アドバイザー。</p>	地域コミュニティ・集落再生 農・林・水産業
166	豊重 哲郎	とよしげ てつろう	柳谷自治公民館	館長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政に頼らない地域再生</li> <li>・自主財源確保に集落営農(さつまいも栽培)、家畜の悪臭対策に土着菌製造販売、PB商品として焼酎「やねだん」製造販売、加工商品等</li> <li>・自主財源活用 2006年に全戸に余剰金500万円から1万円ボーナス支給 7,000円の自治公民館費(年間)を4,000円に減額 高齢者の孤独死対策に緊急警報器設置、シルバークード貸与 小中学生対象に寺子屋開設</li> <li>・空き家を迎賓館と名付けて芸術家7人が移住</li> </ul>	地域コミュニティ・集落再生
167	永井 美穂子	ながい みほこ	元(財)佐世保観光コンベンション協会	企画・イベント課長(2007年退職)		観光・交流
168	長岡 力	ながおか つとむ	(株)リンクアンドイノベーション	代表取締役	<p>地域と中小企業のイノベーションを専門とする経営コンサルタント。</p> <p>平成23年度の主な活動実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人西会津地域活動支援センターにおける「地域雇用創造ICT絆プロジェクト」等を活用した会津地域のソーシャルビジネス支援。</li> <li>・沼田市東部商工会、青山学院ヒューマンイノベーションコンサルティング株式会社における「農工商連携等人材育成支援事業」を活用した農工商連携人材の育成支援。</li> <li>・NPO法人小田川流域活性化支援センターにおける「森林づくり国民運動推進事業」を活用した森林づくり、里山活動支援。</li> <li>・安中市商工会、群馬県商工会連合会における「小規模事業者地域力活用新事業全国展開支援事業」を活用した群馬県内地域産業活性化支援。他</li> </ul>	地域産業・イノベーション・農工商連携
169	中川 庄嗣	なかがわ しょうじ	市民ボランティア団体 渡し場かもめ会	相談役	<p>1.渡し場かもめ会は平成12年4月に設立され約12年経過</p> <p>2.会員は145名で活動をしている</p> <p>3.活動内容</p> <p>(1)環境浄化活動 毎月第一日曜日に地元の海岸1.5kmの清掃、公園の草刈と清掃</p> <p>(2)環境啓発 地元小学校児童に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海の環境を守る標語を募集し優秀作品を海岸の高札に掲示している</li> <li>・地元高浜の干潟の生き物を調査し、国土交通省職員に解説してもらい、干潟の生き物の現状の理解を深めている</li> <li>・船の提供を受け衣浦の海に出て、水質調査をし、海水の汚れの状況を実感して貰うと共に、衣浦港の沿岸の産業の立地の様子も説明し、海との関わり方の理解を深めている</li> </ul> <p>(3)地域文化の継承 その最大のイベントが芳川渡し場まつりである。</p> <p>昭和31年まであった対岸との渡し舟にちなみ、毎年嫁入舟を仕立て、海に繰り出し来場者の多くに感銘を与えている。花嫁は公募、仲人は地元の有力者、船頭は若者が務め盛り上がりがある。岸では沢山の屋台が並び大正琴・太鼓・金管バンドで賑やかである。毎年1500人位の人が訪れる。福祉基金は地元福祉施設に寄贈している。</p>	環境まちづくり
170	中澤 さかな	なかさわ さかな	道の駅 萩しーまーと	駅長(専務理事)	<p>萩市という現実のフィールドで、●道の駅など地産地消拠点の開設運営 ●地域一次水産品のブランディング ●地域水産資源を活用した新規加工商材の開発 ●ブルーツーリズムの開発 ●地域水産物の都市部販路拡大 ●地域出版事業 ●地域情報の発信事業 ●観光資源開発事業などなど、地域振興に関わるプランニング・運用実務を当事者として実践してきました。実践者でない経験できない苦労や喜び、一応リアルに実感してきたつもりです。昨年度はFOOD ACTION NIPPON AWARED(流通製造部門:優秀賞)を受賞、今年度は、地産地消全国優良活動表彰にて、農林水産大臣賞を受賞しました。これらの賞を励みに、引き続き地道な活動を継続したいと考えています。</p>	地域産業・イノベーション・農工商連携 農・林・水産業
171	中島 淳	なかしま じゅん	(株)カルチャーアットフォーシーズンズ	代表取締役	<p>地域が考えていること、願っていることをカタチすなわち仕組みにしようとする。例えば最近の活動として</p> <p>①「首都圏市場開拓」:具体的なアンテナショップの開設を受入体制づくりから取り組み、継続できる仕組みを構築。</p> <p>②「交流商品づくり」:ツーリズムツアー商品の造成や鉄道会社との連携で企画切符を販売。</p> <p>③「宿泊施設再生」:対象域内で新しい民宿スタイルを整備。家族を対象とした新ブランドを構築し発信しながら新たなツーリズムのカタチを整備。</p> <p>④農産物新パッケージ:農業の新しいパッケージをプロデュース。デザイナーが募集して2008年グッドデザイン賞受賞。</p>	観光・交流
172	中野 和久	なかの かずひさ	(株)サイエンス・クリエイティブ	代表取締役専務	<p>(株)サイエンス・クリエイティブは産学連携支援、食農産業クラスター推進事業、イノベーション支援事業を推進する第三セクター。施設内には50室のインキュベーション室があり新事業支援をしている。又、年間を通じて技術者研修事業を開催している。</p>	地域産業・イノベーション・農工商連携

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
173	中坊 真	なかぼう まこと	NPO法人九州バイオマスフォーラム	事務局長	NPO法人九州バイオマスフォーラムは、バイオマスの普及啓発事業、地域モデル事業としてバイオマスの利活用事業、コンサルティング・講師派遣・バイオマス製品の普及事業を行っています。特に草本系バイオマスの収集運搬・利活用技術に関しては、多くの情報・ノウハウを持っています。 バイオマスの普及啓発事業としては、テレビ熊本と連携してH19年度からバイオマスをテーマにした55番組を制作・九州一円に放送しています。また、BDFカートやミニBDF精製プラントを使って、小学校でバイオマスをテーマにした環境教育を行っています。 2011年からは、竹田市の厚生労働省によるパッケージ事業として雇用創出・人材育成の講師・コーディネートを行い、木・竹・BDF・小水力をテーマに、月1回のペースでセミナーを開催しています。また、各地の木質バイオマス利用について、講演・アドバイスをしています。	環境
174	中洞 正	なかほら ただし	(株)山地酪農研究所	代表取締役所長	* 東京農業大学農学部在学中に、猶原恭爾（なおはら きょうじ）氏が提唱する山地酪農に出会い、直接教えを受ける。卒業後、岩手県岩泉町で酪農を開始。 * 野牛と国産乾草主体の飼育、および通年昼夜放牧・自然交配・自然哺乳（産後2カ月程度）でノーストレスの健康な牛を育てる山地酪農と、その健康な生乳による乳製品の製造販売を組み合わせた「中洞式山地酪農」を確立。 * 現在は、山地酪農コンサルタントとして活動中。これまでに自身の創設した中洞牧場以外にも北海道の美瑛ファームなど3～4件の牧場を手がけている。	農・林・水産業
175	中村 隆行	なかむら たかゆき	NPO法人ひろしまNPOセンター	センター長（副代表理事）常務理事	中間支援組織として、①NPOに関する情報の収集提供事業、②NPO共同事務所運営、③NPO資金提供事業（中国労金NPO寄付システム・NPO活動奨励賞・NPOサポート倶楽部助成）、④人材育成事業、⑤ネットワーク構築事業 など行っている。	地域コミュニティ・集落再生
176	中村 哲雄	なかむら てつお	社団法人葛巻町畜産開発公社	顧問 家畜診療所獣医師	町長退任後50ヶ月で講演、講義、地域活性化指導、国レベルの会議に委員として出席の活動は、200回となる。小、中、高生、岩手大学、日本大学などの学生。環境問題に関心のある一般市民グループ。社団法人葛巻町畜産開発公社での牧場経営の経験を基にして中小企業家同友会や倫理法人会などの企業経営者や職員。市町村職員などに講演している。 町長在任中は、葛巻町経営の基本方針を「21世紀の地球規模での、食糧・環境・エネルギーの課題改善」に貢献しながら町の発展的状況を構築すること掲げ積極的に取り組んだ。食糧の課題には、農業、酪農、肉畜の振興を図り「牛乳の生産は東北一」である。又林業の振興により地球規模での環境改善に貢献しようとして「寄付条例を制定」して国民の寄付により森林を守り育てる取り組みに全国から770万円の寄付が寄せられて森林整備を実施。森林組合は「企業の森」を制定して企業の資本で林業の振興を図っている。エネルギーの課題に対しては、風力発電15基、中学校に太陽光発電、くずまき高原牧場に畜産バイオマス発電、木質バイオマス発電、家畜の排泄物から水素を抽出して世界で初めて燃料電池を作ること成功する等の取り組みを実施した。町内には民間企業の木質ペレット燃料工場もあり、「日本一のグリーンエネルギーの施設が揃っている町」を構築した。	農・林・水産業
177	中村 英雄	なかむら ひでお	特定非営利活動法人 新町川を守る会	理事長	自分たちの住む街が永久にきれいなならないとの危機感から、「自分たちの汚れた川は自分たちの手で再生しよう」というテーマの元に、市民の手で人々から愛される美しい川の復活を目的に、市民活動団体を設立しました。平成2年に有志10名で「新町川を守る会」を設立し、月2回の船による河川清掃と、田宮川堤防の修景作業から取り掛かりました。その後は河川清掃はもちろんの事、河川環境啓発無料遊覧船の運航や水際ラブリバーイベント活動を通して市民に河川環境に関心を持ってもらい、人々や魚を少しずつ川に呼び戻し、網状河川に囲まれた水都徳島の再生を目指して、現在も活動をすすめています。今では、毎月2回行っているボートでの川清掃には、会のメンバーだけでなく、企業や学校、官庁からも参加してもらえるようになりました。徳島市新町川と助任川の他、田宮川・吉野川の清掃、ひょうたん島周遊船の運航、花植え、植樹活動など、年間を通して多彩なイベントを行っています。	環境 まちづくり
178	中山 憲治	なかやま けんじ	特定非営利活動法人 瀬戸内里海振興会	常務理事	《過去》・広島県/海域浄化技術事業化ワークショップ 主査 ・食品関連企業/製造副産物の地域資源循環システム研究会 事務局 ・広島大学/浅海改善研究会 取り纏め ・中国経済産業局/バイオマス利活用・事業化検討会 地域アドバイザー等 ・中国経済産業局/中国地域水処理技術の国内外展開検討 委員 ・庄原市、新見市/新エネルギー政策 アドバイザー 《現在》・呉市/海洋環境産業創出の為の研究会 副委員長 ・中国経済産業局/中国地域水処理技術保有中小企業の海外展開 委員 ・江田島市/江田島湾再生協議会 委員 ・島根大学、環境省他/中海再生協議会 委員	農・林・水産業 環境
179	仁枝 章	にえだ あきら	真庭市バイオマスリファイナリー事業推進協議会	事務局長	○1993年に岡山県真庭市の若手経営者を中心とした「21世紀の真庭塾」を設立し（2002年にNPO法人）、事務局長として環境と街並み再生によるまちづくりを推進。この活動の中から、2004年には真庭バイオエネルギー（株）と真庭バイオマテリアル（有）の2企業を立ち上げ、木質バイオマスのエネルギー及びマテリアル利用として地域の新事業創出に取り組んできた。 ○2010年に官民共同で設立された「真庭市バイオマスリファイナリー事業推進協議会」の事務局長に就任し、バイオマスの高付加価値利用及びトータル活用の事業化に取り組む。	地域産業・イノベーション・農工商連携
180	西内 三悟	にしうち さんご	株式会社 三貴商事	代表取締役 社長	民間主導で宇多津町の活性化策案を検討し、具体的な活動に取り組む「まちづくりアクションプラン協議会」を平成15年11月11日に発足。▽安心・安全に暮らせるまちづくり▽交流と賑わいのあるまちづくり▽地域資源を生かせるまちづくりを目的とした会則を定め、初代会長として一昨年まで6年間協議会を牽引してきた。現在は、運営委員として活動中。交流と賑わいの拠点として、手づくり故郷賞を受賞した町道（宇多津ビュレから臨海公園まで約600m区間で毎年4月に歩行者天国を開催。現在も、当協議会がイベント内容を企画立案し開催。県内外から約2万人の方が来場し賑わっている。また、安心・安全に暮らせるまちづくり活動の一環として、地域の方々と連携し、臨海公園周辺の夜間/パトロールをはじめ、まちづくりアクションプラン協議会主催のオーケストラパーティーの売上げの一部を防犯灯設置の寄付金として宇多津町へ寄付活動も行った。	まちづくり
181	野木 武	のぎ たけし	タケチャンファーム	代表	農業体験・環境NPO法人活動（廃食用油回収・地域資源活用）により環境学習消費者・実需者等との交流会、研修会 地域食育・環境教育への参画支援 地域の農業資源保全と活性化	地域産業・イノベーション・農工商連携 農・林・水産業
182	白田 典子	はくた のりこ	(有)良品工房	代表取締役	「いいものプロジェクト」を推進。消費者の声をメーカーや小売店に届ける仕組みをつくり消費者が選んだおすすめ商品・訪れた地域で見つけた商品をセレクトし販売している。地域商品のブラッシュアップや新商品開発へのアドバイス等も手掛ける。 【平成23年度実績】岐阜県飛騨市神岡町	地域産業・イノベーション・農工商連携

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
183	橋立 達夫	はしだて たつお	作新学院大学	総合政策学部 経営学部教授	農村集落活性化を中心として、全国のまちづくりの現場でアドバイスをやってきた。最近では農村女性による地域資源を用いたコミュニティビジネスの立ち上げにつながるワークショップの運営に力を入れている。また、大学の学生とともに地域に赴き、地域活性化のプランづくりから事業の実践に至るまで、地域の方々と協働で行うまちづくりを展開している。	地域コミュニティ・集落再生 まちづくり
184	蜂谷 潤	はちや じゅん	高知大学総合人間自然科学研究科		現在は主に高知県、室戸市、漁協、高知大学で連携をはかり、地場の水産資源のブランド化事業やそれらを利用した新規事業創出等の水産振興プロジェクトの中心人物として活動している。持続的な地域活性化を促すには、単発でなく継続した経済力の向上が必要であり、現在は室戸市で、持続可能な漁業や養殖システムの確立などに力を入れている。個人では海藻やアワビなどの養殖事業におけるアドバイザーとして、各地で活動することや、23歳という若い年齢を活かし、近い目線から若者へ講演活動を行うなど幅広く活動している。2011年には、四国経済産業局と、四国で暮らしと仕事を考えるイベントを開催した。	地域産業・イノベーション・農工商連携 農・林・水産業
185	服部 敦	はっとり あつし	中部大学中部高等学術研究所 株式会社フロンティア・プラネット	教授 代表取締役	豊川(愛知)、四日市(三重)、久米島・北大東島・北中城(沖縄)、柏(千葉)、長崎など全国各地で、産業振興、文化創造、景観形成、低炭素社会形成、科学技術振興等の分野で地域活性化に関するコンサルティング、プロジェクト構築に従事しつつ、研究・教育活動を展開。 【主要な取組の例】 ○北大東村【沖縄県】(地域芸能の創出、地域ブランドの創造、景観形成など) ○豊川市【愛知県】(まちなか交流拠点「まちDENラボ」の企画・運営)	観光・交流 まちづくり
186	服部 年明	はっとり としあき	有限会社 リテールウォーク	代表取締役	①長野市TMOタウンマネージャーに就任後5年間、まちづくり会社の設立、大型空店舗跡活用「商・公益・業務」複合の「もんぜんぶら座」開設、同時並行しTMO直営の食品スーパーを同施設に開設。2年後善光寺門前の空洞化した大門南商店街の再生に取り組む。核施設に土蔵造りの空店舗等を活用した観光商業施設「ばていお大門」開設と、商店街空店舗へのテナント誘致などに取り組み商店街を再生。一方民間事業を誘発し大型店舗跡等の再開発を支援、大型店に頼らない、「住・職・公益・商・観」による生活者視点のまちづくりに取り組む。平成20年より上越市中活協議会アドバイザー。まちづくり会社設立、大型店2店撤退により空洞化する高田地区商店街再生に取り組む。旧長崎屋跡地と周辺再開発「住・商・公益・PK」25年3月完成で工事中。大和百貨店22年4月退店、身の丈にあった地域密着型商業施設整備事業を提案。事業計画策定、特定民間会社を設立し、23年度国・市の支援を受け建物解体整地。24年度経産省戦略補助金申請、同年秋完成予定で取り組む。 ②タウンマネージャーの育成 長野、上越市のタウンマネージャーの在任期間、後任の育成に取り組む。経営者視点で持続可能なまちづくりをもとに指導。 ③地域商店街活性化アドバイザー 佐久市岩村田商店街、鳥取市若桜街道商店街など全国各地の商店街活性化のアドバイザー。 ④個店指導 21年度より3年間秋田県「まちづくり起店モデル事業」の委員を努め、県下24店の個店研修の指導にあたる。商店街の活性化は個店の魅力向上にある。いかに顧客視点の経営に取り組むか、商品は現金、消費は心理学などをベースに即実行型指導に取り組む。	地域産業・イノベーション・農工商連携 観光・交流
187	花井 恒三	はない こうぞう	奄美のトラさん	団塊世代がつくる無償ボランティア	①奄美と本土・沖縄の人材マッチング(ヒューマンネットワークウェア) ②本土・沖縄から奄美に住みたい・投資をしたい・貢献したい方、奄美を調査・研究・提言したい方、奄美で自分を極めたい、表現したい方(マドンナ、男性含む)への奄美の入口案内ボランティア。	地域コミュニティ・集落再生 観光・交流
188	林 弘樹	はやし ひろき	物語法人 FireWorks	映画監督・図書館プロデューサー	商店街を舞台にした住民参加型映画「らくだ銀座」プロジェクトでの全国展開を機に、北海道から沖縄まで今まで数十万人の人々を巻き込む様々な事業を行っている。この事業の特色である『地域づくりに興味のない住民層をも「地域づくり」に巻き込む手法』や『個人や企業、学校等での「関係性の中から創り出す物語」の生成メソッド』が注目されている。その効果は、地域の新たな人的資源の掘起しとネットワーク化など様々な形に現れるが、最大の効果は「その後の地域づくり」を推進するソーシャルキャピタル(社会関係資本)の生成である。得意なのは、そのプロデュースワークで、教育・経済・文化等につながる「共感・共有」への意識のイノベーション創出への場づくり、プロセスづくりを大切にしている。 2010年には岐阜県恵那市にて映画「ふるさとがえり」(2011年ロードショー)を撮影し、映画製作を通じたまちづくりを続けている。それら今までの取組が評価され2010年12月総務省地域づくり総務大臣表彰受賞。 2010年度経済産業省「地域におけるキーパーソン活用・支援方策に関する研究会」委員として、地域からの相談に対し幅広く活躍中。	観光・交流 まちづくり
189	原田 弘子	はらだ ひろこ	マネジメントオフィスHARADA	代表/中小企業診断士	それぞれのまちの環境、資産に応じた活性化事業を組み立て、受益者や担い手を発掘し、持続的可能な組織の構築を目指します。「やらなければならない」活性化事業ではなく、「やりたい」事業と、人材のやる気をプロデュースします。 主な事業領域は、 ①活性化コンセプト及び戦略の策定 ②ソフト事業の企画と、住民主体型の取り組みの誘発 ③まちづくり組織の組成 ④広報、イメージ戦略の立案と実行	まちづくり
190	平井 利長	ひらい としなが	日本貿易振興機構(ジェトロ)	総務部付(外務省 出向、在ポストン 日本国総領事館 領事)	日本貿易振興機構(ジェトロ)では、我が国の貿易の振興に関する事業を総合的かつ効率的に実施することを目的に以下のような業務を行っています。 ・貿易に関する調査をし、及びその成果を普及すること ・我が国の産業及び商品の紹介及び宣伝を行うこと ・貿易取引のあっせんを行うこと ・貿易に関する出版物の刊行及び頒布その他の貿易に関する広報を行うこと ・博覧会、見本市その他これに準ずるものを開催し、若しくはこれらに参加し、又はその開催若しくは参加斡旋を行うこと 東京本部のほか、国内37カ所、海外72カ所の拠点で、皆様の活動を支援します。	地域産業・イノベーション・農工商連携
191	平田 克明	ひらた かつあき	(有)平田観光農園	代表取締役会長	「くだもの」をテーマとし、周年観光できる観光農園を経営。年間20万人の入り込み観光客がある。長野県中野市にドライフルーツ製造の(株)果実企画をつくる。果実加工・レストラン・売店など、6次産業の先駆け事業を行った。食料・農村の政策審議員として、国の農業政策に係わっている。その他、地域中小企業サポーター、広島県教育委員長・経済同友会(ひと・まちづくり委員会)町内会長等で、地域活性化に取り組んでいる。	観光・交流

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
192	平野 暁臣	ひらの あきおみ	(株)現代芸術研究所	代表取締役/空間メディアプロデューサー	<ul style="list-style-type: none"> <li>■イベント 国際博覧会、地方博覧会、地域イベント、文化イベントなど</li> <li>■ディスプレイ・コミュニケーションエンジニアリング 空間デザイン、空間演出システム、スペースコミュニケーションシステムなど</li> <li>■キュレーション 展示企画、展覧会企画、ライブコミュニケーション企画など</li> <li>■施設計画 フィージビリティスタディ、計画立案、企画・設計など</li> <li>■環境計画 長期計画、地域計画、観光開発計画など</li> </ul>	観光・交流 まちづくり
193	フインドレー ロス アントニー	ふいんどれー ろす あんとにー	(株)NAC	代表取締役	「通年型アウトドア体験観光のカリスマ」 冬のスキーによる観光のみの北海道ニセコ地域に、ラフティングなど夏季体験観光の魅力を付加し、国内外からの観光客が集まる通年観光の地に変貌させた。また、「一般社団法人ラフティング協会」の設立に当初から参加しラフティングの安全性やサービス向上を通じてラフティング人口の増加に寄与した。	観光・交流
194	福留 強	ふくどめ つよし	聖徳大学人文学部、生涯学習研究所、NPO法人全国生涯学習まちづくり協会	教授、研究所長、NPO法人理事長	<ol style="list-style-type: none"> <li>①大学と地域の連携によるまちづくりの研究</li> <li>②高齢社会の活性化の提案、「創生運動」の提唱</li> <li>③「子ほめ条例」のまちの推進、町全体で子どもの健全育成</li> <li>④NPO法人全国生涯学習まちづくり協会での活動 まちづくりイベント、研修の企画・実施、地域の調査など 行政職員研修(全国約1000自治体に関与)</li> <li>⑤観光とまちづくり、着地型観光と指導者養成を実施</li> </ol>	地域医療、福祉・介護、教育 まちづくり
195	福間 敏	ふくま さとし	島根県商工労働部企業立地課	参与	<p>主担当業務は企業誘致。若者の雇用の場を創出するために、島根県への立地案件の掘り起こしに注力する。また、あわせて内発型発展への取り組みも重視。地域のやる気ある企業の方々、民間のプレーヤーと対面し、連携して、彼らの悩みを解決していくことこそ重要な役割として、全国を東奔西走している。</p>	地域産業・イノベーション・農工商連携
196	藤井 絢子	ふじい あやこ	NPO法人 菜の花プロジェクトネットワーク	代表	<p>資源循環の具体的な地域モデルとして、「菜の花プロジェクト」をスタートしてから13年になります。食とエネルギーの地産地消をめざす わかりやすく参加しやすい しくみとして全国160ヶ所余で展開中です。毎年「全国菜の花サミット」と「菜の花学会・楽会」を開催し、パワーアップをはかっています。更に、超党派国会議員による「菜の花議員連盟」を通じ、国への政策提言なども進める。</p>	環境
197	藤井 一郎	ふじい いちろう	㈱みどり合同経営	専務取締役	<p>株式会社 みどり合同経営は、東京、高松に拠点を置くコンサルティングファームです。金融・事業・会計を主軸として、中小企業の支援を行っています。 主たる私の活動範囲は、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①地域活性化をもとにした、中小建設業や製造業・飲食サービス業の経営戦略、マーケティング戦略の構築・支援</li> <li>②農業・林業・商業を絡めた異業種連携推進</li> <li>③地域金融機関との連携による地域に貢献する中小企業へのサポート、などです。</li> </ol>	地域産業・イノベーション・農工商連携
198	藤井 信雄	ふじい のぶお	四日市市役所 (三重県)	政策推進部長	<p>・都市計画課で近鉄四日市駅西の四日市工業高校跡地開発を担当 ・企画調整課で名古屋圏の主要5都市(名古屋・豊橋・岐阜市・浜松市・四日市市)による都市間ネットワークや総合計画策定、四日市地域総合開発整備構想策定などを担当 ・商工課で中心市街地活性化基本計画策定や四日市工業高校跡地開発のリニューアルオープン、技術集積活用型産業再生特区などを担当 ・市民文化課で市民活動による地域再生計画や博物館内の丹羽文雄記念室整備などを担当 ・四日市港管理組合で四日市港長期構想の策定などを担当 ・政策推進部で2011年度から2020年度までの新たな総合計画(基本構想・基本計画・第1次推進計画)の策定などを担当</p>	地域産業・イノベーション・農工商連携 地域コミュニティ・集落再生
199	富士川 一裕	ふじかわ かずひろ	(株)人間都市研究所	代表取締役	<p>『まちづくり都市計画』は、誰もが参加できる『生活の道具』です。すなわち、誰もが『まちづくり都市計画家』です(誰もができて専門家もいる、ということでは『料理』に似ています)。 人間都市研究所は、『まちづくり都市計画』の専門事務所として以下のような活動を行っています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①プランニング業務: 環境計画、施設計画、権利調整計画、資金計画等の立案</li> <li>②コーディネーション業務: 協議会、ワークショップ運営等による対話の促進、権利調整</li> <li>③コンサルティング業務: 調査、診断、事例紹介等による指導、助言</li> </ol> <p>※特に、②の対話の促進を重視しています。 ※認定を受けた中心市街地活性化基本計画=久留米市、佐伯市、植木町、山鹿市等</p>	まちづくり
200	藤倉 潤一郎	ふじくら じゆんいちろう	(株)地域協働推進機構	代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地域協働プラットフォーム「タウンシップ」の普及促進 総務省の委託事業として鶴ヶ島市が開発した「寄附による地域協働活性化システム」を独自に拡充し、ICカードや「まちづくりポイント」、「施設予約システム」などを地域SNSに統合。全国10地域に於いて協働のまちづくりを推進する情報基盤として実証事業を展開。</li> <li>■平成22・23年度 内閣府「地域社会雇用創出事業」 社会的企業育成支援事業コンソーシアム/ISB公共未来塾の東京事務局として、2年間で60社以上の社会的企業の起業支援、400名ほどの人材育成に取り組み、その成果として100名を超える地域社会雇用を創出した。鶴ヶ島市(6社輩出)、岡山市(4社輩出)など、これまで社会的企業等の存在しなかった地域に新風を注ぎ込んでいる。</li> <li>■平成23年度 福井県「ふるさと起業創出プロジェクト」 福井県の委託により、基金事業として5名のインターン生を受け入れ、UJターン先の地域に於けるふるさと起業を創出する事業。現在のところ、5名のうち4名が社会的企業の創業に向けて地域に定着する見込みとなっており、県としての評価も高い。</li> <li>■平成23年度 ソーシャルインキュベーションSUMIDA 起業支援 平成23年度に於いて東京都が開設した社会企業家等の支援施設のインキュベーション・マネージャーとしてスタッフ3名を派遣。約20社の起業支援を担当し、好評を博している。</li> <li>■ソーシャルインキュベーション拠点の開設等 横浜市内内地区の再生に向けた市のリーディングプロジェクトとして社会起業家の育成支援を核としたまちづくりの拠点を開設。事業の設計・開発をプロデュースし、市内企業等との共同事業として事業会社を設立。(関内フューチャーセンター”mass*mass”)</li> </ul>	地域産業・イノベーション・農工商連携 まちづくり

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
201	藤崎 慎一	ふじさき しんいち	(株)地域活性プランニング	代表取締役	<p>◆「まちづくりはひとづくり」をキーワードに「よそ者、わか者、ばか者」を活用した住民参加型の自立型地域を目指し、継続的な活動を実現するために、ビジネス視点でのコーチングにより成果を上げていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「富士宮観光戦略プロジェクト」(静岡県) モニターツアーが「800名期待→1,054名参加」になり、その後常設ツアー化。地域人材を活用し、「資源発掘→ターゲット設定」という手順で観光街づくり一体化に向けたプロジェクトを成功に導いた。</li> <li>・「浜名湖えんため」(静岡県) 「遠州灘天然とらふぐ」がジャパンブランドとして大ヒットした。住民主体のワーキングを「浜名湖えんため」として組織化することにより、地産地消のふぐを生み出し、大きな経済効果に繋がった。</li> <li>・「伊勢志摩再生プロジェクト」(三重県) 2000年から始まり、丸5年間実施。どん底に落ち込んだ伊勢鳥羽志摩地域を再生させるために、地域の「ばか者9人」と「よそ者の私」の計10名が指名を受け、県のバックアップのもとプロジェクトとして立ち上がった。月1〜2回の徹底した議論を展開、同時に行動し、地域課題を解決、そして成果を上げた。現在当時のメンバーは地域を支える人材として各方面で活躍中。</li> <li>・「宮崎青島再勢会議」(宮崎県) 新婚旅行のメッカから衰退著しい宮崎青島地域を再生させるために、地域住民が主体となったまちづくりワーキングを実施。当時東国原元知事の人気に頼らず、37名参加による自主的会議を年間70時間行った。地産地消を目指す新名物「あしたばうどん」の開発や様々な案が続出。</li> <li>・「ロケ誘致によるまちづくり」(北海道、栃木県、新潟県、福島県、千葉県、香川県他多数) まちづくり、ひとづくりの次のステップである情報発信において効果的である「フィルムコミッション」の立上げと運営、そしてその発展形である「ロケ応援団」に頼らず、コンサルを実施。伊豆・愛知県東三河・富士宮では特に多くのロケや取材が入り、費用対効果が高い露出と大きな経済効果を生んだ。</li> </ul>	観光・交流 まちづくり
202	藤田 勲	ふじた いさお	神城文化の森 藤田株式会社 一般財団法人 神城文化の森 藤田財団	代表取締役社長 藤田財団理事長	<p>平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」私は、藤田財団の財団ブランドとして【鬼に金棒人形物語】の展開を考慮していました。被災地の様子がテレビで映し出され、どんなに苦しい時でも他人を助力する姿に「先人から受け継いできた習慣、思想」が海外のメディアから称賛される事を頻りに目にしました。被災した直後から続く助力の精神が、今は復興への助力となり一日でも早く復興するように願い、鬼に金棒人形を「助力の象徴」として被災地に届ける【がんばろう！日本 鬼復興祈念プロジェクト】を立ち上げました。</p> <p>大震災と津波により多くの方がお亡くなり、また行方不明になられました。沿岸部を中心に町も壊滅的な被害を受け「無の状態」になり、いまだに被害の傷跡が色濃く残っていますが、大震災から約1年が経ち、手もつけれないと思われた被災地も少しずつ復興に向かっていく様子を実際に見て参りました。被災した地に留まり生きられた大切な命に感謝して必死に生活をされている方々を目にした時「心の拠り所」「心のケア」がとても大切な事に気付かされました。また、公共・公職という立場で大震災、津波に立ち向かわれた公務員・消防・警察・自衛隊の方々には被災者で在りながら公僕としての責務を果たされる姿に苦悩や心の奥の思いを感じずにはいられません。これまで、7回を重ねた【鬼復興祈念プロジェクト】は「鬼に金棒人形及び屋久杉木札」を971体898ヶ所と打出の小槌300個の内250個を岩手県大槌町役場に届けさせていただきました。</p> <p>被災地域の市町村・消防署・警察署・保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校・病院・他に直接届けました。教育現場では、「将来の日本」つまり子供達に「生きられた大切な命」を伝えることの重要性を校長先生をはじめ教員の皆様、地域の方々が大善なこととして考えられていることを知りました。このことは、被災地だけでなく日本全国の全ての子供たちに伝えなければならないと思いました。被災地に赴き、実際に被災された方々に人形を手渡すとき、笑顔で受け取って下さる姿や、後日、ありがたくもお手紙をいただき拝読するときに皆様から『ありがとう』と感謝の言葉や文字を見聞きするたび、私どもの活動が「心の復興」のきっかけになればと心から願っております。</p>	地域産業・イノベーション・農工商連携
203	藤村 望洋	ふじむら ぼうよう	早稲田エコステーション研究所	代表研究員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「灰干しプロジェクト」・・・三宅島の未利用資源(火山灰と豊富な未利用魚種)に着目し、保存のきく高付加価値製品「高級干物・灰干し」として商品化するとともに、商店街や生協などの全国販売ルートを開拓。太平洋の三宅島と、瀬戸内海の笠岡諸島と、日本海の飛鳥を連携する離島の生産ネットワークを構築し、消費地からの遠距離等の条件不利を克服する地域連携ビジネスモデル確立を目指している。</li> <li>・「北前船ルート蔵屋敷ネットワーク」・・・人と特産物と文化を乗せて、港と港をつなぐように運行していた北前船ルートの港や川筋地域と、水都大阪を再び結んで、ネットワークと物流を再開する2つの方法。地震等の災害時に助け合うネットワークを、平常時で活発化させる「美味しい救援物資がやってきた・・・ぼうさい朝市」。食いだおれ大阪は、全国の素材と料理文化があつてのこと。各地から大阪にきた料理人を蔵奉行に認定。現代の蔵奉行が、大阪と地元と結んで美味しい文化の交流拠点となりネットワークを構築。</li> </ul>	地域産業・イノベーション・農工商連携 まちづくり
204	藤原 一夫	ふじわら かつお	藤原コンサルティング	代表	<p>中小建設業の経営革新、再生、新分野進出等、建設業関連専門の経営コンサルティングとして経営指導等を業務とする傍ら、中小企業診断協会東京支部の建設業経営研究会の代表幹事として、建設業経営の情報交換・勉強会を主催しております。</p>	地域産業・イノベーション・農工商連携 環境
205	船崎 美智子	ふなざき みちこ	ライフスタイル研究所	代表	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「女性の視点」女性とその商品を手取る理由は何なのか、どんな時に「商品を買いたい」という気持ちになるのか、女性の心に問いかけ、答を引き出し、マーケティングで確認する。</li> <li>◆「地域づくりの視点」地域外(ソト)の人と一緒に、生産地(ウチ)の「お宝発見ツアー」を実施し、ソトとウチの人が交流し、地域の良さを発見する。「地域のソトからもウチからも、共感を得ることが出来る地域づくり」がポイント。</li> <li>◆「継続して売れるモノづくり」製造過程を見て安心し、生産者の人柄に触れるブランド商品づくりモノを作る。ポイントを絞った「本当に欲しいもの」「売れるモノ」を作ることが大切。ファンと共に商品と一緒に育て、応援する仕組みを作り上げることを実践している。</li> </ul>	農・林・水産業 まちづくり

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
206	龍 憲吾	ふもと けんご	NPO法人ディ!	理事長 兼 放送局長	奄美島興しイベント「夜ネヤ、島ンチュ、リスベクチュ」開催。 あまみエフエムの放送業務など	地域交通・情報通信
207	古川 康造	ふるかわ こうぞう	高松丸亀町商店街振興組合	理事長	定期借地権の導入で「土地の所有と利用の分離」をはかり、まちづくり会社によるエリアマネジメントを実施し、衰退した中心市街地の商店街再生に取り組んでいる。	まちづくり
208	古川 直文	ふるかわ なおぶみ	株式会社 楽市白河	取締役	中心市街地活性化法(旧TMO)の設立から街づくりに参加。街づくり会社 株式会社 楽市白河設立から現在まで運営及び事業立案・事業実施を行っております。街づくりに関するハード・ソフト事業の立案や調査等また、イベント事業の立案を得意分野とします。	まちづくり
209	古庄 浩	ふるしょう ひろし	(株)古庄企画	代表取締役	大手ホテルの総料理長、山形県庄内・食の親善大使、テレビ料理番組レギュラー出演、地域の食文化の講演会など経験豊富。 「地産地消」。現在の主要流通ルートは、大量生産と大量流通を前提として組み立てられており、その中に小規模生産者も料理人の調理場も小規模販売者も組み込まれ、互いの連携や流通ルートを持っていない状況である。地産地消を、生産と販売だけの仕組みだけでなく、料理の現場と料理のノウハウと料理人のネットワークという視点を加えることにより、特にこだわりの小規模生産者に対して、生産方法や生産物の種類の考え方と新たな販路を協働で構築することが可能となり、商店街の店舗や飲食店舗は、大手スーパーにない独自色を出したメニューや品ぞろえが可能となる。地域の食材を使つてのフルコースデザイナー付き商談会の開催や、伝統的食材とその料理方法をプラスした直売所の運営などを通して、食材と料理と商店街が協働で行う地産地消の推進による地域活性化の取り組み。 「新たな全国流通ルートの構築」。料理人の全国ネットワークの活用によって、料理人が推薦する食材を、料理人が推薦するレストランやスーパーで販売する。小規模な生産者と、料理人と、販売者やレストランの連携による新たな流通ルートの構築。「北前船ルートぼうさい朝市ネットワーク」の全国各地と連携する大阪圏のシェフを「蔵奉行」に認定し、ふるさと食材使つた料理とその食材の販売を推進するシェフのネットワークを構築している(現在35名のシェフを認定)。	地域産業・イノベーション・農工商連携 観光・交流
210	傍士 銃太	ほうじ せんた	一般財団法人 日本経済研究所	専務理事兼地域未来研究センター長	・「地域主権とは何か?」に関して講演・執筆 ・地域主権国家の「国のかたち」、生活者目線での具体像について紹介と実践 以下の活動を展開中 ・ご当地ナンバー提唱、ご当地プレート提唱、ご当地空港の提唱、Jリーグ等地域スポーツの現場支援、メニューにおける銘酒の記載提案	地域交通・情報通信 まちづくり
211	細尾 勝博	ほそお かつひろ			・広域連携共生・対流等対策交付金対象地区近畿圏7地区のハード、ソフト事業の指導・助言を行っている。 ・国、県の研究調査検討委員(7役職)、国、近畿地区アドバイザーや兵庫県自治研修所の講師を務めている。	観光・交流
212	本田 勝之助	ほんだ かつのすけ	有限会社津食のルネッサンス	代表取締役	2001年にIT関連会社 株式会社ティーアンドエフカンパニー創業、2003年には日本経営品質賞審査員となる。同社が2005年には会津若松経営品質賞受賞。一方、2004年有限会社津食のルネッサンスを創業し、地域の食と農業のプロデュースを行う。2006年には日本伝統産業の新規事業立ち上げ、コンサルティングのための株式会社ヒルサイドコネクションを創業。2006年～2009年文部科学省プロジェクト(喜多方市・大玉村) 公立学校外部評価・第三者評価・学校経営指導実証事業、2008年経済産業省E物産市プロジェクト地域エージェント、2009年経済産業省E物産市プロジェクト地域プロデューサーとしてJapan Producers Platform立ち上げ事情に参画。地域経営を専門とし、Regional Governance Systemをベースとして地域をプロデュースしていることが特徴。豊富なIT(情報技術)を利用して、食文化をはじめとする会津の洗練されたものを、Lif Styleとして地域に息づかせ外部へ発信する事業を展開中。また「経営品質賞」、「会津お裾分けプロジェクトの会」などの活動で、会津の企業経営の質の向上や、会津の食文化の情報網づくりに積極的に取り組んでいる。2010年度経済産業省「地域におけるキーパーソン活用・支援方策に関する研究会」委員として、地域からの相談に対し幅広く活躍しており、地域経営を視点に、会津地域の情報化事業、食と農業のプロデュース事業(代表商品 会津継承米氏郷)、地域伝統産業(京都のきもの産業他)のリノベーションなどの事業を展開中。同年より丸の内朝大学の地域プロデューサークラスの講師も勤め都市生活者と地域の新たなモデルを構築中。	地域産業・イノベーション・農工商連携 農・林・水産業
213	本田 節	ほんだ せつ	(有)ひまわり亭	代表取締役	●1998年に、地域のボランティアグループ「ひまわりグループ」のメンバーと共に地域の主婦たちによる地産地消の農村レストランを立ち上げる。「もったいない」をキーワードとし、地域の財産ともいえる「おばちゃん・おばあちゃんの知恵・経験・技・感性」を活かさないと「もったいない」、地域の素晴らしい食材を活かさないと「もったいない」、取り壊し寸前の築120年の古民家が「もったいない」、ということで古民家を移築したお店を拠点に地域の素材を出来る限り活用し、安心安全な食を提供(農村レストラン・コミュニティビジネス)。 ●「食」を通して、地域づくりへの貢献や食育活動、女性の起業アドバイスにも力を注いでいる。さらに、2002年頃からは、グリーンツーリズムの推進にも積極的に取り組んでおり、地元地域を巻き込んで「広域連携によるグリーンツーリズム実践」を推進。日本各地、さらには韓国からの視察研修を受入れており、学生のインターンなども積極的に受入れている。	地域産業・イノベーション・農工商連携 まちづくり
214	本間 弘人	ほんま ひろと	釧路商工会議所青年部Loveくしろ委員会	副委員長	2004年に釧路JCへ入会し、まちづくりを通じた人づくりを7年間行ってきました。2009年には、理事長を務めさせていただき、職責の中でくしろ霧フェスティバルというイベントの実行委員長も務めることになり、みなとに密接な取組であるという評価を受け、国交省からみなとまちづくりマイスターとして表彰を受け、ウォーターフロント協会からみなとまちづくりマイスターの認定を受けております。現在は、釧路市における経済活動の一翼を担いながら、地域発展のために中心市街地の活性化や釧路港・リバーサイドの賑わい創出のための活動・運動、医師不足解決のために医療大学の誘致活動、自立したまちを目指した政策の研究や行政に対する提言などを主な活動としております。	まちづくり
215	牧 昭市	まき しょういち	株式会社 大分まちなか倶楽部	タウンマネージャー兼事業統括部長	1. 中心市街地におけるエリアマネジメントに基づく商店街でのデータマーケティングを活用した官民連携のテナントミックス事業展開(都市における総消費とストリート形成を考慮した理想的な商業床面積の検討と商店街で行なう必要のあるテナントミックス事業の具体的な手法について) 2. 民間によるエリアマネジメントの必要性(街を運営していくために必要な民間によるエリアマネジメントの考え方)	まちづくり

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
216	間島 正秀	まじま まさひで	法政大学社会学部、法政大学大学院政策科学研究科	教授	地方分権改革が地域や自治体に、さらには住民の意識・行動にどのような変化や変革を及ぼしているのか、また及ぼすべきなのか、さらには、地方自治の基盤であるコミュニティづくりの新しい手法、地域自治区などコミュニティに係る制度的枠組みなどについて研究しています。	地域コミュニティ・集落再生
217	益本 圭太郎	ますもと けいたろう			まちづくりの多くの事例に触れたほか、防火・防食知識の普及、特に民間防火組織の活動のあり方に取り組んできた。	まちづくり
218	町田 直子	まちだ なおこ	特定非営利活動法人 ACTY	理事長	「八戸らしさ」の象徴といえる素材をとことん追求し、イベントプロデュース、商品開発、着地型体験ツアー、中心市街地に拠点となる店舗を経営し、インターネットで配信する情報発信番組を制作しています。観光客誘客PRを推進し八戸の魅力を発信しています。それぞれの事業内容が絡み合いストーリー性を持つことにより一つのまちづくりのサイクルが出来上がると考えています。具体的には、ネガティブな地域資源を活かしたお土産品の開発から販売、漁船や屋形船を活用した「朝みなど」「夜みなど」の着地型体験ツアーの実施、中心市街地で「みなど」を感じることでできるカフェの経営、食べ歩き文化を推進するテイクアウト専門店の経営、NET放送局の設置で公開放送、「みなど博ランカイ」というみなどをまちを作り上げていくイベントプロデュースなどをしております。	観光・交流 まちづくり
219	松井 郁夫	まつい いくお	(株)松井郁夫建築設計事務所	代表取締役	古民家の知恵に学び、日本の気候風土に合った木組の家づくりを実践。「むかしといまをみらいにつなぐ」住まいづくりを通して美しい日本の風景と地域コミュニティの再生がテーマ。良質の木の家に住みたくても手が出ないと思っている建主、伝統の技を活かす場所がないと嘆く職人、植林の費用が必要な山のために、協働することでそれぞれの夢をかなえる、共存共栄の仕組み「ワークショップ「き」組」を立ち上げる。	地域産業・イノベーション・農工商連携 地域コミュニティ・集落再生
220	松井 利夫	まつい としお	(株)アルプス技研	創業者 最高顧問	○「認定 特定非営利活動法人(NPO) 地域産業おこしに燃える人の会」会長。 ○第三セクター「株式会社さがみはら産業創造センター」初代社長(現在退任)。 ○岩手県北上市「北上しらゆり大使」、および「工業振興アドバイザー」 ○北海道上市幌町「まちづくりアドバイザー」 ○国内外の大学7校に、起業を目指す学生を対象とした松井奨学金制度を設置。 ○約20社のベンチャーを応援、エンゼル投資をする。 ○公益財団法人起業家支援財団、認定NPO法人ふれあい自然塾を、個人資産を投入し設立。社会貢献活動に注力。	地域産業・イノベーション・農工商連携
221	松浦 宣秀	まつうら せんしゅう	藻塩(もしお)の会	代表	解明された古代塩づくりの体験を行い、修学旅行生や一般の方が年間6,000人以上体験する。また蒲刈町古代製塩遺跡復元展示館とは、発掘された遺構に屋根をつけ古代学習を行い体験ができるようにした。学習なき体験は意味が半減する。古代藻塩は「海人の藻塩」として地域産業となり雇用の促進にもつながった。また、周辺の施設とも連携している取り組みをし、フルシーズン観光客が訪れるようになった。周辺地域と連携して更なる発展を模索中。	観光・交流
222	松浦 忠雄	まつうら ただお	(株)エム・シー・オー	代表取締役	(株)エム・シー・オーは地域振興と中小企業経営のお手伝いをさせていただく会社です。 (独)中小企業基盤整備機構の中心市街地サポートマネージャーは地域の活性化支援のプログラマーです。 主な活動範囲は、 ①地域活性化への合意形成⇒改正まちづくり三法に沿った組織づくり、事業推進、人材育成 ②商業施設の開発・運営⇒立地検討、事業計画、運営マネジメント ③商店街の再生⇒大型ショッピングセンター運営手法を用いた商店街への取り組み ④販路開拓などのマーケティング⇒生活者・消費者視点のマーケティング	まちづくり
223	松尾 省二	まつお しょうじ	(株)エンジョイ・フィッシャーマン	代表取締役	環境保全・活用、地域活性、農林漁村都市交流、体験学習、ローカルルール、遊びづくり	地域コミュニティ・集落再生 観光・交流
224	松島 信雄	まつしま のぶお	(財)飯伊地域地域産業振興センター 三遠南信クラスター推進会議	副会長 地域連携マネージャー 飯田航空宇宙プロジェクトマネージャー	南信州の飯田下伊那地域に拠点を置き、中小企業の体質改革と新産業クラスター形成に取り組んでおり、世界に通用する経済文化自立都市を目指している。事業は4つの柱を基本にしている。①ネットワーク形成と連携事業：広域連携としては浜松・豊橋を含めた三遠南信クラスター推進会議を核に活動を展開している。飯田地域においては企業間の交流を通して相互の信頼を高め、協力風土の醸成を図っている。また産学公の連携で地域のポテンシャルアップに繋げている。②新産業クラスターの育成：航空宇宙クラスターの形成を重点プロジェクトとして位置づけている。4つのワーキングチーム活動を通してQMSの体制確立や技術の向上を図りながら地域一貫生産共同受注を目指している。③販路開拓支援：マーケティング機能を持たない中小企業にとって販路開拓は大きな課題である。海外も含めた展示会出展や顧客開拓支援に力を注いでいる。④人材育成：技術・技能のレベルアップと後継者育成を目指して、働きながら学ぶ風土を醸成しようと産業技術大学を立ち上げ夜間、休日を中心に運営している。年間150社を超える企業から延べ2000人近い企業人が学んでいる。	地域産業・イノベーション・農工商連携
225	松田 一敬	まつだ いっけい	合同会社SARR — Science & Research for Reconstruction	代表執行社員	地域おこしと科学技術立国を2つの柱にしています。科学技術立国と地域おこしは同一線上にあるのです。震災後の日本は単なる復旧ではなく、全く新しい国づくり、復興が求められます。新しい政策、そして科学技術の実践の場の提供、フィナンサースキームの構築などやることはたくさんあると思っています。	地域産業・イノベーション・農工商連携 地域コミュニティ・集落再生
226	松田 宏人	まつだ ひろと	DBJ野村インベストメント株式会社	取締役	金融の立場から、公民連携による地域再生・地域活性化等に取り組んできており、最近是不動産開発等による地域活性化にも取り組んでいる。	まちづくり
227	松場 登美	まつば とみ	(株)石見銀山生活文化研究所 (株)他郷阿部家	代表取締役所長、 代表取締役	㈱石見銀山生活文化研究所は「衣食住」に関わる商品企画(デザイン、素材開発)と販売(直営店展開、卸)をする会社です。 ㈱他郷阿部家は1789年創設の武家屋敷を改修し、食事、宿泊を復古創新的テーマに基づき、研修事業を行う会社です。	まちづくり

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
228	松橋 京子	まつはし きょうこ	定山溪鶴雅リゾートスバ森の譚・ニセコリゾート観光協会ほか	執行役員支配人(森の譚)・取締役(観光協会)	☆地域の人に愛される施設づくり(森のゆ花神楽＝北海道東神楽町・ゆーりん館＝北海道美幌市)☆ホテル・旅館再生(ホテル甘露の森＝北海道ニセコ町・みなかみ高原リゾート200＝群馬県みなかみ町・森の譚＝北海道札幌市)☆北海道のよさを新しい視点で伝える(BY WAY後志＝はまなす財団・Colocalコカール＝マガジンハウス、観光セミナー、ビジネスマッチングなど講師、ラジオ・テレビ出演)☆商品開発(北海道の素材を使った高品質の商品開発)	観光・交流
229	松村 拓也	まつむら たくや	(株)なのにNPO法人カブラー	社員 理事長	「アントレハウス駒沢(起業する家)」の企画・運営 起業家の個別指導・経営参加、起業・倒産に関するセミナー、アントレビジネスコンテストなど起業支援活動(株なのに)。 起業・創業支援プロジェクト「せたがやかやく」:プロジェクトリーダー せたがやソーシャルビジネスコンテスト、世田谷ビジネス伝承フェア:運営事務局長 世田谷世界交流プロジェクト:ディレクター など、地域とビジネスをつなぐ活動(カブラー)	地域産業・イノベーション・農工商連携 地域コミュニティ・集落再生
230	政所 利子	まんどころ としこ	(株)玄	代表取締役	1. 地域振興・地域ブランド・商品開発・商品企画 プロダクト・プランニング・ビジネスプロデュース・メディア計画 2. 事業経営コンサルティング 人材育成・研修、経営・事業計画、マーケティング、チャネル開拓等 3. 環境計画・総合プロデュース 環境計画・公共事業・事業計画・産業活性化計画の総合プロデュース 4. 地域PR・SP計画の企画制作 SP企画、マーケティング計画、メディア計画、総合コミュニケーションプロジェクト 5. グラフィック・エディトリアル、行催事の企画制作・実施 イベントプロデュース、SP・PR・コピー編集、デザイン、展示映像制作等	地域産業・イノベーション・農工商連携 まちづくり
231	三上 亨	みかみ とおる	NPO法人グリーンエネルギー青森	事務局長	2003年度 あおもり市民風力発電所建設(建設費3億8000万円) 2004年度 市民風車ブランド「風丸」(青森県在来種枝豆)の販売開始 2004年度 コミュニティビジネスと地域再生の支援開始 2005年度 市民・NPO・町協働の「鯉ヶ沢マッチングファンド」助成事業開始(～2008年度) 2005年度 グリーンエネルギー青森が、総務省から過疎地域自立活性化表彰を受ける。 2005年度 津軽鉄道・津軽鉄道サポーターズクラブの支援開始。 2006年度 都市再生モデル調査で、津軽鉄道再生に向けたアクションプランを策定。 2007年度 青森県大鰐町で、OH!!元気隊の設立を支援。町再生に向けたアクションプラン策定。 2008年度 元気隊有志がプロジェクトおおわに事業協同組合を設立。赤字施設「大鰐町地域交流センター鰐come」の指定管理受託決定。 2009年度 指定管理受託初年度で、鰐comeの黒字化を達成。	地域産業・イノベーション・農工商連携 地域コミュニティ・集落再生
232	水野 正文	みずの まさふみ	郡上市・市長公室 企画課	地域振興課長兼道の駅統轄(郡上大和総合開発㈱総支配人)	1993年から古今伝授の里づくりに関わり和歌文化の拠点施設「古今伝授の里フィールドミュージアム」をオープン。1999年「やまと温泉やすらぎ館」の立上げ、営業指導を行い雇用の創出、福祉向上を図る。続いて2001年「くつろぎ広場」、道の駅をオープンさせ、特産品開発、販売サービス、営業指導管理を行い、若者・女性の働き場を確保。2005年に東海北陸自動車道「ぎふ大和PA」内にサービス施設をオープンさせ、高速交通網を活かした特産品の販売拠点を整備。4施設の経営管理を市から指定管理料0円で3セクが受託し、その利益から順調に開発型インター借入金を償還。2007年から郡上地域活性化協議会・交流部会長として、国の地方の元気再生事業により「郡上長良川源流域森と川の恵み集落再生実証事業」に取り組む。県のアグリマスターとして、地事を指導。全国的には、三重県、鳥取県、九州、福井県、大阪市、神戸市、でのまちづくり、3セク経営などの講演活動と共に、関係者の現地研修受入指導を実施。また、JICAに協力し中国、ブルガリア、ベトナムからの視察研修受入指導、ベトナムにおける国道の駅第1～3号の管理運営指導を行う為職員を派遣指導した。NPO法人コミニス大和の元副理事長(現在は監査員)として、福祉、教育活動を行う。	観光・交流 まちづくり
233	三角 幸三	みすみ こうぞう	宇城市教育委員会/NPO法人チェンジライフ熊本	学校教育審議員 理事	平成23年度活動実績 ①熊本県教委「親の学び」プログラム作成検討、トレーナー、進行役養成、交流会等講師等 ②熊本市教委「家庭教育リーダー養成講座(10回シリーズ)」(講座企画、講師) ③長崎県ファミリープログラム指導者養成(長崎、諫早、島原、大村、松浦、上五島等) ④学校と地域の連携の在り方、ボランティアの養成(岡山県教委、鳥取県教委) ⑤熊本県教委人権教育フォーラム講師、熊本県地域振興局「食と農と人権」講演会講師 ⑥熊本県PTA大会及び地域PTA 学校PTA、公民館等の家庭教育・人権教育講師 ⑦熊本県生涯学習推進センター「県民カレッジ講座」家庭教育、コミュニケーション講座講師 ⑧宇城市小川町商店街活性化支援	地域医療、福祉・介護、教育
234	御園 慎一郎	みその しんいちろう	愛知東邦大学 大阪大学 大阪経済大学	教授 招へい教授 客員教授	・自治省入省後、地方税財政制度の企画立案に参画。また、福井県、愛知県、茨城県において県政運営に関わるとともに県下市町村の行財政運営にも関与する。制度立案過程の構造と組織運営の概要を学ぶ ・サッカープレーヤーであったことなどによる日本サッカー界との縁で2002FIFAワールドカップ組織委員会に勤務。アジアで初めて、初めての共催というワールドカップの成功に寄与。スポーツの持つ一体感形成力を実感するとともにサポーターとの距離感の取り方の重要性や国際的事業における交渉力の大切さを痛感。 ・内閣官房地域再生本部において地域社会の活力を構築するための国家組織をあげてのシステムを構築。その一環として地域再生法を制定。全国に地域再生の輪を広げる。 ・地域再生のため大学との連携システムを考案。「地域再生システム論」として30を上回る大学における地域活性化講座開設に寄与。自らも複数の大学で教鞭もとる。 ・地域活性化をともに語りともに進めるための集団としての「地域活性化学会」の設立を提案。発足にも貢献。 ・厚生労働省において介護保険や生活保護などを担当。介護予防を地域で支える事業の一環としてJリーグのチームによる地域の健康作り活動の展開を提唱し実現に。	地域医療、福祉・介護、教育 まちづくり

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
235	蓑谷 穆	みのたに たかし	(社)飛騨高山観光協会	会長	<p>※観光による地域の持続的発展への取り組み                      地元、高山市の長い歴史から培われたくらし、伝統、文化などを見つめなおし、地域の発展は観光にありとして、昭和57年に民間主導の社団法人飛騨高山観光協会を設立したのを機に会長に就任し、「観光＝まちづくり」を念頭に、常に官民一体となった取り組みをとおして、観光客誘致、地域活性化を目指し、観光による地域の持続的発展にまい進してきました。                      ※外国人観光客の誘致                      日本の人口減少と少子高齢化を早くから見通し、外国人観光客の誘致にも力を入れると共に、地元の外国人観光客の受け入れ体制の整備にも取り組んできました。</p> <p>※世界遺産登録へ向けての取り組み                      フランス＝ミシュランの評価で、「飛騨高山」は必ず訪れるべき観光地として最高位の3つ星にランクされたように、飛騨高山には世界に誇るべき豊富な自然、歴史、祭、伝統文化、食文化、くらしがあるとして、その伝承空間の文化的景観を世界遺産に登録すべく活動をしています。</p>	観光・交流 まちづくり
236	宮城 治男	みやぎ はるお	NPO法人ETIC.	代表理事	<p>(1)起業家型リーダー育成プログラム                      ・起業家、リーダーを志す若者をベンチャー・中小企業の現場にマッチングする「アントレプレナー・インターンシップ・プログラム」                      ・ETIC.イノベーターズ・スクール(起業家講演会)                      (2)ソーシャル・アントレプレナー輩出プロジェクト                      ・社会起業家の事業基盤確立、ベンチャー企業とのマッチングを支援する「イノベーション・グラント」                      ・社会起業を志す若者のビジネスプランコンテスト「STYLE -Social venture competition」                      ・社会起業塾イニシアティブ(NEC社会起業塾、花王社会起業塾、横浜社会起業塾)                      ・東海若手起業塾                      ・個別プロジェクト経営相談会                      (3)チャレンジ・プロデューサー輩出プロジェクト                      ・地域の若者と、挑戦する中小企業・地場産業等を繋げる「チャレンジ・コミュニティ・プロジェクト」                      ・地域の社会起業家、起業家型リーダーの発掘、育成                      (4)大学や行政との地域協働プログラム開発                      (5)震災復興リーダー支援プロジェクト</p>	地域医療、福祉・介護、教育
237	三宅 定子	みやけ さだこ	玉野市中心市街地活性化協議会	みなと部会長(うの港13代表/みなとまちづくりマイスター)	<p>平成19年7月、女性の視点で宇野港と玉野市の活性化を図る「うの港13」を設立しました。平成19年～21年、岡山県へ宇野港の緑地整備の提言をしました。また、観光事業に対する講演会などを開催しました。平成21年～平成22年、地元において意見交換会や「みなとまちづくり担い手育成フォーラム」を開催しました。平成22年～平成23年、玉野市中心市街地活性化協議会に「みなと部会」を設立し、宇野港の中心とした市街地の活性化に取り組んでいます。また、集客の仕掛けづくりと港の活性化を図るため、平成21年に「うの港歴史散策マップ」の日本語版を、平成23年は国際(英語)版を作製し、ブログに掲載しています。</p>	観光・交流 まちづくり
238	三宅 曜子	みやけ ようこ	(株)クリエイティブ・ワイズ	代表取締役社長	<p>女性の感性を生かし、消費者ニーズを的確にとらえた中小企業のマーケティング全般の支援、地域の活性化事業支援を行っています。特に食関連のマーケティングに関しては、メニュー開発をはじめとする商品開発、パッケージやラベル、広告戦略、販路開拓までトータルに支援。エッセイに関しては、広島県熊野町の化粧筆を世界レベルのブランドにプロデュースするなど、商品開発から戦略支援までを実施。2007年、経済産業省の中小企業地域資源活用事業プログラムの政策審議会委員、また、衆議院経済産業委員会、中小企業地域資源活用促進法案参考人として国会に立ちました。以後、地域資源を活用した商品開発や販売促進、販路開拓、観光事業開発、農工商連携事業や農業の六次化、建設業の業態拡張や業態転換、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、海外展開支援等、中小企業の活性化に対する幅広いハンズオン支援を行っています。</p>	地域産業・イノベーション・農工商連携 農・林・水産業
239	向井 哲朗	むかい てつろう	彦名地区チビッツ環境バトロール隊	代表	<p>「子供も大人も身近な環境問題を五感で感じる事が課題解決へ繋がる近道」との発想から、1990年にこどもを中心とした「彦名地区チビッツ環境バトロール隊」を結成。テーマは、身近な大問題である「中海の水質浄化」。家庭から出る生活排水と中海の水質汚濁の勉強が始まり、水質汚濁の大きな原因となる廃油ぶら油の回収がスタートした。この活動は、現在、BDF製造にまで発展している。バトロール隊を指導する向井哲朗は、当時製紙会社に勤務。こども達との勉強会で出た素直な疑問は、「教科書には緑が大切と書いてあるのに、おじさんが仕事をしているの紙工場ではその緑の木をたくさん切って、紙を作っているけれど、森林破壊しているのではない?」。この問いかけが、全国で初めての試みでもあった割り箸回収し紙再生へ発展。今では地域全体での取組となり、更には全国へ発信することができた。身近な環境を体で知り、そこに存在する問題をきちんと理解し、自ら活動することを覚えれば、地球温暖化防止への道は遠くはない。15年以上にわたって継続してきている割り箸・廃油ぶら油の回収・再資源化活動は、地球を愛することができる豊かな心を持った人間を育てている。使用済みてんぶら油からの「廃油ローソク作り」、牛乳パックからの「手づくり葉書づくり」「環境バトロールと美化清掃活動」「生活排水浄化方法」等体験型学習の指導、グラウンドワーク活動等協働の心育む街づくりの推進をしている。</p>	環境
240	村上 和子	むらかみ かずこ	NPO法人神戸グランドアンカー	理事長	<p>◆「賑わいと交流のみなと」の実現に向けたソフト面とハード面の整備◆人づくり、ものづくり、まちづくり、産業づくりを目指し、異年齢、多ジャンルのもの創り作家が活動し、みなと文化を情報発信する拠点、文化交流施設「神戸波止場町TEN×TEN」を企画提案◆みなとの遊休倉庫を再利用、神戸市とのパートナーシップで開設。主宰者として通年活動のすべてを自主運営◆年間に新たな恒例事業「KOBEMಿನあとの絵大賞」「公募展～ガラス絵大賞」、体験研修「作家直伝もの創り塾」講演フォーラム「神戸みなと塾」、「KOBEM新鮮マルシェ」「みなとのコンサート」開催◆広報紙「TEN×TEN」、リーフレット「神戸の楽しさ無限大」など多数の広報ツール発行◆副教材「海と港が仕事の舞台」(神戸市内小学4年・中学2年生用)制作◆大学インターンシップ実施◆植文化賞(文化芸術など6部門)選考委員会事務局◆クルーズ客船歓迎セレモニー出演・演出、他。</p>	観光・交流 まちづくり
241	村上 一成	むらかみ かずなり	(財)地方自治体公民連携研究財団	企画開発部 上席執行役	<p>平成15年度創刊の「まちづくり新聞」編集長に約5年間就任。全国のまちづくり事例の取材を行う。現在、PPP(公民連携)テーマに特化したシンクタンクで、地方自治体対象のコンサルティングなど。</p>	まちづくり
242	村上 孝子	むらかみ たかこ	NPO北町大家族	事務局長	<p>・商店街活性化の為に商店街会館を利用したの子育支援事業                      ・高齢者支援事業・空店舗を利用したの区からの委託である情報                      ・相談広場の運営・地域の区民館や地域集会所を利用したの生きがいデイサービス事業                      ・地域通貨「ガウ」の発行</p>	地域コミュニティ・集落再生

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
243	藻谷 浩介	もたに こうすけ	(株)日本総合研究所	調査部 主席研究員	私の役割は、各種のお説教を通じて、地域で頑張っている方々に新たな気付きを得ていただくこと、また彼らに成り代わって周囲の理解の浅い方々に認識を新たにしていただくことです。講演のほか、パネルコーディネイト、街歩き、ゲームセッションなども、必要に応じて行っています。他方で時間制約から、単なる面談や会食はなるべくお断りしています。講演後の懇親会なども、特に重要なミッションを伴うものでない限り(特に単なる慰労目的のものである場合などは)出ませんので、ご了承くださいませ。	観光・交流 まちづくり
244	望月 孝	もちづき たかし	(株)プロジェクト地域活性	代表取締役社長	東北地域において、地域の人財育成・確保、農工商連携・地域ブランドの推進、観光・ツーリズムの推進等、地域の「人財」を核にして地域活性化を支援しています。平成20年度から、農工商連携による地域の6次産業化支援に重点を置き、農工商連携の中核となる経営人財を育成する「農工商連携プロデューサー育成塾」(経済産業省委託事業)、東北地域の6次産業化を担う人財を育成・確保する「東北のムウで働き隊!プロジェクト」(農林水産省補助事業)などを実施しています。	地域産業・イノベーション・農工商連携 観光・交流
245	森賀 盾雄	もりが たてお	愛媛大学農学部	教授(農山漁村地域マネジメント特別コース専任・経済学博士)	長年、市行政の内部と外部を結び、研究会や市民団体を組織して、地域づくり・産業おこしに取り組んできた。それらの成果を生かして全国で講演・地域づくりの支援・アドバイスをやってきた。とりわけ地域資源を活かした地域づくり・産業遺産の活用・産業観光・NPO活動で実績を残している。現在は愛媛大学農学部において教育・研究を進めており、環境・農山漁村の地域再生や起業論をも対象としている。幅広い分野での取組となっている。テーマとしては「地方工業都市の産業文化創造都市への発展」「産業遺産を活用した地域づくり」「産業観光を進めるポイント」「地域資源の発掘と活用方法」「これからの地域づくりの主体形成とマネジメント及びマーケティング」「地域起業家マネジメント」等である。	地域産業・イノベーション・農工商連携 観光・交流
246	森田 潔	もりた きよし	一般社団法人 神戸港振興協会	振興部長	①地域の様々なイベントの実施 ・神戸港カッターレース～横浜・大阪・広島・南淡町・豊岡市など 全国のカッターレースに実施要領を提供し各地で開催されるようになった。 ・メリケンフェスタ、みなとこづ海上花火大会、Kobe Love Portみなとまつり、KOBEMINAとマルシェ、 波止場まつり、神戸港フォークリフト荷役技能向上大会、神戸まつりヨットレース、神戸港ポート天国、 ロープワーク教室、ボトルシップ教室、市民クルージング、体験航海、進水式見学会など ②産業観光への取組み ・コーディネーターとして案内したり、旅行商品となりうるものの発掘 ③クルーズ客船や帆船の入出港の歓送迎や船内一般公開の実施 ④海事人材の育成 ・県下の小・中学校への出前授業や船を使った海上からの港の見学等	観光・交流 まちづくり
247	森野 一郎	もりの いちろう	NPO法人 港まちづくりファン タジーハーバーこ まつしま	副理事長	みなとオアシスの運営を通じて、ヨットレースや交流イベントの開催に取り組んでいます。	まちづくり
248	山内 義則	やまうち よしのり	銀座通り商店街振 興組合(瀬戸市)	相談役理事	平成9年4月、商店街理事長に就任した時疲弊した商店街の立て直しと活性化を主に「愛・地球博」をチャンスととらえて、①街づくりは人づくりから、②人づくりは若者、外もの、色もの(女性)、③地域にある名古屋学院大学と連携して、産・官・学・民の考えを基に活性化に取組み、先進成功例として全国に報じられ、地域、内部に活気を出す事になった。かつては、「犬猫通り商店街」と抑ゆされていたが、全国各方面に高い評価を得た今日この頃です。 平成22年度7月「沖繩県糸満市」中心市街地の再開発と地元業者とのコンセンサスの構築について講演指導。 平成23年度2月「福岡県商店街連合会」商店街の活性化を考える手法について、パネリストとして参画指導。	まちづくり
249	山川 進	やまかわ すずむ	三重県農水商工 部	理事(商工・科学 技術担当)	・「企業誘致」…製薬会社、外資系企業など大型企業誘致を実現。東京、福岡において「SOHO(スモールオフィス・ホームオフィス)形態」での企業誘致活動を行い、企業・行政との新たなネットワーク構築を行う。 ・「コンビナートの再生」…行政・産業界が協働した、規制改革や新たな産業展開の内容をパッケージとし、構造改革特区に申請、第1号認定を受けることに尽力する。 ・「様々な連携」…「地域発のオープン・イノベーション創出」を行う「高度人材イノベーションセンター(AMIC)」を三重県四日市市に設置。地域の産業構造の「知識集約型産業構造」への転換を目指す。ここで、現在も異業種・同業種連携、大企業と中小企業の連携、各種課題解決、産業人材の育成などを行っている。 ・「温泉街の活性化」…三重県孤野町の湯ノ山温泉にて、各業者での取組を地域一丸となったものへとコーディネートし、「女将の会」結成などにつなげる。 ・「町おこしリーダー研修」…三重県紀北町の町おこしリーダー研修にてアドバイザーを務め、研修生の成果を行政や地元産業界とも連携した継続的な取組へと繋げる。	地域産業・イノベーション・農工商連携 農・林・水産業
250	山岸 國秋	やまぎし くにあき	(財)長野県テクノ 財団	前専務理事	長野県テクノ財団は、県内の製造業を技術力向上の面から支援し、産学連携による共同研究開発や人材育成事業などを実施しています。具体的には、ハイテクをテーマとした会員制の研究開発型の研究会等が延べ80件、これらを含む各種催事の開催回数年間延べ800回余、技術者等の参加者数年間延べ2万多名余となっています。参加者は年々増加し、企業等からの期待の大きさをうかがわれています。工業振興に係わる様々なソフト事業を実施しており、「ソフト事業の殿堂」とも言われる程多くのノウハウが蓄積されています。 私自身は、この財団の前身である長野県テクノハイランド開発機構の昭和61年設立時以来4回、延べ13年間当財団に勤務し、先輩等の指導と仲間の協力を頂きながら、その一端を担わせていただきました。	地域産業・イノベーション・農工商連携
251	山岸 秀雄	やまぎし ひでお	NPOサポートセン ター 法政大学法学部	理事長 教授	NPOの社会的役割である「地域・社会の課題解決と社会システムの変革」をよびかけ、全国のNPOと中間支援組織の支援を続けて約4半世紀が経った。NPOには様々な役割があるが、私とNPOサポートセンターは人材育成・雇用問題と政策提言を軸に「産官学民プラットフォーム」(NPOと大学を主軸にしたコミュニティ創り)、社会的企業、新しいコミュニティ創りとしてのマンション問題の実験、NPOの教育力による地域教育の再生等に取り組んでいる。個人的には湘南最大の自然(660ヘクタール)を誇る二子山山系自然保護活動の事務局長として産官学民の協働事業を行っている。	地域コミュニティ・集 落再生
252	山口 章	やまぐち あきら	(財)群馬県観光 物産国際協会	専務理事	群馬県職員として36年余、この間、時には市町村振興や地域振興の仕掛け人として、時には第三セクターや病院での経営再建の斬り込み隊長として数々の現場経験あり。地域コンソーシアムなどの産官学共同研究プロジェクトや地域連携プロジェクトなども手掛けた経験あり。最近では観光まちづくりを基軸とした地域活性化の助っ人として東奔西走中。	観光・交流 まちづくり

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
253	山口 靖	やまぐち やすし	農林水産省食料産業局食品小売サービス課	外食産業室長	22年3月に農林水産行政の基本的な方向性を示す「食料・農業・農村基本計画」を策定。また、22年12月には、食文化をキーワードに6次産業化や輸出、観光振興に一体的に取り組む食文化プロジェクトをはじめ、「食」や「農」を中核として環境エネルギー、医療・福祉など政府全体で取り組む10のプロジェクトをまとめた「食に関する将来ビジョン(食ビジョン)」を策定。現在は、この「食ビジョン」に基づく地域振興策を図るための取組を実施。	地域産業・イノベーション・農工商連携 農・林・水産業
254	山下 雅司	やました まさし	ヤマシタ経営診断支援オフィス	中小企業診断士	(1)地域づくりをテーマに取り組んだ報告書①幌加内町の特産物である「そば」を生かした街づくり計画を策定②余市町のニッカ工場を中心とする観光商店街づくりを策定 (2)中心市街地の再生に向けて取り組んだ報告書①栗山町の商店街近代化事業後に発生した中心街区内の空き地対策として、高齢者対応型マンション及び高齢者福祉施設計画を策定②清水町の駅前地区に形成された商店街の近代化計画及びショッピングセンター、コミュニティ施設計画を策定 (3)北海道における観光地振興のための診断報告書の作成(函館市・網走市・十勝川温泉地)	観光・交流 まちづくり
255	山田 義彦	やまだ よしひこ	(有)山芳海産	代表取締役	商店街活性化と云うより再生させたいと思い、新たな導線を創り新たな集客施設を創る。 人の魅力でにぎわいを創りたい。 境港の歴史・文化・暮らしに会える場所	まちづくり
256	山中 守	やまなか まもる	国立大学法人 熊本大学	教授	地域情報化は農村などの条件不利地域こそメリットを受けるべきものであると考えています。その観点で国や地方自治体から依頼があれば講演させてもらっています。昨年は、全国地域情報化推進セミナーで講演、大分県、宮崎県、熊本県など県単位で講演、大学公開講座などの講演と主催者は様々ですが、共通するのはICT時代に地域はどのように対応すればいいのかという問題です。また地方自治体のICT推進委員(長)として、九州のみでなく、東北も含めて、いくつかの地方自治体とも一緒に地域情報化に取り組んでいます。	地域産業・イノベーション・農工商連携
257	山根 多恵	やまね たえ	旅館吉田屋	女将	現在は、本業のほかに、 ・田舎で若者が就職するための「田舎でシェウカツ」の取り組みの提案を行っています ・汗でお返し！47都道府県ネットワークをつくり、全国の地域事業家と繋がっています ・地域と海外をつなぐ取り組みを推進し、海外インターンシップを数多く受け入れています ・市民の立場からの様々な提言を行っています	地域コミュニティ・集落再生 観光・交流
258	山本 和子	やまもと かずこ	有限会社 農業マーケティング研究所	所長	★委員会など★ ●農林水産省農林水産政策研究所参与(2002年～2006年) ●農林水産省独立行政法人評価委員会委員(2003年～2007年) ●農林水産省政策評価会農村振興局専門部会委員(2004年～2007年) ●農林水産省政策評価会経営局専門部会委員(2004年～2007年) ●内閣官房地域活性化統合事務、局首都圏地域活性化推進連絡会議委員(2007年3月～) ●内閣官房地域活性化統合事務局「地域活性化伝道師」(2008年9月～)	地域産業・イノベーション・農工商連携
259	山本 麗子	やまもと れいこ	NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西	理事	1995年から兵庫県阪神東局にて、地域活動推進専門員として活動し、女性の新しい働き方としてのコミュニティ・ビジネスに着目して、阪神間でコミュニティ・ビジネス交流会を立ち上げ事務局を務めた。1998年からは民間デイサービスハウス「めふのお家」、宝塚NPOセンターの設立に加わり、特・宝塚NPOセンター理事兼事務局次長として活動。地域通貨運送、中心市街地活性化事業、コミュニティ・ビジネスなど行政との協働によるまちづくりに取り組む。2006年より、大阪府立女性総合センター(ドーンセンター)の指定管理者「ドーン利用促進事業共同体」の利用促進部ゼネラルマネジャー。2011年より宝塚市立男女共同参画センターの指定管理者 統括マネジャー(非常勤)。まちづくりでは、市民と行政が協働のまちづくりに取り組むにあたり、市域(宝塚市)の資源が俯瞰できる情報の整備に取り組んでいます。	まちづくり
260	養父 信夫	ようふ のぶお	九州のムラたび応援団	団長 「九州のムラへ行こう」編集長	『ムラの生命をマチの暮らしに、マチの活力をムラの生業に』をモットーに ○雑誌「九州のムラへ行こう」(1995年創刊「九州の村」、その後98年「九州のムラ」)づくり ○グリーンツーリズム(ムラたび)、スローフード(ムラの旨食)などを軸とした地域づくり ○民間企業との各種ムラプロジェクトの企画、立案～福岡市内の商業施設内での「九州のムラ市場」立ち上げ、トヨタ自動車との「Gazoo Mura」プロジェクト企画、立案、ロイヤル空港店 九州発「ムラのカレー」プロジェクトなど～ 平成20年度は農林水産省「田舎で働き隊」を活用し、「九州のムラの生業」プロジェクトを開催	地域産業・イノベーション・農工商連携 観光・交流
261	横石 知二	よこいし ともし	(株)いろどり	代表取締役	人口2,000人の山合いの小さな町で葉っぱビジネスを中心に高齢者が元気に仕事をしています。特にICTの利活用が盛んで全国や世界からたくさんの方が視察に来られます。	地域コミュニティ・集落再生 農・林・水産業
262	横澤 輝樹	よこざわ こうき	稚内市議会	市議会議員	【夏季】 H17～ 彩りプロジェクトを開催。海岸清掃を行い、そこで拾った流木を再利用し、流木プランターを製作。北防波堤ドームや稚内駅、フェリーターミナルなどへ設置。H21～各団体が単独でやっていた海岸清掃に働きかけ、同時開催を展開中。今後、観光などにつなげられないか検討中。 【冬季】 H16.2～ 北防波堤ドーム内で彩北わっキャナイト(スノーキャンドルイベント)を開催。H19.2～ 冬季イベント連絡会議を発足し、冬季イベントを開催している各団体との連携を図り、同一ポスター及びスタンプラリーを開催。	地域コミュニティ・集落再生 まちづくり
263	横田 純子	よこた じゅんこ	NPO法人 素材広場	理事長	福島県の宿泊施設(旅館・ホテル)に対して、福島県内の安心・安全な素材および福島ならではの素材による地産地消の推進に関する事業を行い、宿泊施設が地産地消を活かした集客魅力向上に寄与することを目的としています。 事業内容: 素材情報収集・発信・受発注システム、宿と生産者の交流会、宿の人と現場見学会 「ねずみ小僧プロジェクト」「福島8字プロジェクト」	観光・交流

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
264	吉井 茂人	よしい しげひと	長浜商工会議所 ／長浜まちづくり 株式会社	理事 / コーディ ネーター	<p>昭和53年・57年の広域商業診断を担当。 昭和60年・平成3年に商業近代化地域計画や市街地核再生プロジェクト構想(虎山博物館建設)を担当する。 昭和62年より各商店街のCI事業、将来計画策定をすると共に、各商店街ハード・ソフト事業の具現化に携わる。平成9年度 空き店舗対策モデル事業・プラチナプラザ立ち上げ。平成10年度からは中心市街地活性化基本計画、TMO事業構想策定および事業の具現化を図る。平成16年～平成19年3月まで大型空き店舗活用「まち家横町」開設運営。 平成18年度より改正まちづくり三法対応に取り組み、平成20年1月に中心市街地活性化協議会設立、運営を行なう。 平成21年4月よりまちづくり会社設立準備室において作業を進め、平成21年8月10日に「長浜まちづくり株式会社」を設立。平成21年～23年、中心市街地活性化事業支援。 現在、長浜駅周辺整備地区計画策定に地元の人と取り組んでいる。 昭和59年から全市的なイベントに係ると共に昭和62年～平成2年 長浜総おどりのプロデュースを行なう。商工会議所入所以来、賑わい創出のイベントを仕掛ける。多種多様な事業の具現化により、今ではゼロから200万人の人々に来ていただけるまちに変化した。また、商店街内の80件余りの空き家、空き店舗の活用が生まれた。 過去の中心市街地は雑多な複合機能が有り、ヒトとモノとコトと情報の集積場で都市魅力を備え繁栄していた。しかし、郊外開発が進んで郊外への重心移動が始まったことで中心市街地は単一機能となり、徐々に衰退傾向となった。大型店の出店申請が重なり中心市街地は死んでしまうのではないかと危機感が生まれた。官民ともに何とかしなければという気運が高まった。 現状の打開には方向性を示すプランが必要で、プラン策定には垂直型から水平型思考への転換が必要であった。絶えず都市活性化という視点を持ち、時代の節目節目に方向性の計画を示すと共にプラン具現化の仕掛けを行い、また現場に出ることで地元の人々と意思疎通を図り、イベント・CI事業・商店街毎のプランそして事業の具現化を順次図った。それらの事業は黒壁のダイナミックな事業展開との相乗効果を生み、点・線、そして面的な広がりのある環境整備ができた。 中心市街地の環境基盤整備とイベントを中心とした賑わい創出事業を生み出すことにより入り込み客数は飛躍的に増加し(ゼロから200万人)、中心市街地の空き家・空き店舗の80件余りがショップや施設に転換された。 現在は、さらに賑わいを持続させるために新たな事業に取り組んでいる。</p>	観光・交流 まちづくり
265	吉井 靖	よしい やすし	(株)うぶすな	代表取締役	<p>「IT× 地域」をテーマに、「地域にヒトとおカネを移動させる」活動を全国各地で展開しています。◎地域資源活用型新規産業創出事業費補助金／石川県・海外富裕層誘客推進事業の業務委託により「ラグジュアリーライフスタイル国際会議」(ILLF)の開催に協力し、国際会議でPRする映像制作を行い、石川県の高品質な地域資源を映像コンテンツ化し、富裕層誘致に役立てる。◎平成21年度JAPANデザイン海外販路開拓支援事業／採択事業者である夢らく商事株式会社の事業パートナーとして、夢らく商事株式会社が扱う金箔入り化粧品の中進出に向けたコンサルティング、パッケージデザインから、営業ツール(商品説明用のパンフレット、チラシ、DVD)の制作・翻訳及び、商標登録サポートまでをトータルに支援。◎平成21年度海外展開人材育成事業／佐渡島で海外展開に向けた実践型研修会を実施。専門講師による海外の社会・経済・文化等をレクチャーし、外国語研修を行い海外からの問い合わせに対応するノウハウ習得を実施。ホームページ研修の成果として、4か国語対応の地域ポータルサイトを構築。◎平成21年度「農工商連携等人材育成事業」／商材開発や販路開拓等を机上・実践両面から学ぶ機会を創出し、全8回の講義研修(勉強会形式)と5回の実地研修(実践型の販売研修等)を企画・運営。インターネット販売と連動させて、首都圏商店街等のイベントに出店・販売を行い、消費者ニーズの調査、販路開拓の可能性、商材開発等に取り組む。◎「地域企業立地促進等事業費補助金(地域中小企業海外販路開拓支援事業)」／新潟県内9つの日本酒製造業者様とともに中国・北京市で試飲試食会を開催。新潟清酒の認知度向上と中国販路の開拓を目指して、BtoBのみならずB to Cの試飲会を企画実施。 等、民間が主軸となりながら、行政と連携して国家施策を巻き取り、「地域にヒトとおカネを移動させる」取り組みを多く手がけています。地域が元気になれないと、国は元気になれません。地財=地域財産を育成するonlyone企業を目指し、全国行脚しています。</p>	地域産業・イノベ ション・農工商連携 地域交通・情報通信
266	吉田 敦也	よしだ あつや	徳島大学 地域創生センター	教授 センター長	<p>取組内容 地域創生の観点からの地域ICT課題解決と生涯学習支援 特に、ICT利活用支援、地域向けWebシステム開発、eラーニングのインタフェース開発。 具体的には、地域情報化の推進、ICTリテラシー形成支援、コミュニティビジネスの創出支援、地域コンテンツ制作支援、高齢者向けインタフェースの開発、コミュニティウエアの開発、コミュニティテクノロジーの開発、生涯学習プラットフォーム開発、まちづくり支援、シニアネット構築支援、iPhoneアプリの開発、地域電子ブック開発、ITを活用した学校支援地域本部コーディネートシステム開発。 実践実績 ・NPO法人いきいきネットとくしま理事長(シニアICTリテラシー形成支援活動、会員約250名) ・NPO法人徳島インターネット市民塾副理事長(地域情報化と生涯学習支援) ・NPO地域学習プラットフォーム研究会副理事長 ・総務省「地域情報化アドバイザー」 ・財ニューメディア開発協会「シニア情報生活アドバイザー」(メロウマイスター) ・内閣官房/経済産業省「地域産業おこしに燃える人」(3期認定) ・文部科学省主催「第7回インターネット活用教育実践コンクール」社会教育部門にて「ユビキタス双六通路」が文部科学大臣賞を受賞、2007.3.16 ※健康ウォーキング促進と仲間づくり・まちづくりに役立つバーチャル道路システム ・内閣官房「平成21年度地方の元気再生事業」&lt;ブロードバンド徹底活用1000人塾&gt;プロジェクトリーダー ※ 地域にぎわいづくり人材養成の取り組み ・総務省「ICTふるさと元気事業」(情報通信技術地域人材育成・活用事業交付金) &lt;とくまー ー地域商店街の横丁機能を基盤にしたスマートフォン高齢者見守りシステムと人材育成プログラムの開発→プロジェクトリーダー ※ ツイッターとiPhoneを活用した地域活性化人材育成の取り組み ・徳島大学「地域再生人材創出拠点形成」&lt;上勝いろどり型中山間ビジネス創出人材養成&gt;プロジェクトリーダー ※ 課題解決型でICT利活用による地域再生人材養成と拠点化の取り組み</p>	地域交通・情報通信
267	吉田 修	よしだ おさむ	農事組合法人伊 賀の里モクモク手 づくりファーム	専務理事	<p>モクモク手づくりファームの創業以来、消費者の心の中に隠れたニーズを、農業者の視点から掘り起こすことを考えてきた。その結果、年商46億、会員数3万5千世帯のネットワークを築くことができた。2005年には、農業と地域おこし専門の実践的コンサルティングを行う「モクモク流農村産業研究所」を設立。現在、モクモクで培ったノウハウを全国各地の地域おこしに活かすために全国を奔走中。</p>	地域産業・イノベ ション・農工商連携 農・林・水産業

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
268	吉田 勝治	よしだ かつはる	三遠南信クラスター推進会議	地域連携マネージャー	永年に亘って輸送用機器製造に携る中で培った実務経験とネットワークを活かし、JSTの科学技術コーディネータをはじめ、経済産業省の産業クラスター計画に位置付けられた三遠南信バイタライゼーション協議会浜松支部事業のプロジェクトマネージャーなど産学官連携の第一線で活動し、産業界の視点からコーディネート活動を通じて地域におけるイノベーション創出に寄与してきた。平成22年度からは広域基本計画に基づく三遠南信クラスター推進会議の地域連携マネージャーに就き、地域内で展開していく5つのクラスタープロジェクトを総合的にまとめ、推進していく。これまでの具体的な取り組み事例としては、PC(パッケージ)カーペラ自動化システム構築支援や経済産業省の委託金・補助金申請支援などがある。	地域産業・イノベーション・農工商連携
269	吉田 総一郎	よしだ そういちろう	(株)吉田藤兵衛・アド・カンパニー	代表取締役社長	再生可能燃料の合成と実践的な地域的活用	地域産業・イノベーション・農工商連携環境
270	吉永 茂	よしなが しげる	吉永公認会計士事務所	代表	①事業承継対策・企業再生対策 ②中小企業の財務診断・資金繰り対策 ③企業のM&A・企業再編成対策	観光・交流
271	吉野 裕之	よしの ひろゆき	財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団	チーフ・プログラム・オフィサー	* NPO・市民活動の支援 とくに資金支援を中心に、NPO・市民活動の支援を行っている。 * 調査・研究 NPO・市民活動推進の観点から、まちづくりについての調査・研究を行っている。 * その他 NPOの交流会、NPO・市民活動推進のためのシンポジウム・研修会の企画・運営などを行っている。	まちづくり
272	吉原 明香	よしはら さやか	NPO法人 市民セクターよこはま	事務局長 兼 横浜市市民活動支援センター責任者	(1)連携とネットワークづくり(在宅福祉連絡会活動・認知症ケア事業等) (2)人材養成研修事業(地域福祉コーディネーター養成研修等) (3)市民活動支援(横浜市市民活動支援センター管理運営) (4)地域活動支援(よこはま地域づくり大学校等) (5)コミュニティビジネス支援(よこはまCBsmilesの運営等) (6)評価・改善事業(福祉サービスの第三者評価事業・指定管理者第三者評価事業等) (7)上記の事業を通した行政や社会への提案・提言活動	まちづくり
273	吉見 精二	よしみ せいじ	有限会社地域観光プロデュースセンター	代表取締役・まちづくりコーディネーター	近年、「ニューツーリズム」、「着地型旅行」とよばれる「現地集合・現地解散」型の個人旅行が注目されています。今や、全国のどこでも観光地となる可能性があります。観光の魅力は人との感動の交流です。地域の人たちが主役になる観光が「ほんもの旅」です。 いわば、「観光地づくり」は地域のだれもが参加できるもの。その過程で「地域の誇り」を育てることが観光の意義といえます。みなさんの地域には宝物が溢れています。いっしょに探してみませんか。ニューツーリズムを通じて地域が元気になるお手伝いをいたします。 地域の魅力を再発見して活かさない手はありません。そのために、「地域まるごと・ほりおこし会」の開催をおすすめします。自治体による協働ラウンドテーブルとして実施し、地域にある宝物さがしからはじめ、発掘された地域資源をプログラム化して提供します。	観光・交流 まちづくり
274	米田 雅子	よねだ まさこ	慶應義塾大学理工学部	特任教授	建設産業の再生、農工商連携、林建共働など農林業再生に関わる研究・支援活動を、全国各地をまわり、現地調査や講演を行いながら続けてきました。主なテーマ:「建設業の新分野進出」「建設業と林業で森林再生」、「地方自立・複業のすすめ」、「農工商連携による地域活性化」等 専門分野は、建設産業、建設業の新分野進出への支援(農林業含む)、農工商連携・森林再生の研究・支援活動	地域産業・イノベーション・農工商連携 農・林・水産業
275	萬谷 正幸	よろずや まさゆき	山代温泉観光協会	会長	・「伝統・文化を重視した温泉街づくりのカリスマ」 ・「団体遊興型観光で全国に名を馳せた」温泉観光地から、「個人・時間消費型観光」に対応した地域づくりを図るため、旅館施設の一部開放事業の推進、空き旅館・空き店舗対策事業を同氏自ら率先して着手した。空き店舗対策として開設した同氏自ら運営している「べんがらや」は、地域の活性化事業の礎となっている。また、2003年(平成15年)12月には、「山代温泉新CIコンセプトブック」を7年後の2010年12月に「山代温泉第2次CIプロジェクトの骨子」を策定し、3年後の北陸新幹線開通に向けた山代の魅力づくりの為に3つのテーマを掲げ、新たなゴールを目指して山代温泉のブランドイメージの確立に尽力している。	観光・交流
276	若松 進一	わかまつ しんいち	愛媛大学農学部	客員教授	○夕日をテーマにした地域づくり ○人間牧場を拠点にした地域づくり	まちづくり
277	渡邊 賢一	わたなべ けんいち	一般社団法人元気ジャパン	代表理事	市民の力、メディアの力、企業の力、行政の力を有機的に連携させた地域活性化を推進中。社会的課題をビジネスとして解決するソーシャル・プロデューサー。朝日新聞社では、広告局に所属し、全国各地の高校を連携させた自由研究コンテスト「ジャパン・サイエンス&エンジニアリング・チャレンジ」をプロデュース。2002年より「日本を元気に！元気を日本から！！」をモットーとした市民活動として、元気ジャパンを活動開始し、栃木市の蔵の数々を映画館に変貌させた「とちぎ・蔵の街かど映画祭」や「元気ジャパン農園」、「鎌倉着物日和」、「フレンチ日本映画祭」等をプロデュース。その後、内閣官房 地域活性化統合事務局 主査として、北海道から与那国島まで全国各地や、海外を飛び回り、産官学民メディア連携型の地域づくりを推進。現在は、一般社団法人元気ジャパンを設立し、ソーシャル・プロデューサーとして日本の各地の地域資源を活かしたビジネス創出を推進中。特に海外と連携した地域活性化プロジェクトに力を入れており、フランス「ジャパン・エキスポ」アドバイザー、イタリア「ナポリ・コムン」アドバイザー、イタリア「ルッカ・コミック&ゲームス」アドバイザーとして、欧州市場に向けたインバウンド観光振興と日本の商材の市場拡大を推進中。中国吉林省政府の経済顧問、中国の全国新聞社「大公報」の日本支社である「大公報ジャパン」のシニア・ディレクターに就任し、中国で支持される日本の良質な商材・サービス開発、観光振興等のビジネススキームの創出を推進中。また、文部科学省 理数学生産支援プロジェクト 企画評価委員ならびに、優秀理系学生育成事業企画評価委員に就任し、サイエンス分野の人材育成と官民連携を推進した日本活性化にも取り組んでいる。	地域産業・イノベーション・農工商連携 観光・交流

No.	氏名	ふりがな	所属	役職	取組概要	専門分野
278	渡辺 敏男	わたなべ としお	有限会社 盛岡 設計同人	代表取締役	<p>■盛岡の取り組み—鉾屋町界隈 城下町時代の面影を残す地区に1997年、28mの都市計画道路が決定され、2003年12月に地元住民で盛岡まち並み塾を設立し、事務局を引き受けた。この界隈に残る町家とそのまち並み、寺社及び歴史的建造物群の活用したまちづくりを始めた。歳時記イベント、町家開放、歴史的資源の探訪ツアーを開催し、市民を巻き込んだ活動に発展。盛岡市も盛岡ブランドとして積極的に参画し、「盛岡市街並み保存活用基本計画」を策定し、道路計画見直しを決定し、街並み整備助成事業、拠点施設として、旧岩手川工場活用事業を進めています。</p> <p>2011年、全国町並みゼミ盛岡大会(全国町並み保存連盟)開催しています。</p> <p>■一戸町、岩泉町、大槌町角館町でも同様のとり組みを始め、現在、宮古市の歴史遺産を活用したまちづくりに取り組んでいます。</p>	まちづくり
279	渡邊 法子	わたなべ のりこ	アイ・エス・ケー合 同会社	代表	<p>地域特性を活かしたまちづくり 地域の人材発掘、育成 地域の主体性を核にした自立型、持続型のまちづくり事業 着地型観光のしくみづくり インバウンド(訪日)観光事業</p>	観光・交流 まちづくり